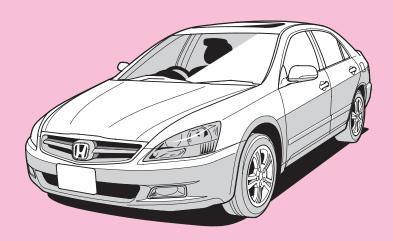
取扱説明書

ご使用の前に
よくお読みください。

INSPIRE

このたびはHonda車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この本は *INSPIRE* の取り扱いについて
必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。

<table>
<tr><td rowspan="3">●運転はルールを守り、マナーよく。
・シートベルトを着用しましょう。
・法定速度を守りましょう。
・子供やお年寄りをいたわりましょう。
・駐停車は、ルールに従いましょう。
・迷惑運転はやめましょう。
・自然環境保護に気をくばりましょう。</td><td>●お車に“⚠ 📖i”の表示があるところは、ご使用前に本書の記載を確認してください。</td></tr>
<tr><td>●取扱説明書は、メンテナンスノートと共に、いつもお車に保管してください。</td></tr>
<tr><td>●お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのためにこの取扱説明書およびメンテナンスノートを車につけておいてください。</td></tr>
<tr><td>●保証や点検整備に関することはメンテナンスノートに記載しておりますので、ご使用前に必ずお読みください。</td><td>●ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。</td></tr>
</table>

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の読みかた

この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明しています。
また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

「安全ドライブのための必読 6 ポイント」

重要ですので、しっかりお読みください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

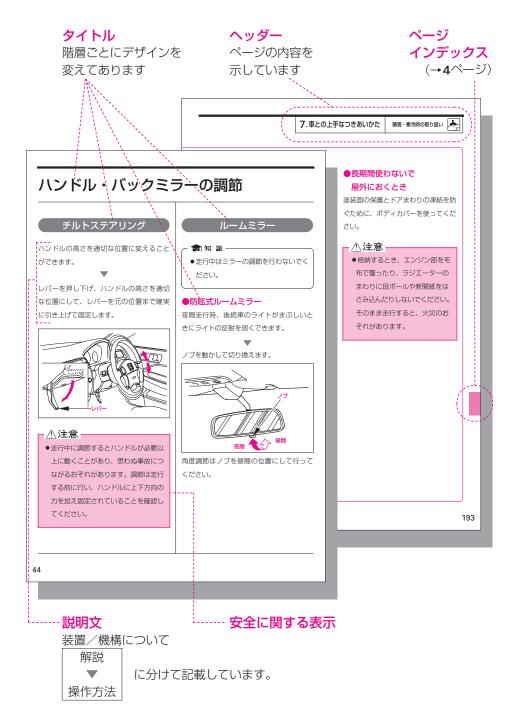
⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

お車のために守っていただきたいこと
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています）

知　識

知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

※このページはサンプルページですので、記載されている内容と実車は異なります。

本書の上手な使いかた

知りたい項目の説明がすぐ探せるように、いろいろな引きかたが用意されています。

タイトルから探すとき

↓

目次(P.5)

ページインデックス:
目次と対応しているので、目的のページが辞書を引くように探せます。

スイッチ類などの名称が
わからないとき

↓

ビジュアル目次
(P.6〜9)

名称から探すとき

↓

さくいん
(P.410〜422)

目　次

ビジュアル目次

※１：HiDSについては、別冊のHiDS取扱説明書をご覧ください。

※２：IHCCについては、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

※３：Hondaインターナビシステムについては、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

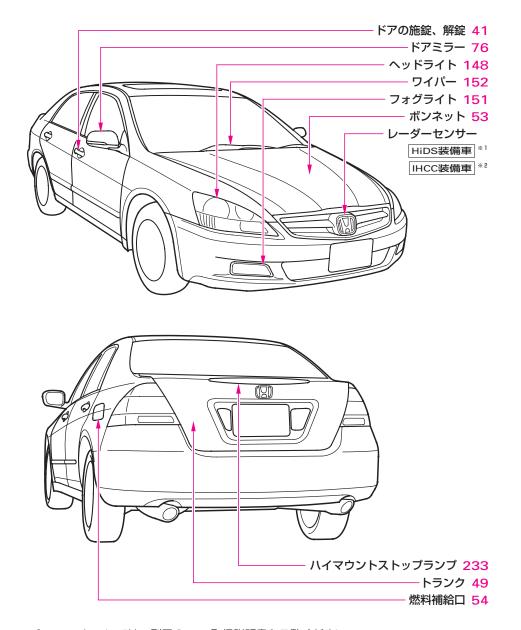
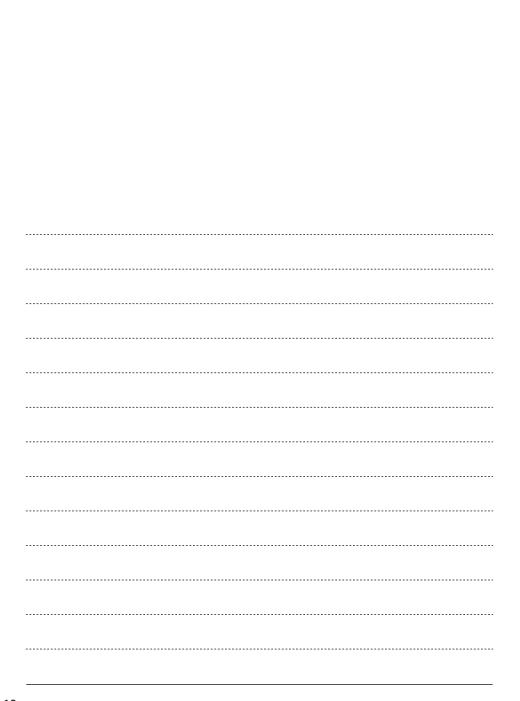
SRSエアバッグシステム（助手席用） 186
サンルーフ タイプ別注文装備 60
オーディオ 268
SRSエアバッグシステム（運転席用） 186
ドライバーズポケット 312
ドアミラー調節スイッチ 76
パワーウィンドー
スイッチ 56
トランクオープナー 50
フューエルリッド
オープナー 55
ボンネット解除ノブ 53
ヒューズボックス 344
エアコン 238
コンソールボックス 312
灰皿 307
リヤサンシェードスイッチ
タイプ別装備 304
グローブボックス 311
発炎筒 320

ビジュアル目次

※：Hondaインターナビシステム装備車については、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

※１：HiDSについては、別冊のHiDS取扱説明書をご覧ください。
※２：IHCCについては、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

安全ドライブのための

必読6ポイント

ご使用の前に知っておいていただきたいこと、
守っていただきたいことをまとめてあります。

1

お出かけまえに･･･

点検をわすれずに。
＜メンテナンスノート参照＞

- 道路運送車両法により、法定定期点検と日常点検が義務づけられています。
  安全・快適にお使いいただくために、Hondaの点検要領に従って必ず点検してください。
  日常点検は車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
- 普段と違う点に気づいたら、Honda販売店で点検を受けてください。
  （音、におい、ブレーキ液の不足、地面に油のあとが残っている時･･･）
- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚などを感じたら早めに点検しましょう。

シートベルトを正しく着用。
＜80ページ参照＞

- 運転する人はもちろん、同乗する人にも必ず着用させてください。
- シートに深く腰かけ、背もたれは必要以上に倒さないでください。
- 腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。

- ベルトにねじれがないか確かめてください。

- ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにしてください。

- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。

燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

引火、爆発のおそれがあります。

運転の妨げになる物には注意を。

- **運転者の足もとに、物を置かないでください。**
- **フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。**

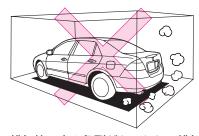
  ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。

- **手荷物はシートの高さを越えないようにしましょう。**

  後方視界を妨げたり、急ブレーキのときなどに荷物がとび出すおそれがあります。

排気ガスには十分に気をつけて。

- **排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。**

  車内や屋内などに排気ガスが充満し一酸化炭素中毒のおそれがあります。

- **排気管に穴や亀裂があったり、排気音の異常に気づいたらHonda販売店で点検を受けてください。**

  車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

2

お子さまに思いやりを

お子さまは、うしろの席に。

● **助手席にのせるのは避けましょう。**

- 不意の動作が気になったり、スイッチ・レバー類のいたずらなど運転の妨げになるおそれがあります。また、事故が起きた場合、後席のほうが安全といわれています。
- インストルメントパネルに手をついたり、顔や胸を近づけた状態での乗車は、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。
- サイドエアバッグ装備車では、フロントドアに寄りかかった状態での乗車は、サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。

お子さまにもシートベルトを。

● **お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシート※をお使いください。**
お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず危険です。

※：乳児用シート、幼児用シート、学童用シートをまとめた総称として「チャイルドシート」と呼んでいます。

● **お子さまのくびやあごにシートベルトがあたる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。**

・シートベルトをそのまま使うと衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。

・チャイルドシートは安全装備です。国土交通大臣が型式を指定または認定したマークが付いているもの、もしくはアメリカやヨーロッパなどの安全基準に合格しているものを必ず選んでください。

・シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。

・この車には、ISO FIX テザータイプのチャイルドシートを固定するための固定専用バーとテザーアンカーが装備されています。
この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ固定し、使用することができます。

ISO FIXテザータイプ
チャイルドシート固定装置
→90ページ

・Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

《選択の目安》
詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIXタイプを除く

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～10	～75	～12か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用(ジュニア)シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIXテザータイプ

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～9	～70	～9か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才

●**チャイルドシートは確実に取り付けてください。**

お子さまを乗せるときは、チャイルドシートが車に確実に取り付けられていることを確認してください。
また、お子さまの体をチャイルドシートにきちんと固定してください。

・ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シートベルトの種類やチャイルドシートの種類と取り付けの向きによっては、固定金具(ロッキングクリップ)が必要になることがあります。

シートベルトの種類　→82ページ
チャイルドシート固定機構付き
シートベルト　→88ページ

・ISO FIX テザータイプのチャイルドシートは、固定専用バーとテザーアンカーを用いて固定します。
テザーアンカーにテザーストラップを結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。
チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。

・ISO FIX テザータイプのチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

ISO FIXテザータイプ
チャイルドシート固定装置
→90ページ

・詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

●**助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。**

・SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け危険です。

・やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。

●**チャイルドシートを取り外したまま車内に放置しないでください。**

ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
お子さまを乗せないときでも確実に取り付けるか、家などに保管してください。

ドア、ウィンドー、サンルーフ、シートの操作は必ず大人が。

- **手、足、顔などをはさまないよう、気をつけてください。**
- **走行する前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。**
  ドアが完全に閉まっていないと走行中にドアが開き、思わぬ事故の原因となります。
- **チャイルドプルーフを使って後席ドアを車内から開かないようにしてください。**
  <47ページ参照>
  走行中にドアを開けると、お子さまが車外に放り出されるおそれがあります。
- **パワーウィンドーのメインスイッチは、“OFF”にしておきましょう。**
  <57ページ参照>
- **走行中、一時停止のときなど、窓やサンルーフから手や頭、物などを出さないよう、注意してください。**
  思わぬ障害物で事故のおそれがあります。

お子さまをシートベルトで遊ばせないで。

- **チャイルドシート固定機構付きシートベルトでは、ベルトをすべて引き出すと完全にベルトを戻すまでは引き出し方向には動きません。**
  ベルトを身体に巻きつけたりして遊んでいると、固定機構が作動してベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

車から離れるときは、お子さまも一緒に連れて。

- **お子さまだけを車内に残さないでください。**
  - 炎天下の車内は、高温になり危険です。
  - お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

3 正しい知識で最適運転

●**走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。**
ハンドル操作の妨げになり大変危険です。

●**走行中はエンジンを止めないでください。**
・ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキの効きが悪くなります。
・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなり、ハンドル操作が重くなります。

長い下り坂ではエンジンブレーキを。

●**ブレーキペダルを踏み続けて走行するとブレーキが過熱して、効きが悪くなることがあります。**

●**長い下り坂では、走行速度に合わせ、エンジンブレーキを併用してください。**
セレクトレバーを②にしてエンジンブレーキを使用してください。
シーケンシャルモードのときは、ギヤを１段ずつ落としてください。
シーケンシャルモードでは１速↔２速は自動変速となり、１速で走行中に速度が上がると２速に変速します。
速度が出すぎるときは、セレクトレバーを②にして、Ｌスイッチを押してＬ（ロー）モードにし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。

エンジンブレーキ：
走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤほどよく効きます。

霧が出たときは。

●霧が出たときは、視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレールや前の車の尾灯などをめやすにして、速度を落として運転してください。

横風の強い日は。

●横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げて進路を立て直してください。

トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通し、大型トラックを追い越したり、追い越されたりするときなどには、特に横風の影響を受けやすいので十分注意してください。

雨天時の走行には注意を。

- **雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため、通常より注意深い運転が必要です。**
  急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落として安全運転に心がけてください。
- **わだちなどの水のたまりやすい場所では、ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。**
  ハイドロプレーニング現象とは
  →396ページ
- **冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。**
  エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

水たまりに入ったあとはブレーキの効き具合を確認。

- **水たまり走行後や洗車後は、低速で走行しながらブレーキペダルを軽く踏んで効き具合を確認してください。**
  ぬれたブレーキは効きが悪かったり、ぬれていない片側だけが効いてハンドルをとられることがあります。
- **ブレーキの効きが悪いときは、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。**

走行中異常があったら。

- **警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。** **<126ページ参照>**
  点灯したまま走行を続けると、思わぬ事故のもとになったり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- **走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。**
  急ブレーキや急ハンドルは車のコントロールを失うことがあり危険です。
- **床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。**
  ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

4

オートマチック車の注意ポイント

オートマチック車は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。
「オートマチック車の運転のしかた」もあわせてお読みください。
<171ページ参照>

オートマチック車の特性を正しく理解。

クリープ現象とは

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがPN以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。
  これをクリープ現象といいます。

キックダウンとは

- Dで走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り換わり、エンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。
  これをキックダウンといいます。

1 ブレーキは右足で。

- ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけましょう。
  不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。

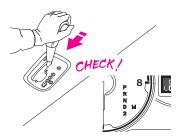
2 エンジンをかけるまえに。

- ペダルの踏みまちがいのないよう、右足でペダルの位置を確認しておきましょう。

3 エンジンをかけるとき。

- 安全のため、セレクトレバーは駆動輪が固定されるⓅでエンジンをかけましょう。

4 スタートするとき。

- 思いちがいを防ぐため、セレクトレバーの位置を目で確認しましょう。

- 発進時のセレクトレバーの操作は、右足でブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行いましょう。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。
  急発進して思わぬ事故のもとになります。
- エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
  エアコン作動時も同じです。
- 坂道での発進は車が後退しないように必ずパーキングブレーキを併用し、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

5 走行しているとき。

- **走行中は、セレクトレバーをⓃにしないでください。**
  エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故のもとになります。

- **上り坂で、速度を保とうとしてアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより、急にエンジン回転が上がり、思ったより速度が出てしまうことがあります。**
  アクセルペダルは、慎重に操作してください。
  また、すべりやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダル操作は避けてください。
- **下り坂では、エンジンブレーキも使いましょう。**
  フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

エンジンブレーキ　→18ページ

6 停車しているとき。

- **車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけましょう。**
- **停車中の空ぶかしは、やめましょう。**
  万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外のとき、思わぬ急発進のもとになります。

7 駐車するとき。

- **駐車するときは、パーキングブレーキをかけてセレクトレバーをⓅに入れ、エンジンを止めましょう。**
  万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み込んで急発進したりするおそれがあります。

ほかに気をつけたいこと。

- **セレクトレバーは正しい位置で使用してください。**

  坂道などで、前進(D、2、M)の位置にしたまま惰性で後退したり、後退(R)の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

- **後退したあとは、すぐRからNにもどす習慣をつけましょう。**

  ちょっと後退したときなど、Rに入れたことを忘れてしまうことがあります。

- **前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。**

  車が完全に止まらないうちにレバーを操作すると、トランスミッション破損のおそれがあります。

- **車が完全に止まらないうちに、Pに入れないでください。**

  急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッション破損のもとになります。

シフトロック装置の正しい理解を。

- **ブレーキペダルを踏んでいないと、Pからのセレクトレバー操作はできません。**
  - エンジンスイッチが、“Ⅰ”または“0”のときには、ブレーキペダルを踏んでも、レバーは操作できません。
  - セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。

- **P以外では、エンジンスイッチからキーは抜けません。**

  P以外では、キーが“Ⅰ”から“0”に回りません。

- **Rに入れるとチャイムが鳴ります。**
  - セレクトレバーがRのときにチャイムが鳴り、Rに入っていることを運転者に知らせます。
  - 車外の人には音が聞こえませんので、ご注意ください。

- **万一、Pからセレクトレバーが操作できないときは:**
  - カバーを外し、

    →174ページ
  - キーをシフトロック解除穴に差し込み、
  - キーを押しながら、セレクトレバーを操作します。

5 駐車や停車はしっかりと

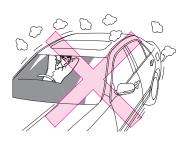
可燃物には注意を。

- **枯草や紙、油、木材など燃えやすい物があるところには、駐停車しないでください。**
  排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植込みなどにも注意して。

- **植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。**

仮眠するときはエンジンを止める。

● **エンジンを必ず止めてください。**
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
また、無意識にアクセルペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生するおそれがあります。
さらに風向や周囲の状況等によっては、車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒のおそれもあります。

車から離れるときには施錠を。

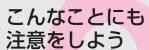
● **必ずパーキングブレーキをかけ、エンジンを止め、ドアを施錠してください。**
● **車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。**
● **お子さまも連れていきましょう。**

車の移動はエンジンをかけて。

● **車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。**
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。

坂道での駐車は。

● **パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを🄿に入れてください。**
さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

こんなことにも注意をしよう

タバコの吸いがらは火を消して。

- **タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。**
- **灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすい物を入れたりしないでください。**

アクセサリーの取り付けには注意を。

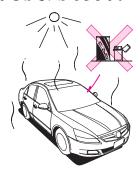
- **運転視界の中にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  - ・視界の妨げにより思わぬ事故のもとになります。
  - ・アクセサリーなどの揺れる動きが、車外の状況認識を遅らせることがあります。
- **ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  - ・吸盤がレンズのはたらきをして火災につながるおそれがあります。

飲み物などを電装品にこぼさないように注意して。

オーディオやスイッチなどの電装品に飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。

万一、電装品に飲み物をこぼしたときは、Honda販売店にご相談ください。

車内にライターや炭酸飲料缶などを放置しないで。

炎天下での駐車などで車内温度が上昇すると、ライターなどの可燃物は自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

ラジエーターキャップに気をつけて。

● **ラジエーターキャップが熱いときは、外さないでください。**

蒸気や熱湯が吹き出し危険です。

動物を乗せるときは、動きまわらないように注意して。

運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあります。

携帯電話の使用は停車中に。

● **運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。**

・運転者が運転中にハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。

・運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造はしない。

● **Honda純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、使用しないでください。**

・適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。

・Hondaが国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違反になることがあります。

● **ホイールは、INSPIRE専用品をご使用ください。**

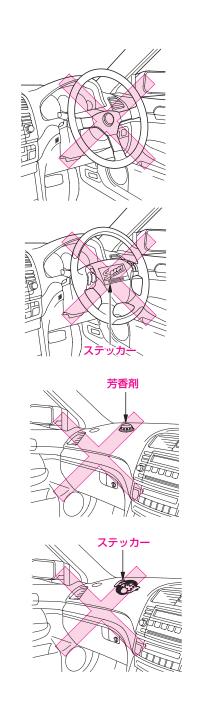
専用品以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすことがあります。

Honda販売店にご相談ください。

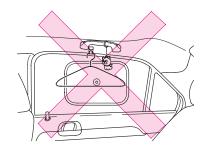
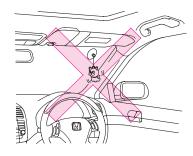
● **無線装置や自動車電話などの取り付けの際には、必ずHonda販売店にご相談ください。**

装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

● **運転席および助手席に、SRSエアバッグシステムが装備されています。**
ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりしないでください。
インストルメントパネル上面には、ステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。

・SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①ハンドルまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
⑤インストルメントパネルまわりの修理

●運転席および助手席用サイドエアバッグシステム装備車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどの用品を取り付けたりしないでください。
フロントシートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
フロントシートにこの車専用のHonda純正用品（シートカバーなど）以外を取り付けないでください。
また、新車時についているビニールのシートカバーは、必ず外してください。

・サイドエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①フロントシートまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④センターピラーまわりの修理

- **サイドカーテンエアバッグシステム装備車は、グラブレールに物をかけないでください。**
  コートフックには、ハンガーや重い物、とがった物をかけたりしないでください。
  フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けないでください。
  また、座席に荷物を載せるときは、ドアガラス下端部の高さを越えないようにしてください。
  - サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなります。
  - 作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
  - 次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
    ①フロント、センター、リヤの各ピラーまわりの修理
    ②ルーフサイドまわりの修理
    ③センターコンソール付近の修理
    ④カーステレオ等用品の取り付け

発進するときは、まわりの状況に十分注意して。

車のまわりには運転席から見えないところ(死角)があります。発進するときは子供や障害物など車のまわりの状況に十分注意してください。

● 駐車後に発進するときは、車のまわりの安全確認を十分に行ってください。

● 後退するときに十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方を確認してください。
  バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。

● 信号待ちなどの停車後に発進するときは、つねにまわりの状況に目を配り、安全確認を十分に行ってください。

エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから。

● エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。エンジンルーム内を点検する場合は、ファンが止まってから行ってください。

1

車を運転する前に

●各部の開閉

●セキュリティーシステム

●シートの調節

●ハンドル・バックミラーの調節

●シートベルト

●チャイルドシート固定装置

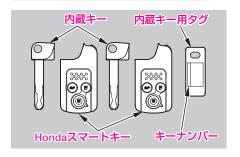
各部の開閉

キーの種類

この車には、以下のキーが付いています。すべてのキーには、イモビライザー機能(車両盗難防止装置)が付いています。

イモビライザーシステムについて
→62ページ

Hondaスマートキーシステム非装備車

Hondaスマートキーシステム装備車

知　識

- タグにはキーナンバーが表示してあります。キーを購入する際に必要となりますので、紛失しないように、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
- キーを紛失したときや、追加したいときは、Honda販売店へご連絡ください。

●キー

Hondaスマートキーシステム非装備車

キーは、エンジンの始動、停止のほかに、ドアとトランク、グローブボックスの施錠・解錠に使えます。

ドアの施錠・解錠 →41ページ
エンジンのかけかた →160ページ

●キーレスエントリー一体キー

Hondaスマートキーシステム非装備車

キーは、エンジンの始動、停止のほかに、ドアとトランク、グローブボックスの施錠・解錠に使えます。
キーレスエントリーでは、ドアとトランクの施錠・解錠およびトランクを開けることができます。

ドアの施錠・解錠 →41ページ
トランクボタン →50ページ
エンジンのかけかた →160ページ

アドバイス

- キーおよびキーレスエントリー一体キーには、信号を発信するための精密な電子部品が組み込まれています。
  電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - 直射日光が当たるところ、高温、多湿になるところには置かないでください。
  - 衝撃を与えないでください。
  - 水にぬらさないでください。
  - 分解しないでください。
  - 火であぶったりしないでください。
- 電子部品が故障すると、エンジンの始動ができなくなったり、キーレスエントリーが正常に作動しなくなったりします。
  そのようなときは、Honda販売店にご連絡ください。

知　識

- キーレスエントリーは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

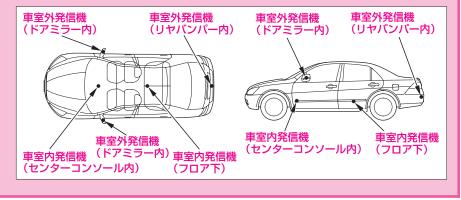
●Hondaスマートキー（キーレスエントリー機能付き）

Hondaスマートキーシステム装備車

Hondaスマートキーを携帯することで、ドアとトランクの施錠・解錠やエンジンの始動、停止およびトランクを開けることができます。
キーレスエントリーでは、ドアとトランクの施錠・解錠およびトランクを開けることができます。

ドアの施錠・解錠 →41ページ
トランク →49, 50ページ
エンジンのかけかた →160ページ

⚠注意

● ドアやトランクを施錠・解錠するときやエンジンスイッチを操作するとき、トランクを開けるときなどに車両からHondaスマートキーシステムの電波が発信されます。
その際、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える可能性があります。
車両に搭載されている発信機から22cm以内に植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器が近づかないようにしてください。
その他の医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

●内蔵キー

Hondaスマートキーシステム装備車

内蔵キーはエンジンの始動、停止のほかに、ドアとトランク、グローブボックスの施錠・解錠に使えます。

ドアの施錠・解錠　→41ページ
エンジンのかけかた　→160ページ

Hondaスマートキーの電池が消耗したときや故障したときなどを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納した状態で携帯してください。

取り出すとき

レバーを引きながら取り出します。

収納するとき

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

アドバイス

●Hondaスマートキーおよび内蔵キーには、信号を発信するための精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
・直射日光が当たるところ、高温、多湿になるところには置かないでください。
・衝撃を与えないでください。
・水にぬらさないでください。
・分解しないでください。
・火であぶったりしないでください。
・磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
・テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。

●電子部品が故障すると、エンジンの始動ができなくなったり、Hondaスマートキーシステムおよびキーレスエントリーが正常に作動しなくなったりします。
そのようなときは、Honda販売店にご連絡ください。

知　識

●Hondaスマートキーシステムは、車両とHondaスマートキーとの電子照合を行うときに微弱な電波を使用しています。
次のような場合、正常に作動しなかったり、不安定な動作となることがあります。
・近くに強い電波を発する設備があるとき。
・Hondaスマートキーを携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンなどと一緒に携帯しているとき。
・Hondaスマートキーが金属物に触れていたり覆われているとき。

●Hondaスマートキーは常に電波を受信しているため、強い電波を受信し続けた場合は、電池を著しく消耗することがあります。
テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

●Hondaスマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況によりますが約２年です。

電池消耗警告　→147ページ
電池交換のしかた　→363ページ

ドアの施錠・解錠

⚠注意

●走行する前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。完全に閉まっていないと、走行中にドアが開き思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

知 識

●ドアは不用意に開けると後続車などがぶつかることがあるので周囲の安全を確かめてから開けてください。
●強風時にドアを開閉するときは、風にあおられないよう注意してください。
●車から離れるときは、エンジンを止め、ドアを必ず施錠してください。また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
●運転席ドアの解錠・施錠に連動して、室内灯が点灯・消灯します。

室内灯 →300ページ

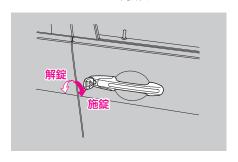
●キーで施錠・解錠するとき

Hondaスマートキーシステム非装備車

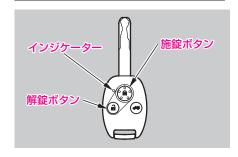
キーを確実に差し込んで回します。
運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアとトランクも同時に施錠(解錠)します。

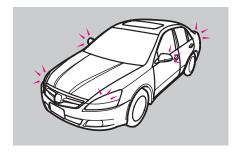
Hondaスマートキーシステム装備車

内蔵キーを確実に差し込んで回します。
運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアとトランクも同時に施錠(解錠)します。

内蔵キー →39ページ

●キーレスエントリーで施錠・解錠するとき

施錠ボタンを押すとすべてのドアとトランクが施錠され、解錠ボタンを押すとすべてのドアとトランクが解錠されます。

Hondaスマートキーシステム非装備車

Hondaスマートキーシステム装備車

キーレスエントリーで施錠・解錠を行うと、非常点滅表示灯が施錠時は1回、解錠時は2回点滅します。

知　識

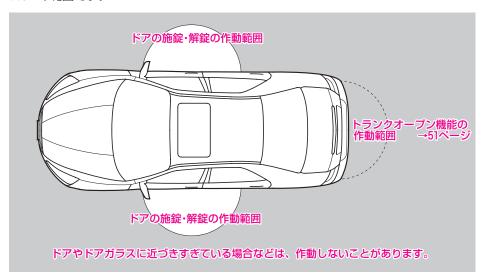
- 作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので、早めに電池を交換してください。ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は電池切れです。

  電池交換のしかた　→363ページ
- キーレスエントリーで解錠してから約30秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- 次の場合、キーレスエントリーは作動しません。
  - ・エンジンスイッチが“0”以外のとき。
  - ・エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき。
  - ・ドアが開いているとき。

●Hondaスマートキーで施錠・解錠するとき

Hondaスマートキーシステム装備車

ドアの施錠・解錠の作動範囲

ドアの施錠・解錠が作動する範囲は、運転席または助手席ドアハンドルから周囲約80cmの範囲です。

Hondaスマートキーは運転者が携帯してください。車内にHondaスマートキーを残したまま降車しないでください。

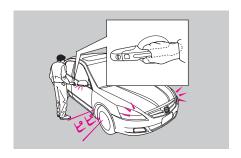
知 識

- Hondaスマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動が不安定になることがあります。
  そのようなときは、内蔵キーを使用してください。
  キーで施錠・解錠するとき →42ページ
- ドアハンドルより約80cm以内の距離でも、Hondaスマートキーが地面の近くや高い位置にある場合は、作動しないことがあります。
- 運転席ドアが施錠されているときに、トランクを閉めると、トランクも施錠されます。Hondaスマートキーをトランク内に置き忘れないでください。
  トランクの解錠の作動範囲 →51ページ

ドアの施錠

すべてのドアが閉まっているのを確認します。運転席または助手席ドアハンドルのロックボタンを押すと、すべてのドアとトランクが施錠されます。このとき、アンサーバックブザーが“ピッ”と鳴り、非常点滅表示灯が１回点滅します。

ドアの解錠

運転席または助手席ドアハンドルを握ると、すべてのドアとトランクが解錠されます。このとき、アンサーバックブザーが“ピピッ”と鳴り、非常点滅表示灯が２回点滅します。

知 識

- Hondaスマートキーで解錠してから約30秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- Hondaスマートキーを携帯している人が同じ側の作動範囲内にいるときは、Hondaスマートキーを携帯していない人がロックボタンを押しても施錠され、ドアハンドルを握っても解錠されます。
- 革製やスキー用の手袋などをつけてドアハンドルを握った場合、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルをもう一度握り直し、解錠されていることを確認してから引いてください。
- Hondaスマートキーがドアの施錠・解錠の作動範囲内にある場合、大雨や洗車などでドアハンドルに多量の水がかかると、ドアとトランクが解錠されることがあります。解錠してから30秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- ドアを施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握ってもドアは解錠しないようになっています。
- 施錠・解錠時のブザー(アンサーバックブザー)の音量を変えることや、ブザーが鳴らないようにすることができます。

カスタマイズ機能

Hondaスマートキーシステムでは、以下の機能の設定を変更することができます。

機能	工場出荷時の設定	変更できる設定内容
アンサーバックブザー音量 (→45・52ページ)	大	小
アンサーバックブザー作動 (→45・52ページ)	作動	非作動

カスタマイズ機能の詳細については、Honda販売店にご相談ください。

●車内から施錠・解錠するとき

運転席ドア

運転席ドア部のスイッチを操作すればすべてのドアとトランクの施錠(解錠)ができ、ノブを操作すると、ドアは施錠のみ連動し、トランクは施錠、解錠が連動します。

運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していても開けることができます。

その他のドア

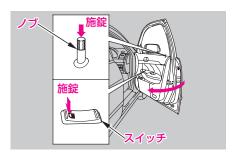
ノブを施錠(解錠)の方向に動かします。

●キーを使わないで施錠するとき

知　識

- キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

運転席ドア

①ノブまたはスイッチを施錠の方向に動かします。

②ドアを閉めます。

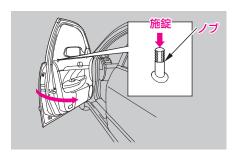
運転席ドアを施錠すると、他のすべてのドアとトランクも同時に施錠されます。

・**キー閉じ込み防止装置**
キーがエンジンスイッチに差し込まれたままだと、施錠できません。

Hondaスマートキーシステム装備車
Hondaスマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

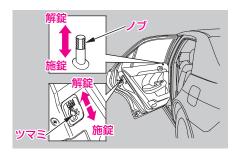
エンジン始動の作動範囲　→141ページ

その他のドア

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めます。

●チャイルドプルーフ

ノブの位置に関係なく、後席ドアが車内から開かなくなります。お子さまを乗せるときなどにお使いください。

▼

ツマミを施錠の位置にしてドアを閉めます。

ドアを開く場合は、外側のドアハンドルで開けます。

知　識

- 車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

トランク

⚠注意

- トランクを閉めるときは手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- トランクルーム内には人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- トランクは中から開けることはできません。お子さまが入らないよう注意してください。

アドバイス

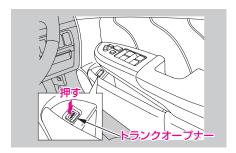
- トランクが開かないとき

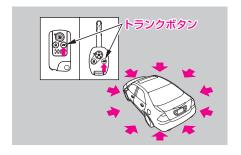
→362ページ

知　識

- トランクを開けたまま走行しないでください。
  車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- トランクを閉めるときは次のことに気をつけてください。
  - ・Hondaスマートキーまたはキーをトランク内に置き忘れないでください。
  - ・トランク上面を強く押さえないでください。
- トランクは途中までしか開けていないと自重で閉まることがあります。
- 風にあおられて閉まることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- トランクを開けるときは、トランクを静かに引き上げてください。

●トランクオープナーで開けるとき

運転席ドアにあるトランクオープナーを押すと解錠され、トランクが浮き上がります。

●キーレスエントリーで開けるとき

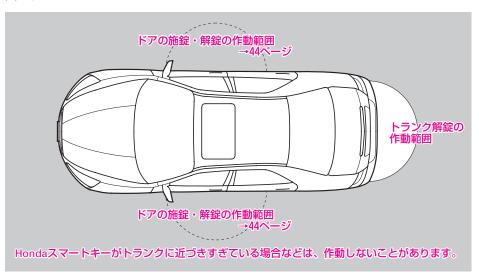
トランクボタンを約１秒押すとトランクが解錠され浮き上がります。

●トランクオープンスイッチで開けるとき

運転席ドアを解錠(施錠)すると、他のすべてのドアとトランクも同時に解錠(施錠)します。

ドアの施錠・解錠　→41ページ

トランクが解錠されているときにトランクオープンスイッチを押すと、トランクが浮き上がります。

●Hondaスマートキーを携帯して開けるとき Hondaスマートキーシステム装備車

トランクオープン機能の作動範囲は、トランクオープンスイッチから周囲約80cmの範囲です。

Hondaスマートキーは必ず携帯してください。トランク内にHondaスマートキーを置かないでください。

知　識

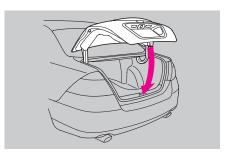
- Hondaスマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動が不安定になることがあります。
  そのようなときは、内蔵キーを使用してください。
  キーで施錠・解錠するとき　→42ページ
- Hondaスマートキーが作動範囲内にあると、Hondaスマートキーを携帯していない人でも、トランクオープンスイッチを押すと、トランクを開けることができます。
- トランクオープンスイッチより約80cm以内の距離でも、Hondaスマートキーが地面の近くや高い位置にある場合は、作動しないことがあります。
- 解錠時のブザー(アンサーバックブザー)の音量を変えることや、ブザーを鳴らないようにすることができます。
  カスタマイズ機能　→46ページ

Hondaスマートキーを携帯してトランクオープンスイッチを押すと、トランクが解錠され浮き上がります。このとき、アンサーバックブザーが“ピッ”と鳴ります。

知　識

- 運転席ドアが解錠されているときは、アンサーバックブザーは鳴りません。

●閉めるとき

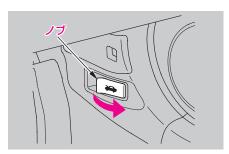
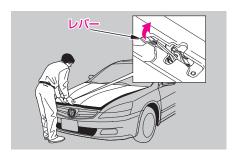
トランクを確実に閉めます。

知　識

- 運転席ドアが施錠されているときに、トランクを閉めると、トランクも施錠されます。
  運転席ドアが解錠されているときは、トランクを閉めても、トランクは施錠されません。

ドアの施錠・解錠　→41ページ

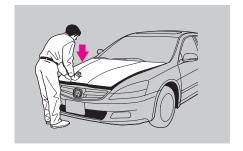
ボンネット

●開けかた

①運転席足元のノブを引きます。

②ボンネット前部が少し浮き上がるので、レバーを上へ押しながら開けます。

知　識

- ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けないでください。ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷します。

●閉めかた

ボンネットを静かに下げ、ボンネット中央前端のロック部を手で押さえつけるように閉めます。

ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

⚠注意

- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。

知　識

- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くことがあります。走行前に必ず確認してください。
- ボンネットが閉まりにくいときは、ボンネットを少し開けてから下に軽く勢いをつけ、押し付けて閉めてください。

燃料補給口

燃料補給口は車の左側後方にあります。

指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
（無鉛ハイオクも使用可能）

タンク容量：65ℓ

アドバイス

- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
  - ・有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。
  - ・高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
  - ・軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

●燃料補給のしかた

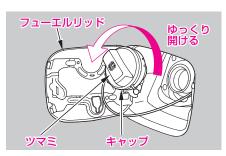
⚠警告

- 燃料補給時は火気厳禁です。
  燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。
  - ・エンジンは必ず止めてください。
  - ・タバコなどの火気を近づけないでください。
  - ・こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
  - ・燃料の取り扱いは、屋外で行ってください。
- 燃料補給作業は身体の静電気を除去してから行ってください。
  静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

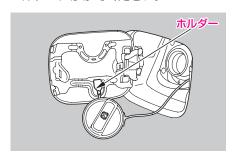
知　識

- 車体や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料補給作業は、静電気を放電した人のみで行ってください。
- 燃料補給中に車内にもどったりすると再び帯電することがあります。再度、静電気を除去してください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

①運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引き上げてリッドを開けます。

②フューエルキャップを開ける前に、身体の静電気除去を行います。
③ツマミを持ってキャップをゆっくり回して開けます。

⚠注意

- キャップはゆっくり開けてください。
  急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

④キャップはフューエルリッドにあるホルダーにかけてください。

⑤給油ノズルを奥まで差し込んで補給します。
燃料タンクが満タンになると給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

⚠注意

- 給油ノズルの自動停止後は、追加補給しないでください。
  気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

知　識

- 気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

⑥キャップを“カチッ”という音が1回以上するまで締め付けます。フューエルリッドは手で押さえつければ閉まります。

⚠注意

●キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
確実に閉まっていないと走行中に燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが“II”のとき、ウィンドーの開閉ができます。

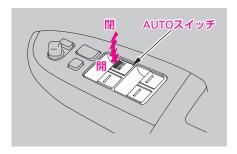
▼

開閉は、それぞれのドアにあるスイッチで操作します。

・運転席スイッチは、助手席および後席ウィンドーも操作できます。

●運転席ウィンドーの開閉

スイッチを軽く操作している間、作動します。
強く操作すると、自動で全開(全閉)します。

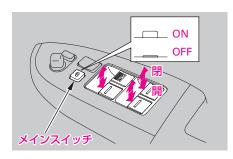
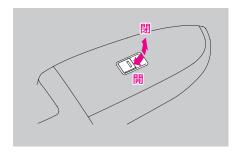
開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。

自動開閉中にウィンドーを停止させるときは、スイッチを作動方向とは逆へ軽く操作します。

●運転席以外のウィンドーの開閉

メインスイッチを“ON”にしてから、スイッチを操作します。
メインスイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。

スイッチを操作している間、作動します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。

・運転席ドアスイッチ

・その他のドアスイッチ

運転席以外のウィンドーを動かなくしたいとき(メインスイッチ)

メインスイッチを“OFF”にしておけば、運転席以外のウィンドーは作動しません。

⚠警告

●パワーウィンドーを閉めるときは、手や顔などをはさまないようにしてください。
ドアガラスにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

●車から離れるときはキーを抜き、お子さまも一緒に連れて行ってください。
いたずらなど誤った操作をして思わぬ事故につながるおそれがあります。

知　識

●ウィンドーの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
●小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、メインスイッチを“OFF”にしておきましょう。
●後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

●キーオフオペレーション（運転席のみ）

エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしてから、約45秒間は、運転席パワーウィンドーの操作ができます。
ただし、エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしてから約45秒以内に、前席ドアを開けてから閉めると、パワーウィンドーの操作はできなくなります。

●はさみ込み防止機構（運転席のみ）

運転席ウィンドーを自動で閉じているときに、窓枠とドアガラスの間に異物のはさみ込みを検知するとはさみ込み防止機構が作動し、ドアガラスの上昇が停止して自動で下降します。

⚠注意

- ウィンドーを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように注意してください。

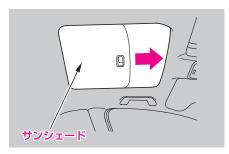
知　識

- 故障などではさみ込み防止機構が作動してしまい、ウィンドーを自動で閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
- 環境や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
- バッテリーやヒューズを交換した場合は、オート作動ができなくなります。
  その場合は、エンジンを始動しドアガラスを一番下まで下げてから、スイッチを引き上げ続け、ウィンドーを閉め切った状態で、約1秒間スイッチを保持すると機能が復帰します。

サンルーフ

タイプ別注文装備

●サンシェード(遮光板)

サンシェードは手動で開閉します。
サンルーフを開けると同時に開きます。
サンルーフが開いた状態ではサンシェードは全閉できません。

知 識

- サンシェードは全開か全閉の位置で使ってください。途中で止めて使うと、走行中の振動で音が出ることがあります。

●開閉

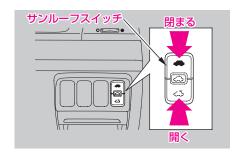
エンジンスイッチが“II”のときサンルーフの開閉ができます。

▼

チルトアップ操作

チルトアップスイッチを押すと、サンルーフ後部が上がります(チルトアップ状態)。サンルーフスイッチの上部を押すと閉まります。

開閉操作

サンルーフスイッチを押している間、サンルーフが作動します。

⚠警告

●サンルーフを開閉するときは、手や顔などをはさまないようにしてください。
サンルーフにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

●走行中または一時停止時にルーフ開口部から頭や手、物などを出さないでください。
思わぬ障害物や急ブレーキをかけたときなどに事故につながるおそれがあります。

アドバイス

●サンルーフやルーフ開口部の縁に腰をかけたり荷物を乗せるなどの大きな力を加えないでください。
サンルーフが破損するおそれがあります。

●降雪時、厳寒時などには凍結することがあります。このような場合は故障の原因となるので作動させないでください。

●サンルーフが作動しないとき
→361ページ

知　識

●車から離れるときや洗車のときは、サンルーフが完全に閉まっていることを確かめてください。

●降雨後や洗車後はルーフ上の水を除去してから開けてください。また、積雪時にはルーフ上の雪を除去してから開けてください。室内に水や雪が入るおそれがあります。

セキュリティーシステム

セキュリティー(盗難防止)システムは、イモビライザーシステムとセキュリティーアラームシステムにより、お車を盗難から守るための装置です。

イモビライザーシステムについて

キーに信号を発信する電子部品があり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

アドバイス

- システムを改造したりしないでください。
  エンジンシステムが故障するおそれがあります。

イモビライザーシステムは、車両とキーとの電子照合を行うとき、微弱な電波を使用しています。次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができないことがあります。

イモビライザーシステム表示灯

→123ページ

- 近くに強い電波を発する設備があるとき。
- キーが金属物に触れたり覆われているとき。

- 他の車両のイモビライザーシステム用のキーが近くにあるとき。

セキュリティーアラーム システムについて

このシステムは、キー、キーレスエントリーあるいはHondaスマートキーを使わずにドア、トランクを開けたり、ボンネットを開けたりすると警報装置が作動し、ホーンを鳴らし、同時に非常点滅表示灯を点滅させます。

●警報装置について

警報装置は、セキュリティーアラームシステムがセットされているときに次のようなことのいずれかを行うと作動します。

・ドアまたはトランクをキー、キーレスエントリーあるいはHondaスマートキーを使わずに開けようとしたとき。
・トランクやボンネットをこじ開けようとしたとき。
・エンジンスイッチを“II”にしたとき。

警報装置が作動すると、ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。
警報装置は、セキュリティーアラームシステムを止めるまで最大５分間作動します。（ホーンおよび非常点滅表示灯は１回の警報作動につき約30秒間作動し、その警報作動が最大10回行われます。）

警報装置の止めかた

キー、キーレスエントリーあるいはHondaスマートキーで解錠すれば、その時点で警報装置は止まります。

●セットのしかた

次の操作がすべて行われると自動的にセキュリティーアラームシステムがセットされます。

・エンジンスイッチを"0"にしてキーを抜く。
・ボンネットを閉める。
・すべてのドアとトランクを閉め、施錠する。

上記がすべて行われると、メーター内にある作動表示灯が点滅を始めます。約15秒後に点滅間隔が変わり、セキュリティーアラームシステムがセットされたことを知らせます。

作動表示灯は、セキュリティーアラームシステムがセットされている間は、点滅を続けます。

セットを解除するときは、キー、キーレスエントリーあるいはHondaスマートキーで解錠します。作動表示灯が消灯し、セットが解除されたことを知らせます。

知　識

●車から離れるときは、セキュリティーアラームシステムがセットされ、作動していることを作動表示灯で確認してください。

●ボンネット、ドア、トランクのすべてが完全に閉まっていないと、セキュリティーアラームシステムはセットされません。

●車内に人が乗っている状態またはウィンドーやサンルーフが開いた状態でもセキュリティーアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐため、人が乗っている状態またはウィンドーやサンルーフが開いた状態ではセキュリティーアラームシステムをセットしないでください。

●セキュリティーアラームシステムをセットしたあとに、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電・交換をする際は、警報装置が作動する場合がありますので、キー、キーレスエントリーあるいはHondaスマートキーでドアを解錠し、セキュリティーアラームシステムを解除してください。

シートの調節

正しい運転姿勢

運転者は正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。

同乗者も、シートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。
助手席同乗者はインストルメントパネルに顔や胸が必要以上に近づかないように、シートを後ろに下げます。

⚠警告

- シートに深く腰かけてください。
  また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRSエアバッグに必要以上に近づくと、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - ・運転者は正しい運転姿勢がとれる範囲で、シートを後ろに下げてください。
  - ・助手席同乗者はインストルメントパネルに近づかないように、シートを後ろに下げてください。

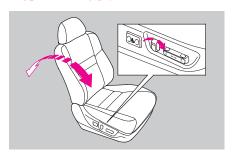
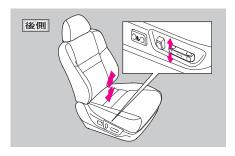
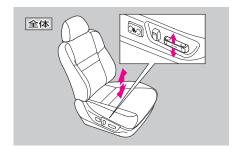
⚠注意

- 走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  調節は走行する前に行い、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 背もたれと背中の間にクッションなどをいれないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。
- フロントシートの下に物を置かないでください。
  物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントパワーシート

タイプ別装備

●前後位置の調節

●背もたれの調節

●高さの調節（運転席のみ）

●ランバーサポート（運転席のみ）

背もたれ腰部の硬さを調節できます。

▼

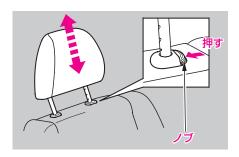
スイッチ操作により、背もたれ腰部の硬さを調節できます。お好みの硬さでお使いください。

●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

⚠警告

- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
  衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
  走行前に必ず正しい位置に調節してください。

フロントマニュアルシート

タイプ別装備

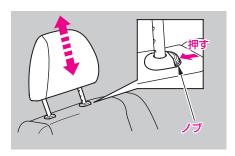
●前後位置の調節

●背もたれの調節

●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

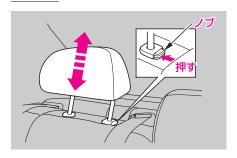
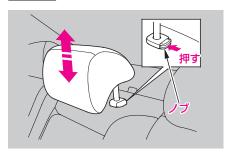
⚠警告

●ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
走行前に必ず正しい位置に調節してください。

リヤシート

●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

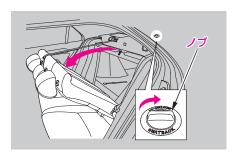
左右座席

中央座席

⚠警告

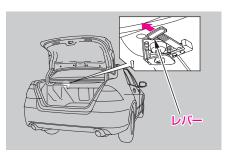
- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
  衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
  走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●背もたれの倒しかた

ヘッドレストがフロントシートにあたるときは、ヘッドレストを外してください。

室内から行うとき

リヤシェルフにあるノブを右に回すとロックが解除され、背もたれを倒すことができます。

トランクから行うとき

レバーを引くとロックが解除され、背もたれを倒すことができます。

●起こしかた

後ろへ押しつけて固定します。

⚠注意

- シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意してください。

知 識

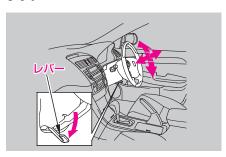
- 背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないようにしましょう。はさまれると正しく着用できません。
- 背もたれを起こしたときは、背もたれを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

ハンドル・バックミラーの調節

チルト／テレスコピックステアリング

ハンドルの高さおよび前後位置を適切な位置に変えることができます。

▼

レバーを押し下げ、ハンドルの高さおよび前後位置を適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。

⚠注意

- 走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下前後方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知 識

- 走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

自動式 タイプ別装備

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を自動的に弱くできます。

▼

エンジンスイッチが“II”で、オートミラースイッチが“ON”のとき作動します。オートミラースイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。“ON”のとき表示灯が点灯します。
後続車のライトでルームミラー内のセンサーが周囲より明るい光を感知すると、自動的にライトなどの反射が弱くなります。
セレクトレバーを\[R\]に入れているときは解除されます。

知　識

- OFFのときに、エンジンスイッチを"Ｉ"にすると、AUTOの状態に戻ります。
- アクセサリーをつり下げてセンサーをふさいだり、ガラスクリーナーを吹きかけたりしないでください。センサーの感度が悪くなったりして、正しく作動しなくなることがあります。

手動式

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。

角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

ドアミラー

🎓 知　識

- ミラーを格納したまま走行しないでください。また、走行中はミラーの調節を行わないでください。
- ミラーを格納するときは、周囲の人の手などをはさまないようにしてください。

●格納のしかた

エンジンスイッチが“II”のとき、スイッチで左右のミラーをたたむことができます。

格納スイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

エンジンスイッチが“0”または“I”のときは手動で操作ができます。

🎓 知　識

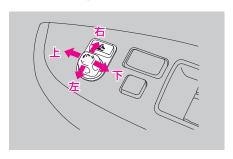
- 次の場合は手動で操作しても、ミラーは自動的に格納スイッチの状態に戻ります。
  - ・エンジンスイッチが“II”のとき。
  - ・手動で操作したあとにエンジンスイッチを“II”にしたとき。

●角度調節のしかた

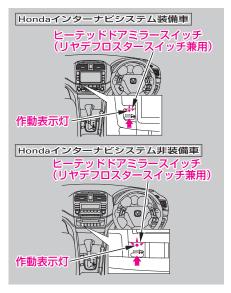
エンジンスイッチが“II”のとき調節ノブを操作すると、ミラーの角度調節ができます。

▼

①調節ノブを調節するミラーの方へ回します。

②調節ノブを動かして角度を調節します。

直接手で鏡面を動かして角度を調節することもできます。

●ヒーテッドドアミラー

ヒーテッドドアミラースイッチ(リヤデフロスタースイッチ兼用)を押すとミラーが暖められ曇りが取れます。

エンジンスイッチが“II”のとき、スイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。

知　識

- ヒーテッドドアミラースイッチを押すと、リヤガラスの曇り取りも同時に機能します。

  リヤデフロスター　→157ページ

- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

●アクアクリーンミラー（親水ミラー）

ミラー表面には、付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングをほどこしており、雨天時などにおける後方視認性を向上させます。

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、水道水をかけて洗い流し、太陽光を当てることにより効果が回復します。

親水効果を早く回復させたいとき
→375ページ

アドバイス

- フロントドアガラスに撥水剤やボディにワックスを塗布するときは、ミラー表面に撥水剤やワックスが付着しないようにドアミラーを布などで覆ってください。
  ミラー表面にこれらの物が付着すると親水効果を失います。
- ミラー表面が凍結しているときは、ヒーテッドドアミラースイッチを“ON”にするか、温水や水道水を使って溶かしてください。解氷剤を使ったり、プラスチックの板を使って削り落とすと、ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらないでください。
  ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。

知　識

- 汚れや水滴を拭き取るときは、きれいな布で拭き取ってください。
- 水洗いでミラーの汚れが落ちない場合は、家庭用中性洗剤を使って柔らかい布でミラー表面を拭き取ることで回復できます。
- 次のようなときは、一時的に親水効果が低下しますが異常ではありません。親水効果は数日間の日射で回復します。
  - ・素手でミラーに触れたり油のついた布などでミラー表面を拭き取ったとき。
  - ・自動洗車機のワックスがミラー表面に付着したとき。
  - ・長期間、地下駐車場など日の当たらないところに駐車したとき。

  親水効果を早く回復させたいとき　→375ページ
- 自動洗車機で洗車するときは、ミラー表面に洗剤やワックスが付着しないようドアミラーを格納してください。

  格納のしかた　→76ページ

シートベルト

シートベルト

シートベルトは、車を運転するまえに運転者は正しい運転姿勢で着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

⚠警告

- シートベルトは全員が着用してください。
  着用しないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。
- シートに深く腰かけてください。また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにもシートベルトを着用させるか、チャイルドシートをお使いください。
  お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けたり死亡するおそれがあります。

⚠注意

- シートベルトを正しく着用していないと本来の機能をはたさず、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
  - ・腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。ベルトが腰骨からずれていると腹部などに強い圧迫を受けます。
  - ・ベルトはねじれがないように着用してください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力がかかります。
  - ・ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。
  - ・一本のベルトを二人以上で使用しないでください。
  - ・三点式シートベルトは腕の下に通して着用しないでください。ベルトが肩に十分かかっていないと前方に投げ出されるおそれがあります。
  - ・ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけないでください。
- 妊娠中のかたや疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師に確認してください。
  - ・妊娠中のかたは、ベルトを着用するときは、腰部のベルトを腹部からさけて腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして身体に密着させてください。また、肩部のベルトは腹部からさけて胸部にかかるようにしてください。

●シートベルトの種類

シート	シートベルトの種類
フロントシート	ELR付三点式シートベルト
リヤシート	ELR･ALR付三点式シートベルト

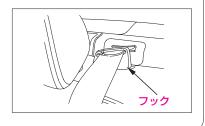
ELR付三点式シートベルト:
体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

ELR･ALR付三点式シートベルト:
通常はELRシートベルトとして機能します。
ALRはチャイルドシートを固定する機構です。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト →88ページ

●三点式シートベルト

知　識

- リヤシートの中央座席用のシートベルトを使うときは、フックから取り外さないでください。

テンションリデューサー(前席のみ)

ベルト着用時の圧迫感を軽減する装置です。エンジンスイッチが"II"でシートベルトを着用したときに、はたらきます。

シートベルトリマインダー(非着用警報装置)

エンジンスイッチを"II"にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯し続けます。

また、エンジンスイッチを"II"にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまで、数秒間ブザーが鳴ります。(ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。)

知　識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも、一定回数を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーをⓇに入れたときは、後退位置警報装置のチャイムが鳴り、シートベルト非着用警告ブザーは鳴りません。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト(後席)

→88ページ

知　識

- 後席シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがすべて引き出されてチャイルドシート固定機構が作動することがあります。
このときは、チャイルドシート固定機構を解除してから再度シートベルトを着用してください。
解除のしかた　→89ページ

シートベルトプリテンショナー(前席のみ)

→210ページ

E-プリテンショナー(前席のみ)

タイプ別装備

→214ページ

●お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せシートベルトを着用させてください。
ただし、装備されているシートベルトは大人用ですので、ベルトがくびやあごに当たる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。シートベルトをそのまま使うと、衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。
お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。

⚠警告

- 助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
  また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。

知　識

- 乳児用シート、幼児用シート、学童用シートは、お子さまの体重や身長によりお使いになれるタイプや取り付け方法が異なります。
- ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。
- ISO FIXテザータイプのチャイルドシートは、固定専用バーとテザーアンカーを用いて固定します。テザーアンカーにテザーストラップを結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。
  チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
  後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。
- ISO FIXテザータイプのチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

ISO FIX テザータイプチャイルドシート固定装置　→90ページ

- Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

《選択の目安》
詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIXタイプを除く

	体重（kg）	参考身長（cm）	参考年令
乳児用（ベビー）シート	～10	～75	～12か月
幼児用（チャイルド）シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用（ジュニア）シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIX テザータイプ

	体重（kg）	参考身長（cm）	参考年令
乳児用（ベビー）シート	～9	～70	～9か月
幼児用（チャイルド）シート	9～18	70～100	9か月～4才

●シートベルトの取り扱い、手入れ

●次のような場合はベルト一式を交換してください。
・ベルトを着用した状態で事故にあったとき。
・シートベルトプリテンショナーが作動したとき。
シートベルトプリテンショナー
→210ページ
・ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどができたとき。

●シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

●ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたして拭き取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

着用のしかた

●三点式シートベルト

①正しい運転姿勢でシートにすわります。
（→66ページ）

②タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。

③ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。

④ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。

⑤ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。

⑥外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

後席中央

タングプレートは差し込む相手を間違えないようにしてください。バックルに“CENTER”(センター)の表示があります。

ショルダーアンカーの高さ調節（前席のみ）

座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節できます。

通常はベルトが肩から外れないように最上段で使いますが、ベルトがくびに当たるときは、一段ずつ下げて調節してください。

⚠注意

- 調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されていることを確認してください。

チャイルドシート固定装置

チャイルドシート固定機構付きシートベルト(後席)

後席の三点式シートベルトには、チャイルドシート固定機構がついています。シートベルトを引き出し方向に動かさないようにできるため、チャイルドシートを固定することができます。
取り付けかたは、チャイルドシートの形状、取り付け方法によって異なります。チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けてください。

⚠警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
  固定機構が作動するとベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

知識

- ISO FIX テザータイプのチャイルドシートを取り付けるとき
  ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置 →90ページ

●チャイルドシートを取り付けるとき

①チャイルドシートをリヤシートに置きます。

②ベルトにねじれがないことを確認し、タングプレートをバックルの中へ"カチリ"と音がするまで差し込みます。

③ベルトをゆっくりと引き出します。すべて引き出すと、チャイルドシート固定機構が作動します。

④ベルトを少し巻き取らせます。その後、ベルトをゆっくりと引き、ベルトが引き出し方向に動かないことを確認します。ベルトが引き出し方向に動く場合は、再度ベルトをすべて引き出してください。

⚠注意

- 必ずベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。
  ベルトが引き出し方向に動く状態では、チャイルドシート固定機構が作動していないので、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

⑤チャイルドシートに体重をかけてリヤシートに押しつけながら、ベルトを巻き取らせ、しっかりと固定します。

⚠注意

- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

●解除のしかた

①チャイルドシートからベルトを外します。
②ベルトをいっぱいまで巻き取らせると、チャイルドシート固定機構は解除されます。

ISO FIX テザータイプ チャイルドシート固定装置（後席外側 2 座席）

後席外側の 2 座席には、ISO FIXテザータイプのチャイルドシートを固定するための固定専用バーとテザーアンカーが装備されています。

この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ固定し、使用することができます。
チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。
チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。
Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

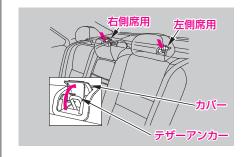
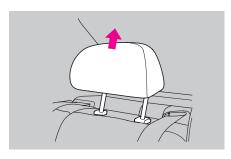
知　識

- チャイルドシート固定機構付きシートベルトを使って取り付けるとき

チャイルドシート固定機構付きシートベルト　→88ページ

●チャイルドシートを取り付けるとき

①シートクッションと背もたれのすき間を少し広げて、固定専用バーの位置を確認します。

②チャイルドシートを取り付ける座席の真後ろ側のカバーを開けて、テザーアンカーの位置を確認します。

③リヤシートのヘッドレストを持ち上げて最上段で固定し、テザーストラップはヘッドレストの下を通します。

④チャイルドシートとテザーストラップをチャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けます。

⚠注意

- チャイルドシートを取り付けるときは、固定専用バー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
  異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

●取り外すとき

チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り外します。

車を運転するときに

メーター

イラストは代表例を掲載しています。
タコメーター
マルチインフォメーションディスプレイ
スピードメーター
燃料計
水温計
インフォメーション(i)スイッチ
セレクト/リセットノブ
平均燃費
AVG.FUEL A
00.0 km/L
A000.0
000000
×1000r/min
km/h
VSA
ECO
IHCC
CMS
P
R
N
D
2
M
H
C
F
E

スピードメーター

走行速度をkm/hで示します。

タコメーター

１分間あたりのエンジン回転数を示します。

アドバイス

- エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。

  限界回転数 ････････6,800 rpm
- 停車中の空ぶかしは、エンジン回転数が5,000rpmになると燃料供給が停止されます。

燃料計

エンジンスイッチが“II”のとき、燃料の残量を示します。
“E”に近づいたら早めに補給してください。

燃料補給について　→54ページ

水温計

エンジンスイッチが“II”のとき、エンジン冷却水の温度を示します。
走行中は“H”の目盛より下側をさすのが正常です。

アドバイス

- 針が“H”の目盛に入った場合はオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。
  そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

  オーバーヒートしたとき →340ページ

イルミネーションコントロール

セレクト／リセットノブを回すと、メーター表示の明るさが車幅灯点灯時と消灯時にそれぞれ別々に調節できます。

▼

エンジンスイッチが“II”のときノブを回して明るさを調節します。

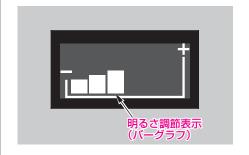
明るくするとき…
ノブを右に回します。明るさが最大になると“ピッ”という電子音がなります。

暗くするとき…
ノブを左に回します。明るさが最小になると“ピッ”という電子音がなります。

車外の明るさに応じてお好みで調節してください。

明るさ調節表示

ノブを回して明るさを調節すると、オドメーター／外気温表示の部分が明るさ調節表示に切り換わります。バーグラフが右に増えて行くほどメーターが明るく表示されます。

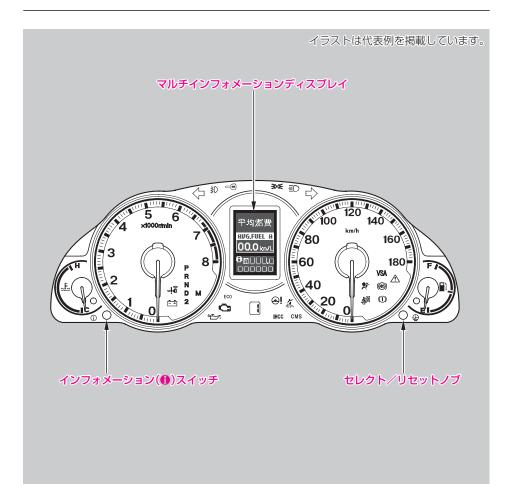
トリップメーター、オドメーター、
外気温表示 →103ページ

知　識

● マルチインフォメーションディスプレイに警告表示が出ているときは明るさ調節表示は表示されません。通常表示に戻ってから、明るさを調節してください。

警告表示について →106ページ

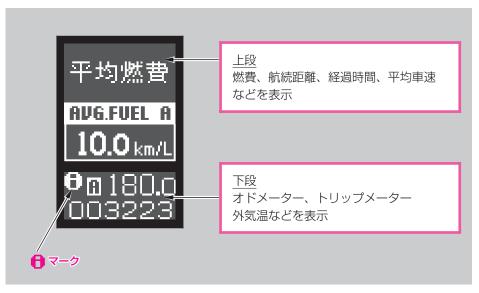
知　識

- 次の動作をしたときは、元の表示に切り換わります。
  - ・調節後約5秒すぎたとき
  - ・セレクト／リセットノブを押したとき
- 車幅灯点灯時に、ノブを右にいっぱい(明るさ最大)まで回すと、車幅灯点灯時の減光が解除されます。
- 運転席ドアを開けるとメーターの目盛りが点灯します。
  (ウェルカムメーター照明)
- 次のようなとき、メーターの照明は消灯します。
  - ・運転席ドアを開けてから、何もせずに約3分経過したとき。
  - ・運転席ドアを閉めてから、何もせずに約30秒経過したとき。
  - ・エンジンスイッチにキーを差し込んだまま、約10秒経過したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”に回してから、約10秒経過したとき。
- エンジンスイッチからキーを抜いたときは、メーターの照明はすぐに消灯します。

マルチインフォメーション ディスプレイ

知 識

- 運転席ドアを開けるとメーターの目盛りが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“Welcome”のメッセージが表示されます。（ウェルカムメーター照明）
- エンジンスイッチを“II”から“ I ”にすると、マルチインフォメーションディスプレイに“Good bye”が表示されます。

表示について

エンジンスイッチが"II"のときに、次のような表示を行います。

異常を検知すると、警告表示が割り込み表示され、約5秒後に通常表示にもどります。
また、下段に マークが点灯し続けます。

警告表示について →106ページ

燃費、航続距離、経過時間、平均車速(上段)

●表示の切り換え

メーターまたは、ステアリングホイールにあるインフォメーション(ℹ)スイッチを押すごとに、マルチインフォメーションディスプレイの上段の画面表示が次のように切り換わります。

瞬間燃費表示

瞬間燃費
INST. km/L
0 10 20 30

→

平均車速表示

平均車速
AVG.SPEED
60 km/h

→

航続距離表示

航続距離
RANGE
456 km

→

経過時間表示

経過時間
ELAPSED TIME
05h 06m

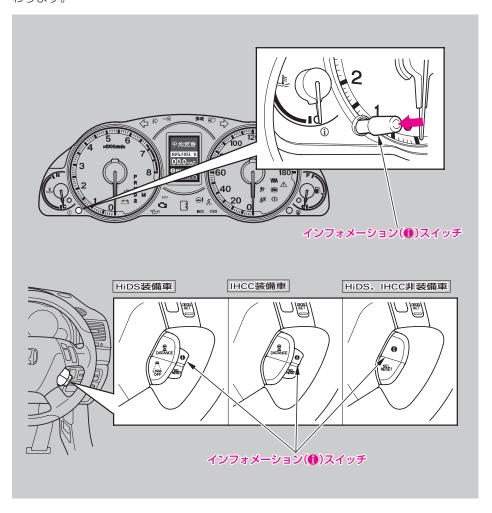
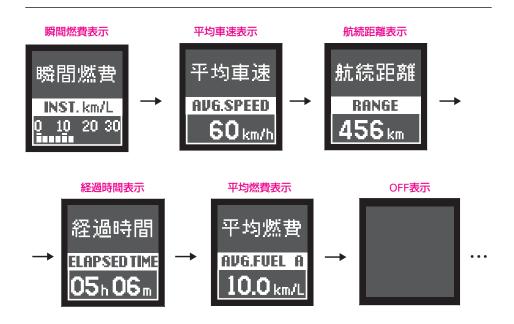
→

平均燃費表示

平均燃費
AVG.FUEL A
10.0 km/L

→

OFF表示

…

知　識

●上段の画面表示を、２画面表示に切り替えることができます。

カスタマイズ機能について　→109ページ

●瞬間燃費表示(INST. FUEL)

エンジンスイッチが“II”のとき、瞬間燃費をバーグラフにkm/Lで表示します。

●平均燃費表示(AVG. FUEL)

トリップメーター(“TRIP A”、“TRIP B”)と連動し、それぞれの平均燃費を約10秒間ごとに更新して、km/lで表示します。

・リセット

“TRIP A”または“TRIP B”がリセットされると、それぞれの平均燃費もリセットされます。

トリップメーター →104ページ

知 識

- 停車時または低速走行中にリセットしたときは、走行を始めてから燃費の計算を開始します。
- 表示される平均燃費は、実際に走行した燃費と異なる場合があります。
- “TRIP A”、“平均燃費A”を給油と連動させて、給油時に自動的にリセットさせることができます。

カスタマイズ機能について
→109ページ

“TRIP A”、“平均燃費A”給油連動時

“TRIP A”、“平均燃費A”は給油と連動して自動的にリセットされます。給油量が少ないと、自動的にリセットされないことがあります。

●航続距離表示(RANGE)

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離をkmで表示します。

知 識

- 表示される航続距離は実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

●経過時間表示(ELAPSED TIME)

エンジンを始動してから停止するまでの時間を表示します。

知 識

- エンジンスイッチを“0”から“II”へ回すと経過時間表示はリセットされます。
- “TRIP A”または“TRIP B”のリセットと連動させて、経過時間表示をリセットさせることができます。

カスタマイズ機能について
→109ページ

●平均車速表示(AVG. SPEED)

“TRIP A”をリセットしてからの平均車速をkm/hで表示します。

知 識

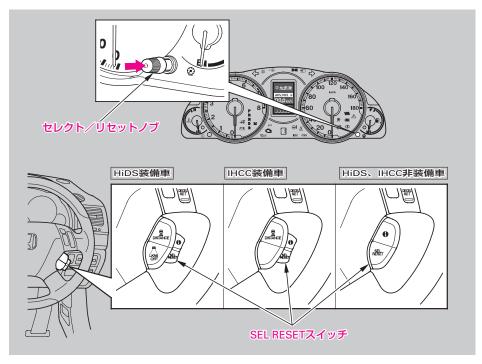
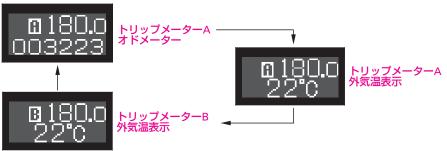
- エンジン停止中は計算されていません。

トリップメーター、オドメーター、外気温表示

●表示の切り換え

セレクト／リセットノブまたはSEL RESETスイッチを押すごとに、マルチインフォメーションディスプレイの下段の画面表示が次のように切り換わります。

セレクト／リセットノブ

HiDS装備車　IHCC装備車　HiDS、IHCC非装備車

SEL RESETスイッチ

●オドメーター
走行距離の累計がkmで表示されます。

●トリップメーター
リセットしてからの走行距離をkmで示します。“TRIP A”と“TRIP B”でそれぞれ別の走行距離を知ることができます。

表示の切り換え →103ページ

“TRIP A”または“TRIP B”を表示中にセレクト／リセットノブまたはSEL RESETスイッチを約2秒以上押し続けると、トリップメーターとそれぞれの平均燃費がリセットされます。

知 識

- 走行距離が999.9kmを超えると0kmに戻ります。
- “TRIP A”、“平均燃費A”を給油と連動させて、給油時に自動的にリセットさせることができます。

  カスタマイズ機能について →109ページ

  “TRIP A”、“平均燃費A”給油連動時

  “TRIP A”、“平均燃費A”は給油と連動して自動的にリセットされます。給油量が少ないと、自動的にリセットされないことがあります。
- “TRIP A”または“TRIP B”をリセットすると、それぞれの平均燃費もリセットされます。

  平均撚費表示 →102ページ
- “TRIP A”をリセットすると平均車速もリセットされます。

●外気温表示

外気温を測定し表示します。
外気温が下がってきて3 °C以下になったとき、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

警告表示について　→106ページ

知　識

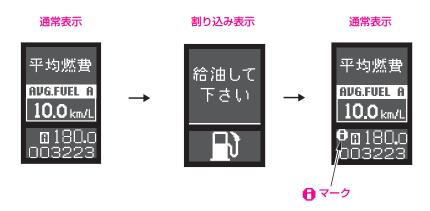
- フロントバンパー付近の外気温を測定しているため、エンジンルームや路面の熱の影響を受けやすい停車中や渋滞中など(約30km/h以下)は正しい外気温を表示しないことがあります。
- マルチインフォメーションディスプレイの割り込み表示は、エンジンスイッチノブを“II”にしてから最初に3 °C以下に下がったときにのみ作動します。

外気温補正の設定

マルチインフォメーションディスプレイを使って、外気温表示の表示温度に補正をかけることができます。＋3 °Cから－3 °Cの間で設定できます。

カスタマイズ機能について　→109ページ

警告表示について

異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告表示が割り込まれます。このとき同時に警告音も鳴ります。

警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。

マークが点灯しているときにインフォメーション(i)スイッチを押すと、警告表示を再表示させることができます。

表示 上段	表示 下段	処置(参照先)
“ブレーキ液量点検”		ブレーキ警告灯 →129ページ
“ブレーキシステム点検” “急ブレーキを避けて下さい”		
“パーキングブレーキ解除”		
“エンジン油圧異常” “エンジンオイルを点検して下さい”		油圧警告灯 →130ページ
“エンジンシステム点検” “高速での走行を避けて下さい”		PGM-FI警告灯 →130ページ
“充電システム点検” “充電が出来ません”		充電警告灯 →131ページ
“トランスミッション点検” “急発進急加速を避けて下さい”		トランスミッション警告灯 →131ページ
“シートベルトを着用して下さい”		シートベルト非着用警告灯 →131ページ
“給油して下さい”		燃料残量警告灯 →132ページ
“ホンダスマートキーシステム点検”		Hondaスマートキーシステム警告灯 →132ページ
“キーがありません” “キーの位置を確認して下さい”		Hondaスマートキー持ち去り警告→ 146ページ
“キー電池残量低下” “キーの電池を交換して下さい”		Hondaスマートキー電池消耗警告→ 147ページ
“HiDSシステム点検”	HiDS	Hondaインテリジェントドライバーサポートシステム(HiDS)警告灯 →133ページ
“IHCCシステム点検”	IHCC	インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯 →133ページ

表示		処置（参照先）
上段	下段	
“エアバッグシステム点検”		SRSエアバッグシステム 警告灯 →134ページ
“助手席サイドエアバッグ停止中” “正しい乗車姿勢を取って下さい”		サイドエアバッグ自動停止 表示灯 →124ページ
“アンチロックブレーキ点検”		アンチロックブレーキ システム警告灯 →133ページ
“パワーステアリング点検” “ハンドル操作が重くなります”		エレクトリックパワー ステアリング（EPS）警告灯 →134ページ
“VSAシステム点検”	VSA	ビークルスタビリティ アシスト（VSA：車両挙動 安定化制御システム）警告灯 →135ページ
“ドアが開いています”		セーフティーインジケーター →136ページ
“トランクが開いています”		セーフティーインジケーター →136ページ
“オートライトシステム点検”	LIGHT CONTROL	オートライトコントロールが異常のときに点灯します。 運転中に表示された場合は、ライトの点検や消灯は手動で行い、Honda販売店で点検を受けてください。
“CMSシステム点検”	CMS	追突軽減ブレーキ（CMS） 警告灯 →136ページ
“レーダー汚れ” “レーダーを拭いて下さい”	CMS	CMSの取り扱いについて →230ページ
“外気温低下注意”		外気温低下表示 →105ページ

カスタマイズ機能について

マルチインフォメーションディスプレイ表示について、以下の内容の設定を変更することができます。

●カスタマイズ項目一覧

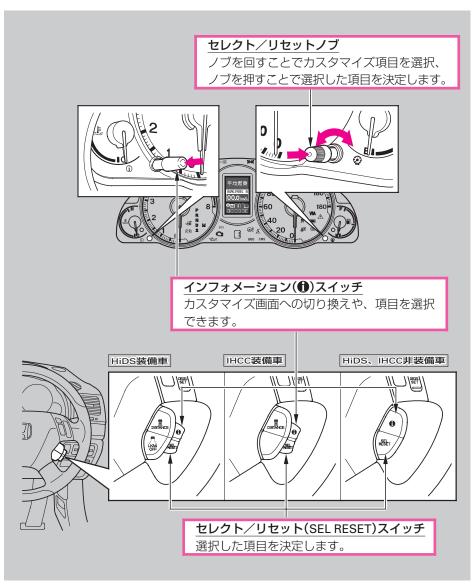
カスタマイズメニュー	選択できる設定内容	工場出荷時の設定
外気温表示補正	0 ℃	0 ℃
	＋3 ℃〜－3 ℃	
トリップA＆平均燃費Aの給油連動リセット	連動	非連動
	非連動	
経過時間表示のトリップA、B連動リセット	エンジンスイッチを“0”から“II”にしたときにリセット	エンジンスイッチを“0”から“II”にしたときにリセット
	トリップAリセット連動	
	トリップBリセット連動	
マルチインフォメーションディスプレイ上段の画面表示	1画面表示	1画面表示
	2画面表示	
マルチインフォメーションディスプレイ上段のメイン画面選択（2画面表示選択時）	瞬間燃費表示	瞬間燃費表示
	平均燃費表示	
	航続距離表示	
	経過時間表示	
	平均車速表示	
エコ（ECO）表示灯連動ディスプレイ色変更	連動	連動
	非連動	

知　識

- カスタマイズしたすべての設定を初期化し、一度に工場出荷時の設定に戻すことができます。

設定をリセットする　→116ページ

●スイッチの使いかた

セレクト／リセットノブ
ノブを回すことでカスタマイズ項目を選択、
ノブを押すことで選択した項目を決定します。
インフォメーション(ⓘ)スイッチ
カスタマイズ画面への切り換えや、項目を選択
できます。
HiDS装備車
IHCC装備車
HiDS、IHCC非装備車
DISTANCE
LKAS OFF
SEL RESET
DECEL SET
セレクト／リセット(SEL RESET)スイッチ
選択した項目を決定します。
平均燃費
AVG.FUEL A
00.0 km/L

●カスタマイズのしかた

エンジンスイッチが“II”で、セレクトレバーがⓅのときにカスタマイズ操作を行うことができます。例として“トリップA＆平均燃費Aの給油連動リセット”を連動に設定する方法を説明します。

知　識

●カスタマイズ操作の途中でエンジンスイッチを“I”または“0”にしたり、セレクトレバーをⓅ以外にしたときは、通常画面に戻ります。このとき、変更途中の設定は、変更されず元の設定のままになります。

①インフォメーション(ℹ)スイッチを約3秒以上押すと、マルチインフォメーションディスプレイが“カスタマイズエントリー”画面に切り換わります。

知　識

●インフォメーション(ℹ)スイッチを押すごとに、画面上の項目の選択ができ、セレクト／リセットノブまたはSEL RESETスイッチを押して決定します。
項目の選択は、セレクト／リセットノブを回して行うこともできます。

②“メーター設定”を選択し、決定すると“カスタマイズメニュー”画面に切り換わります。

知　識

●カスタマイズメニューの編成はカスタマイズ項目一覧で確認できます。
カスタマイズ項目一覧
→109ページ

③“カスタマイズメニュー”画面の“給油連動リセット”を選択し、決定すると“カスタマイズ”画面に切り換わります。

④“ON”を選択し決定します。

知 識

●“戻る”を選択すると、設定されずに1つ前の画面へ戻ります。

⑤設定完了画面が約2秒間表示された後、“カスタマイズメニュー”画面に戻ります。

⑥“戻る”を選択し、決定すると“カスタマイズエントリー”画面に戻ります。

⑦“戻る”を選択し、決定すると通常表示画面に戻ります。

知 識

●続けてカスタマイズ操作を行う場合は、“戻る”を選択せずに手順②～⑥を繰り返し行います。

カスタマイズメニューの選びかた

インフォメーション(❶)スイッチやセレクト／リセットノブまたはSEL RESETスイッチを押すごとに、カスタマイズ画面表示が次のように切り換わります。
項目の選択は、セレクト／リセットノブを回して行なうこともできます。

⇨ インフォメーション(❶)スイッチを押す。(選択)

➡ セレクト／リセットノブまたはSEL RESETスイッチを押す。(決定)

ENTRY ❶:NEXT SEL:ENTER メータ設定 設定変更 1/3

MENU ❶:NEXT SEL:ENTER 設定変更 外気温の表示補正 1/7 → 外気温表示補正

MENU ❶:NEXT SEL:ENTER 設定変更 給油連動リセット 2/7 → トリップA＆平均燃費Aの給油連動リセット

MENU ❶:NEXT SEL:ENTER 設定変更 経過時間リセット方法 3/7 → 経過時間表示のトリップA、B連動リセット

MENU ❶:NEXT SEL:ENTER 設定変更 画面表示方式 4/7 → マルチインフォメーションディスプレイ上段の画面表示

MENU ❶:NEXT SEL:ENTER 設定変更 画面表示選択 5/7 → マルチインフォメーションディスプレイ上段のメイン画面選択(2画面表示選択時)

MENU ❶:NEXT SEL:ENTER 設定変更 ECO連動 6/7 → エコ(ECO)表示灯連動ディスプレイ色変更

MENU ❶:NEXT SEL:ENTER 設定変更 戻る 7/7

メーター設定のカスタマイズ

①“カスタマイズメニュー”画面を表示させます。

カスタマイズのしかた　→111ページ

②カスタマイズしたい機能の“カスタマイズメニュー”を選択し、決定します。

③設定したい内容の表示を選択し、決定します。

（ピンク色の欄）：工場出荷時の設定

表示画面	設定	設定の内容
SETUP ❶:NEXT SEL:ENTER 外気温の 表示補正 ±0℃ 4/8	0 ℃	外気温表示が＋ 3 ℃～－ 3 ℃の範囲で 1 ℃ごとに補正できます。
	＋ 3 ℃～－ 3 ℃	
SETUP ❶:NEXT SEL:ENTER 給油連動 リセット OFF 2/3	ON	“TRIP　A”、“平均燃費Ａ”および“平均車速”が給油時に自動的にリセットします。
	OFF	“TRIP　A”、“平均燃費Ａ”および“平均車速”は給油時に自動的にリセットしません。
SETUP ❶:NEXT SEL:ENTER 経過時間 リセット方法 IGN ON リセット 1/4	IGN ONリセット	経過時間表示がエンジンスイッチを“ 0 ”から“II”にしたときにリセットされます。
	TRIP Aリセット	経過時間表示が“TRIP　A”リセット時にリセットされます。
	TRIP Bリセット	経過時間表示が“TRIP　B”リセット時にリセットされます。
SETUP ❶:NEXT SEL:ENTER 画面表示 方式 1画面 1/3	1 画面	マルチインフォメーションディスプレイの上段の画面に 1 種類の情報を表示します。
	2 画面	マルチインフォメーションディスプレイの上段の画面に 2 種類の情報を表示します。

：工場出荷時の設定

表示画面	設定	設定の内容
SETUP ℹ:NEXT SEL:ENTER 画面表示選択 瞬間燃費 1/6	瞬間燃費	マルチインフォメーションディスプレイの上段のメイン画面を瞬間燃費表示します。（2 画面表示選択時）
	平均燃費	マルチインフォメーションディスプレイの上段のメイン画面を平均燃費表示します。（2 画面表示選択時）
	航続可能距離	マルチインフォメーションディスプレイの上段のメイン画面を航続距離表示します。（2 画面表示選択時）
	経過時間	マルチインフォメーションディスプレイの上段のメイン画面を経過時間表示します。（2 画面表示選択時）
	平均車速	マルチインフォメーションディスプレイの上段のメイン画面を平均車速表示します。（2 画面表示選択時）
SETUP ℹ:NEXT SEL:ENTER ECO連動 ON 1/3	ON	エコ（ECO）表示灯の点灯時に、マルチインフォメーションディスプレイの照明を淡い緑色にします。
	OFF	エコ（ECO）表示灯の点灯時に、マルチインフォメーションディスプレイの照明を淡い緑色にしません。

知　識

- “戻る”を選択すると、設定されずに 1 つ前の画面へ戻ります。

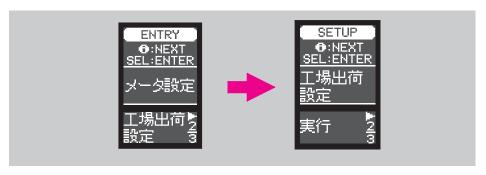
④設定完了画面が約 2 秒間表示された後、“カスタマイズメニュー”画面に戻ります。
⑤“戻る”を選択し、決定すると“カスタマイズエントリー”画面に戻ります。
⑥“戻る”を選択し、決定すると通常表示画面に戻ります。

知　識

- 続けてカスタマイズ操作を行う場合は、“戻る”を選択せずに手順①～⑤を繰り返し行います。

設定をリセットする

カスタマイズ(設定変更)したすべての設定を、一度に工場出荷時の設定に戻すことができます。

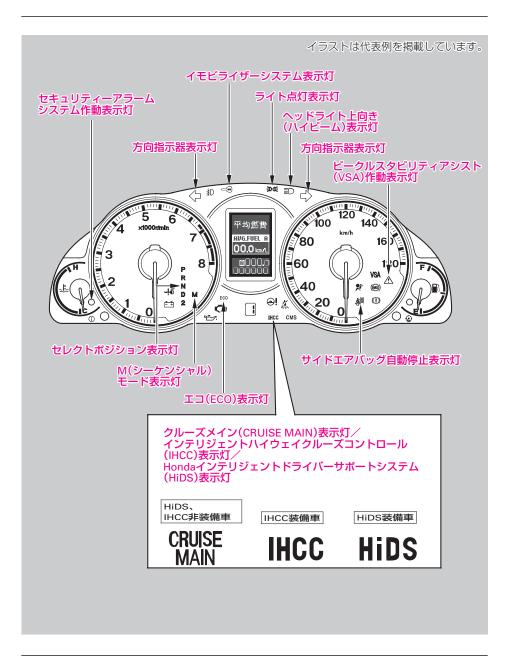
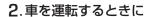
①インフォメーション(ⓘ)スイッチを約 3 秒以上押し続けて、“カスタマイズエントリー”画面を表示させます。
②“工場出荷設定”を選択し、決定すると、“工場出荷設定”画面に切り換わります。

③“実行”を選択し、決定すると、“工場出荷設定にしました”と約 2 秒間表示され、“カスタマイズエントリー”画面に戻ります。
“戻る”を選択し、決定しても、“カスタマイズエントリー”画面へ戻ります。
④“カスタマイズエントリー”画面で“戻る”を選択し、決定すると通常画面に戻ります。

知　識

●工場出荷時の設定に戻すと、カスタマイズした設定は消去されます。カスタマイズしていた設定に戻すには、再度カスタマイズを行ってください。

カスタマイズ機能について　→109ページ

表示灯

イラストは代表例を掲載しています。
イモビライザーシステム表示灯
セキュリティーアラーム
システム作動表示灯
ライト点灯表示灯
ヘッドライト上向き
(ハイビーム)表示灯
方向指示器表示灯
方向指示器表示灯
ビークルスタビリティアシスト
(VSA)作動表示灯
平均燃費
AVG.FUEL A
00.0 km/L
セレクトポジション表示灯
M(シーケンシャル)
モード表示灯
エコ(ECO)表示灯
サイドエアバッグ自動停止表示灯
クルーズメイン(CRUISE MAIN)表示灯/
インテリジェントハイウェイクルーズコントロール
(IHCC)表示灯/
Hondaインテリジェントドライバーサポートシステム
(HiDS)表示灯
HiDS、
IHCC非装備車
IHCC装備車
HiDS装備車
CRUISE
MAIN
IHCC
HiDS

表示灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

表示灯	タイプ		
	30TE	30TL	AVANZARE
方向指示器表示灯	○	○	○
ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯	○	○	○
ライト点灯表示灯	○	○	○
フォグライト点灯表示灯	○	○	○
セキュリティーアラームシステム作動表示灯	○	○	○
セレクトポジション表示灯	○	○	○
M（シーケンシャルモード）表示灯	○	○	○

○：標準装備

表示灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

表示灯		タイプ		
		30TE	30TL	AVANZARE
	イモビライザーシステム表示灯	○	○	○
	サイドエアバッグ自動停止表示灯	△	△	△
CRUISE MAIN	クルーズメイン(CRUISE MAIN)表示灯	○※	○※	–
HiDS	Hondaインテリジェントドライバーサポートシステム(HiDS)表示灯(グリーン)	–	–	○
IHCC	インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)表示灯(グリーン)	△	△	–
	ビークルスタビリティアシスト(VSA)作動表示灯	○	○	○
ECO	エコ(ECO)表示灯	○	○	○

※：IHCC非装備時
○：標準装備
△：注文装備

方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

知　識

- 電球が切れたときや、ワット(W)数の違った物を使ったときは、表示灯の点滅周期が異常になります。

電球(バルブ)の交換
→354、355ページ
電球(バルブ)のワット数
→406ページ

ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

ライト点灯表示灯

ライトスイッチが“OFF”以外のとき(ただし、“AUTO”のときは車幅灯やヘッドライトが点灯しているときのみ)点灯します。

フォグライト点灯表示灯

フォグライトが点灯しているときに点灯します。

セキュリティーアラームシステム作動表示灯

セキュリティーアラームシステムがセットされているときに点滅します。

セキュリティーアラーム
システムについて　→63ページ

セレクトポジション表示灯（トランスミッション警告灯兼用）

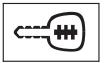
使用中のセレクトレバー位置が表示されます。
トランスミッションが異常のときには、Ⓓが点滅します。

トランスミッション警告灯　→131ページ

シーケンシャルモード時は、メーター中央にギヤの位置が表示されます。また、Ⓜ表示灯が点灯します。
セレクトレバーが、②のときに、Ｌスイッチを押すと、メーター中央に“Ｌ”が表示されます。

M（シーケンシャルモード）表示灯

シーケンシャルモードのときに点灯します。

シーケンシャルモード　→165ページ

イモビライザーシステム表示灯

エンジンスイッチを"II"にすると、数秒間点灯してから消灯します。点灯中は車両とキーとの電子照合を行っています。

点滅したときは

システムがキーの信号を認識していないので、エンジンを始動することはできません。

- キーを使っているときは、エンジンスイッチを"0"へ回しキーを抜いてから、もう一度エンジンスイッチに差し込み"II"にしてください。
- Hondaスマートキーシステム装備車で、Hondaスマートキーを使っているときは、エンジンスイッチノブを"0"(プッシュオフ)にしてから、もう一度エンジンスイッチノブを押し込んで、エンジンスイッチノブを"II"にしてください。

エンジンスイッチを次のようにしたときも、数回点滅します。

- キーを使ってエンジンスイッチを"II"から"I"または"0"にしたとき
- Hondaスマートキーシステム装備車で、Hondaスマートキーを使ってエンジンスイッチノブを"II"から"0"(プッシュオフ)にしたとき。

イモビライザーシステムについて
→62ページ

アドバイス

- エンジンスイッチを"II"にしても表示灯が点灯しないときや、頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

サイドエアバッグ自動停止表示灯

サイドエアバッグシステム／
サイドカーテンエアバッグシステム装備車

乗員姿勢検知システムにより、助手席用サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。

点灯したときは

上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。

乗員姿勢検知システム　→203ページ

CRUISE
MAIN

クルーズメイン（CRUISE MAIN）表示灯

HiDS、IHCC非装備車

CRUISEスイッチを押して“ON”にすると点灯します。

クルーズコントロール　→180ページ

HiDS

Hondaインテリジェントドライバーサポートシステム(HiDS)表示灯(Hondaインテリジェントドライバーサポートシステム(HiDS)警告灯兼用)

HiDS 装備車

HiDSスイッチを押して“ON”にするとグリーンで点灯します。
詳細については、別冊のHiDS取扱説明書をご覧ください。

インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)表示灯(インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯兼用)

IHCC 装備車

IHCCスイッチを押して、“ON”にするとグリーンで点灯します。
詳細については、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)作動表示灯

VSAが作動中に点滅します。
VSAを“OFF”にしたときと、VSAに異常があるときに点灯します。

→223ページ

知　識

● VSA警告灯が点灯するとVSA作動表示灯も同時に点灯します。
VSA警告灯　→135ページ

エコ(ECO)表示灯

定速走行時や減速運転時のエンジンの燃費の状態が良いときに点灯し、経済運転をしていることをお知らせします。

知　識

● L(ロー)モードのときは点灯しません。
● 停車中や低車速での走行時も点灯しません。

警告灯

イラストは代表例を掲載しています。
シートベルト非着用警告灯
SRSエアバッグシステム警告灯
エレクトリックパワーステアリング
(EPS)警告灯
ビークルスタビリティ
アシスト(VSA)警告灯
PGM-FI 警告灯
トランスミッション警告灯
燃料残量警告灯
油圧警告灯
充電警告灯
Hondaスマートキー
システム警告灯
追突軽減
ブレーキ(CMS)
警告灯
アンチロック
ブレーキシステム
(ABS)警告灯
ブレーキ警告灯
インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯／
Hondaインテリジェントドライバーサポートシステム(HiDS)警告灯
IHCC装備車
IHCC
HiDS装備車
HiDS

警告灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

警告灯	タイプ		
	30TE	30TL	AVANZARE
ブレーキ警告灯	○	○	○
油圧警告灯	○	○	○
PGM-FI 警告灯	○	○	○
充電警告灯	○	○	○
トランスミッション警告灯（セレクトポジション表示灯兼用）	○	○	○
シートベルト非着用警告灯	○	○	○
燃料残量警告灯	○	○	○
Hondaスマートキーシステム警告灯	△	○	○
Hondaインテリジェントドライバーサポートシステム（HiDS）警告灯（オレンジ）	—	—	○
インテリジェントハイウェイクルーズコントロール（IHCC）警告灯（オレンジ）	△	△	—

○：標準装備
△：注文装備

警告灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

警告灯		タイプ		
		30TE	30TL	AVANZARE
	SRSエアバッグシステム警告灯	○	○	○
ABS	アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯	○	○	○
	エレクトリックパワーステアリング(EPS)警告灯	○	○	○
VSA	ビークルスタビリティアシスト(VSA)警告灯	○	○	○
CMS	追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯	△	△	○

○:標準装備
△:注文装備

ブレーキ警告灯

パーキングブレーキが完全に解除されていないときに点灯します。この状態で走行するとブザーが鳴ります。

パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー
→163ページ

ブレーキ液量がいちじるしく減少しているときにも点灯します。また、ABSが異常のときABS警告灯と同時に点灯することがあります。

▼

ブレーキ液量点検

走行中点灯したときやパーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、

①ブレーキ液量を点検します。

②下限より下がっていたらただちにHonda販売店へご連絡ください。
ブレーキ液量が下限以下になっていないのに点灯するときや、パーキングブレーキをかけても点灯しないときは、お早めにHonda販売店で点検を受けてください。

ブレーキシステム点検

ブレーキ液量が正常で、アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯と同時に点灯したときは、アンチロックブレーキシステム(ABS)の異常が考えられます。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

点灯したときは

エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。
エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにHonda販売店へご連絡ください。

- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

PGM-FI警告灯

エンジン制御システムが異常のときに点灯します。
エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

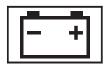
点灯したときは

運転中に点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

点滅したときは

①走行中に点滅した場合は、枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分間以上エンジンを止めて、冷えるまでお待ちください。
②エンジン再始動後、警告灯が消灯しないときや再び点滅するときは、触媒装置保護のため、急加速、急減速などの無理な運転を避け、50km/h以下の速度で、最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。

アドバイス

- 警告灯が点滅した状態で運転は続けないでください。
触媒装置を焼損することがあります。

充電警告灯

充電系統が異常のときに点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、電気の消費を減らすため、エアコンスイッチ、リヤデフロスタースイッチを“OFF”にして、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

トランスミッション警告灯（セレクトポジション表示灯兼用）

トランスミッションが異常のときに点滅します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

点滅したときは

運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

シートベルト非着用警告灯

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダー（非着用警報装置）が作動し、点灯し続けます。
また、エンジンスイッチを“II”にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまで、数秒間ブザーが鳴ります。
（ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。）
走行中（車速約 7 km/h以上）は、マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

知　識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも一定回数を超えると、ブザーは止まります。
- セレクトレバーをⓇに入れたときは、後退位置警報装置のチャイムが鳴り、シートベルト非着用警告ブザーは鳴りません。

燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリン残量が10ℓ前後になったときに点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

燃料の補給　→54ページ

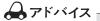
Hondaスマートキーシステム警告灯

Hondaスマートキーシステム装備車

Hondaスマートキーシステムが異常のときに点灯します。

警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。

・運転中に点灯したとき。
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。
・エンジンスイッチが“0”のときに数秒間点灯したとき。

アドバイス

●警告灯が点灯した場合は、Hondaスマートキーを使わずに、内蔵キーを使ってください。

内蔵キーの差し込みかた
→364ページ

Hondaインテリジェントドライバーサポートシステム(HiDS)警告灯(Hondaインテリジェントドライバーサポートシステム(HiDS)表示灯兼用)

HiDS 装備車

HiDSが異常のときオレンジ色で点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。
詳細については、別冊のHiDS取扱説明書をご覧ください。

インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯(インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)表示灯兼用)

IHCC装備車

IHCCが異常のときオレンジ色で点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。
詳細については、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

ABSが異常のときに点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯 →217ページ

SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステムとシートベルトシステム警告灯兼用）

SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

SRS エアバッグシステム →193ページ
サイドエアバッグシステム／
サイドカーテンエアバッグシステム
→209ページ
シートベルトプリテンショナー
→213ページ
E-プリテンショナー →215ページ

知　識

- 次のシステムに異常があると点灯します。
  - ・SRSエアバッグシステム
  - ・サイドエアバッグユニット
  - ・サイドカーテンエアバッグユニット
  - ・シートベルトプリテンショナー
  - ・E-プリテンショナー

エレクトリックパワーステアリング（EPS）警告灯

EPSが異常のときに点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

点灯したときは

運転中に点灯したとき（安全な場所に停車してからエンジンを再始動し、その後消灯していれば正常です。）は、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。

知　識

- 警告灯が点灯しているときは、パワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が重くなります。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと、警告灯が点灯しハンドル操作が重くなる場合があります。このときは、エンジンを再始動すると警告灯が消灯します。
- 停車中または極低速でハンドル操作をくり返したときなどシステムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
  システムの温度が下がると復帰します。
  システム保護がはたらくような使いかたを連続的にくり返すと、システム破損の原因となります。

VSA

ビークルスタビリティアシスト（VSA：車両挙動安定化制御システム）警告灯

VSAが異常のときに点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

→223ページ

知　識

- ABS警告灯が点灯するとVSA警告灯も同時に点灯します。
- ブレーキアシストの装置に異常があるとVSA警告灯が点灯します。
- VSA警告灯が点灯したときはブレーキアシストは作動しません。

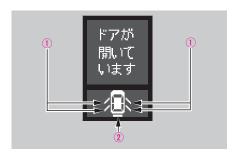
CMS

追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯

CMS装備車

追突軽減ブレーキ(CMS)が異常のとき、またはOFFのときに点灯します。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。
エンブレムの汚れなどで前方の車両を検知できず、システム停止したときも点灯します。

→232ページ

セーフティインジケーター

次の場合に、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

①ドア開閉警告灯

ドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

ドアを完全に閉めてください。

②トランク開閉警告灯

トランクが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

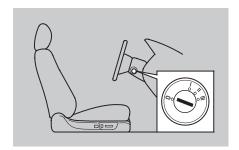
トランクを完全に閉めてください。

警告灯の電球切れの点検

エンジンスイッチを“II”にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。点灯しないときは、Honda販売店へご連絡ください。

- **油圧警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **ブレーキ警告灯**
  （パーキングブレーキが解除されているときは数秒後消灯）
  （パーキングブレーキをかけているときは完全に解除すると消灯）
- **充電警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **PGM-FI警告灯**
  （数秒後消灯）
- **トランスミッション警告灯**
  （数秒後消灯）
- **Hondaスマートカードキーシステム警告灯**
  （数秒後消灯）
- **Hondaインテリジェントドライバーサポートシステム(HiDS)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **SRSエアバッグシステム警告灯**
  （約6秒後消灯）
- **アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **エレクトリックパワーステアリング(EPS)警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯**
  （数秒後消灯）

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ（キーを使った操作）

キーを抜き差しする位置です。

エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。

運転するときの位置です。

III

エンジン始動位置です。始動したら、キーから手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

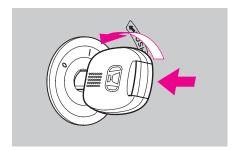
エンジンスイッチを“0”から“I”へ回すとき

Hondaスマートキーシステム装備車

内蔵キーを押し込んで、ゆっくり回します。

内蔵キーの差し込みかた　→364ページ

キーを抜くとき

・セレクトレバーをⓅにします。
・“Ｉ”でキーを押し込んで“０”まで回してキーを抜きます。

知　識

● キーを抜くとハンドルがロックされます。
● セレクトレバーがⓅ以外のときは、エンジンスイッチが“０”まで回らないので、キーを抜くことができません。
● Hondaスマートキーシステム装備車

Hondaスマートキーを使った操作
→140ページ

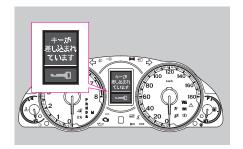
“０”から“Ｉ”にキーが回らないとき（ハンドルロックの解除）

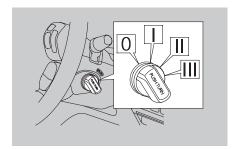
ハンドルを左右に回しながらキーを回せば容易に回ります。

知　識

● エンジンを止めた状態で“Ｉ”または“II”のまま、長時間放置しないでください。
バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
エンジンスイッチを“０”にするときは、途中の位置で止めずに“０”まで回してください。
● 車から離れるときは、バッテリー保護のため必ず“０”にしてください。

●キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“Ｉ”または“０”でキーを差し込んだまま車を離れようとしたとき（運転席ドアを開けたとき）、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。
また、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが差し込まれています”と表示されます。

エンジンスイッチ（Hondaスマートキーを使った操作）

Hondaスマートキーシステム装備車

（プッシュオフ）
エンジンスイッチがロックされる位置です。

（プッシュオン）
エンジンスイッチノブを押すと、ロックが解除されエンジンスイッチを回すことができます。

エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。

運転するときの位置です。

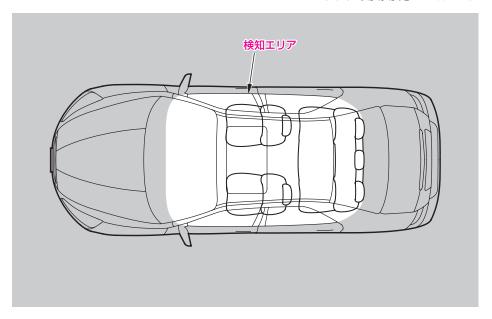
エンジン始動位置です。
始動したら、エンジンスイッチノブから手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

●エンジン始動の作動範囲

エンジン始動の機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上やリヤシェルフ、グローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れやトランク内を除く車内です。

エンジンのかけかた →160ページ

検知エリア

知 識

- Hondaスマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動が不安定になることがあります。
- 次のような場合、システムがHondaスマートキーを認識できないため、エンジンスイッチの操作ができず、エンジンが始動できなかったりすることがあります。
  - ・インストルメントパネル上やリヤシェルフ、グローブボックスや各種小物入れなどにHondaスマートキーを置いたとき。
  - ・Hondaスマートキーを入れている物(バッグやポケット)の中に、携帯端末などの電波を発する物やノイズを発する物があるとき。
- 車外にHondaスマートキーがあっても、ドアやドアガラスに近づき過ぎている場合は、エンジンの始動ができることがあります。

エンジンスイッチを“0”から“I”へ回すとき

エンジンスイッチノブを押し込みます。エンジンスイッチのロックが解除されると、“ピッ”とブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったら、エンジンスイッチをゆっくりと回します。

エンジンスイッチが“0”から“I”に回らないとき（ハンドルロックの解除）

ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを回せば容易に回ります。
もし、エンジンスイッチが回らない場合は、もう一度エンジンスイッチノブを押し直してゆっくりと回してください。
Hondaスマートキーの作動不良などにより、エンジンスイッチが回せない場合は、エンジンスイッチをいったん戻し、内蔵キーを挿入してエンジンスイッチを回してください。

内蔵キーの差し込みかた →364ページ

エンジンスイッチを"0"に回すとき

・セレクトレバーをⓅにします。
・"I"でエンジンスイッチノブを押し込んで"0"まで回します。

車から離れるときは、エンジンスイッチを"0"にしてから離れるようにしてください。

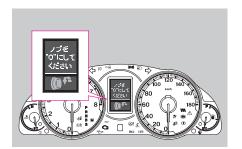
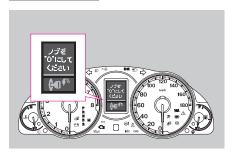
知　識

●エンジンスイッチを"0"にするときは、途中の位置で止めずに"0"まで回してください。
●エンジンを止めた状態で"I"または"II"のまま、長時間放置しないでください。
バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
●エンジンスイッチが"0"以外では、Hondaスマートキーで施錠できません。
車から降りてドアを閉めたときに警告ブザー(ピピピピピ)が鳴ったときは、車の状態を確認してください。
Hondaスマートキー持ち去り警告
→145ページ
●エンジンスイッチを"0"にするとハンドルがロックされます。
●セレクトレバーがⓅ以外のときは、エンジンスイッチが"0"まで回りません。

●エンジンスイッチ警告ブザー

エンジンスイッチが"Ⅰ"で、車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りエンジンスイッチを"0"にしていないことを知らせます。

また、マルチインフォメーションディスプレイに、"ノブを"0"にしてください"と表示されます。

Hondaスマートキー使用時

内蔵キー使用時

知 識

● エンジンスイッチが"0"の位置で、エンジンスイッチノブを押し込んでいるときに、運転席ドアを開けた場合にもブザーが鳴ります。

●Hondaスマートキー持ち去り警告

誤操作や車両盗難防止のために、警告音を鳴らしたり、メーター内に警告を表示します。警告音が鳴ったり、警告表示が出た場合は、必ず車両およびHondaスマートキーの確認を行ってください。

Hondaスマートキーをエンジン始動の作動範囲外に持ち出してドアを閉めると、Hondaスマートキー持ち去り警告が作動します。

エンジン始動の作動範囲　→141ページ

警告ブザーの種類

警告ブザーは、車内警告ブザーと車外警告ブザーの2種類があります。

・車内警告ブザー

“ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ”と6回鳴ります。

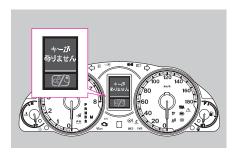
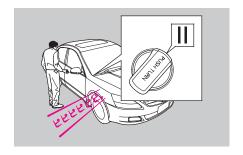
・車外警告ブザー

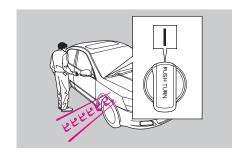
“ピピピピピピ”と6回鳴ります。

知　識

- Hondaスマートキーを持ち出した状態で、エンジンスイッチを“0”(プッシュオフ)にすると、エンジンスイッチの操作ができなくなります。
  エンジンスイッチノブを操作するときは、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。
- 窓からの受け渡しでは、Hondaスマートキーの持ち去りを検知せず、警告は作動しません。
- エンジン始動の作動範囲内にHondaスマートキーがあってもHondaスマートキーの携帯状態や周囲の環境、電波状態などにより、Hondaスマートキーの位置を認識できないときも、警告が行われます。
  故障ではありませんが、Hondaスマートキーを携帯していることを確認してください。

エンジンスイッチが"II"のとき

マルチインフォメーションディスプレイに"キーがありません""キーの位置を確認して下さい"と表示され、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

エンジンスイッチが" I "のとき

車外警告ブザーが鳴ります。

Hondaスマートキー持ち去り警告が出たときは

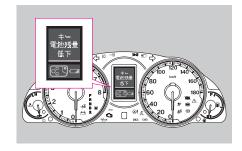
エンジン始動の作動範囲内にHondaスマートキーを戻して、ドアを閉めると警告が解除されます。

エンジン始動の作動範囲内であってもHondaスマートキーの位置や状態、周囲の環境や電波状態などにより、警告が解除されず、再度Hondaスマートキー持ち去り警告が行われることがあります。故障ではありませんが、Hondaスマートキーを携帯していることを確認してください。
警告状態が続く場合は、Hondaスマートキーの携帯位置を変更することをお勧めします。

●Hondaスマートキー電池消耗警告

電池の残量が少なくなったときに、警告音を鳴らし、マルチインフォメーションディスプレイに警告を表示して知らせます。

▼

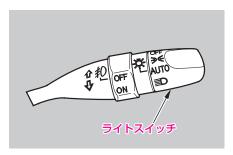
エンジンスイッチを“II”にしたときに、警告ブザー(ピピピピピピ)が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“キー電池残量低下”に続いて、停車中に“キーの電池を交換して下さい”と表示されます。

警告が表示されたときは、早めにHondaスマートキーの電池を交換してください。

電池交換のしかた　→363ページ

ライトスイッチ

●ライトの点灯・消灯

自動で使うとき
(オートライトコントロール)

エンジンスイッチが“II”のとき使えます。
ライトスイッチを“AUTO”の位置にすると、車外の明るさによってヘッドライトや車幅灯などが自動的に点灯・消灯します。

車外が暗くなると、まず車幅灯、尾灯、番号灯が自動的に点灯します。さらに暗くなるとヘッドライトが点灯します。
車外が明るくなると、逆の順に消灯します。
ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

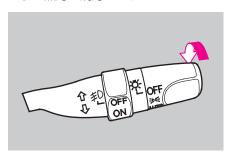
ライト点灯表示灯　→121ページ

知　識

- 昼間、濃い霧などにより視界が悪いときには、自動では点灯しません。手動で点灯してください。
- マルチインフォメーションディスプレイに“オートライトシステム点検”と表示されたときには、手動位置に切り換えてお使いください。

照度感知部は図の位置にあります。感知部の上に物を置かないでください。

手動で使うとき

エンジンスイッチの位置に関係なく次のように点灯、消灯します。

スイッチの位置		
ヘッドライト	―	点灯
車幅灯・尾灯 番号灯	点灯	点灯

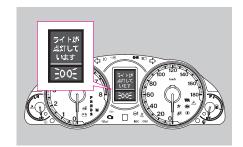
ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

ライト点灯表示灯　→121ページ

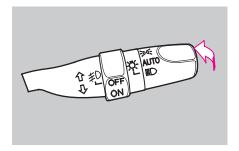
知　識

- エンジンが止まっている状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

●ライト消し忘れ警告ブザー

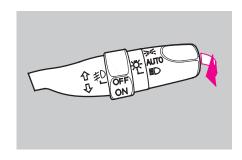
ライトを点灯したままエンジンスイッチからキーを抜いて、車を離れようとしたとき（運転席ドアを開けたとき）、ブザーが鳴りライトの消し忘れを知らせます。
また、マルチインフォメーションディスプレイに“ライトが点灯しています”と表示されます。

●ヘッドライトの上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）の切り換え

レバーを前方へ押すと上向きになります。戻すと下向きになります。
上向きのときは、メーター内の表示灯が点灯します。

ヘッドライト上向き（ハイビーム）
表示灯 →121ページ

知　識

●対向車のあるときや市街地走行など、上向きが不適切なときは下向きにします。

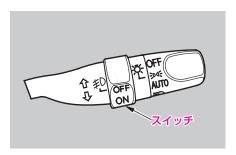
●追越合図（パッシング）

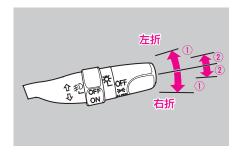
レバーを手前に引いている間、上向きが点灯します。

●オートレベリング機能

ヘッドライトには、積載時などの車両の姿勢の変化に応じて光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が装備されています。

●ヘッドライト光軸の上下方向に異常を感じたときはHonda販売店で点検を受けてください。

フォグライトスイッチ

ライトスイッチが“OFF”以外のときスイッチを“ON”にするとフォグライトが点灯します。
ライトスイッチが“AUTO”のときは、車幅灯やヘッドライトが点灯している間のみ点灯します。

方向指示器(ウィンカー)スイッチ

エンジンスイッチが“II”のとき使えます。
ふだんは①の位置で使います。
この位置ではハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。
車線変更などでは②の位置に軽く手で押さえながら使います。

非常点滅表示灯(ハザード)スイッチ

スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。
故障でやむをえず路上駐車するときに使います。

知　識

●非常時にのみお使いください。
完全充電の新しいバッテリーでも約２時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ワイパー／ウォッシャースイッチ

⚠注意

●寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知　識

●空ぶきをしないでください。ガラス面に傷をつけたり、ブレード(ゴム部)を傷めたりします。

●ウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを切ってください。
ウォッシャー液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。

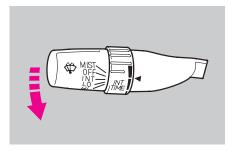
●寒冷時、ブレード(ゴム部)がガラス面に張りつくことがありますのでデフロスターを使ってフロントガラスを暖めてください。
凍りついたまま動かすとブレード(ゴム部)を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。

デフロスター　→246、258ページ

知　識

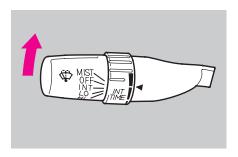
- ワイパーを作動中にガラスに雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを“OFF”、エンジンスイッチを“0”または“I”にしてワイパーが作動できるように雪などの障害物を取り除いてください。
- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
  モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。
  数分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常通り使用できるようになります。
- ワイパーアームを起こすときは、運転席側を先に起こしてください。また、倒すときは、助手席側を先に倒してください。
  ワイパーアームの起こしかた
  →397ページ

エンジンスイッチが“II”のとき使えます。

●ワイパースイッチ

オートワイパー装備車

OFF ・・・・・・・・・・・・・・・ 停止
AUTO（自動）・・・・・・・ 雨量に応じて自動で制御するとき
LO（低速）・・・・・・・・・・ 普通雨量のとき
HI（高速）・・・・・・・・・・・ 雨量の多いとき

オートワイパー非装備車

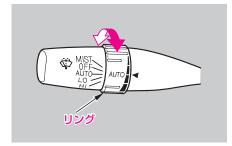
OFF ・・・・・・・・・・・・・・・ 停止
INT（間欠）・・・・・・・・・ 雨量の少ないとき
LO（低速）・・・・・・・・・・ 普通雨量のとき
HI（高速）・・・・・・・・・・・ 雨量の多いとき

MIST ・・・・・・・・・・・・・・・
レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときなどに使うと便利です。

自動で使うとき

オートワイパー装備車

レバーを“AUTO”にすると、ワイパーが１回作動し、その後は自動作動に切り換わります。
フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

・センサー感度の調節

リングを回すとセンサー感度の調節ができます。

位置	感度
	鈍感 ↕ 敏感

鈍感・・・・・雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。
敏感・・・・・雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。

⚠注意

- エンジンスイッチが“II”でレバーが“AUTO”のとき、雨滴検知センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷することがあります。
フロントガラスの手入れをするときは、レバーを必ず“OFF”にしてください。

知 識

- 降雨、降雪時でも、雨や雪が雨滴検知センサーに当たらないと、ワイパーが作動しないことがあります。
  また、雪が雨滴検知センサーに当っても雪の種類によっては正しく検出できないことがあります。
  この場合には、レバーを“LO”または“HI”に切り換えてください。
- センサー上部のガラス面が汚れていたり氷結すると、ワイパーが正常に作動しないことがあります。
  この場合は、ガラス上の異物を取り除いてください。
- 雨滴検知センサーに、泥、指紋、油膜、虫などが付着すると、ワイパーが作動することがあります。
- レバーが“AUTO”の位置でエンジンを始動した場合、すでにガラスに付いている雨滴を雨滴検知センサーが検知しないことがあります。
  この場合は、レバーを“MIST”にして一度雨滴を拭き取ってください。

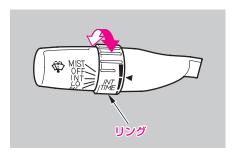
知 識

- 雨滴量が変化しているのにワイパーが一定間隔で作動しているときなどは、雨滴検知センサーが故障しているおそれがあります。このようなときは、ワイパースイッチの切り換えは手動で行い、Honda販売店で点検を受けてください。
  なお、雨滴検知センサーが故障しているときは、レバーが“AUTO”の位置でもオート作動を中断して、間欠作動に切り換わります。
  間欠作動の間隔のセットは、リングを回して行います。

間欠時間の調節

オートワイパー非装備車

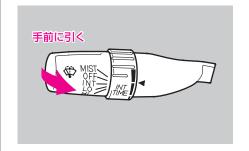
ワイパーの間欠作動の間隔を調節できます。

間隔のセットはリングを回して行います。

位置	間隔
	長い ↕ 短い

知　識

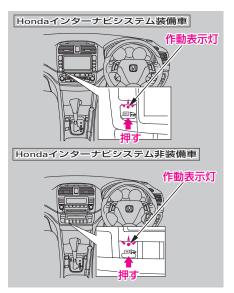
- 間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より約 4 秒短くなります。
  また、発進時にワイパーが 1 回作動します。
- リングを間欠時間の短い方へいっぱいに回しているときに、車速が速くなるとワイパーが間欠から低速作動になります。

●ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。レバーを引いている間はワイパーが作動し、レバーを離した後さらに 2 ～ 3 回作動します。

リヤデフロスタースイッチ

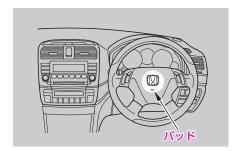
リヤガラスを暖め、曇りを取ることができます。

▼

エンジンスイッチが“II”のときスイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。

知 識

- リヤデフロスタースイッチを押すと、ドアミラーの曇り取りも同時に機能します。
  ヒーテッドドアミラー
  →77ページ
- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。“ON”のままであっても、約35分経過後自動的に“OFF”になります。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。
- リヤガラスの内側に電熱線が装着されています。電熱線は傷つきやすいので清掃のときは電熱線に沿ってやわらかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。

ホーンスイッチ

ハンドルのパッドを押すとホーンが鳴ります。

運転のしかた

エンジンのかけかた

⚠警告

- バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動をしないでください。
  バッテリーが破裂するおそれがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。
  車内や屋内などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠注意

- エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

アドバイス

- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ずHonda販売店で点検を受けてください。

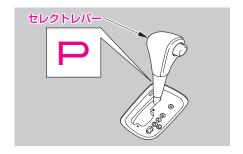
Hondaスマートキーシステム装備車は、Hondaスマートキーを運転者が携帯し、車内にHondaスマートキーを残したまま降車しないでください。
また、電池の消耗などでHondaスマートキーが正常に作動しないときは、内蔵キーを使ってエンジンを始動してください。

内蔵キーの差し込みかた　→364ページ

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

パーキングブレーキの操作
→162ページ

②セレクトレバーがⓅの位置にあることを確認してください。

セレクトレバーの操作　→164ページ

③ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

④ Hondaスマートキーシステム装備車
エンジンスイッチノブを押し込みます。“ピッ”というブザーが鳴ってから、ゆっくりと回してください。

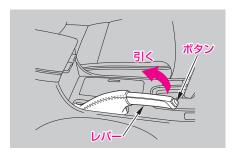
⑤アクセルペダルを踏まずに、エンジンスイッチをゆっくりと“III”まで回し、エンジンが始動したら手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

知　識

- 消費電力の大きいライト類、エアコン、リヤデフロスターのスイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンスイッチは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度エンジンスイッチを“ I ”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
- 始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。
- 周囲の電波状態などによりエンジンが始動できないことがあります。
  イモビライザーシステムについて
  →62ページ
- エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、エンジンスイッチを回してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを徐々に戻してください。
- エンジン始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。

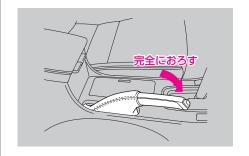
パーキングブレーキ

かけるとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。

後輪ブレーキが効きます。

解除するとき

①レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押します。

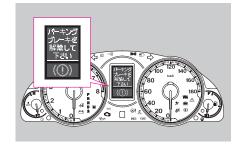
②ボタンを押したまま、レバーを下に完全におろします。

⚠注意

●パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知　識

●駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。
寒冷時のパーキングブレーキの取り扱い →392ページ

パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行（車速約 7 km/h以上）するとブザーが鳴り、パーキングブレーキの戻し忘れを知らせます。
また、マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングブレーキを解除して下さい”と表示されます。

パーキングブレーキを完全に解除するとブザーは止まります。
ブレーキ警告灯 →129ページ

知　識

●停車（車速約 3 km/h以下）するとブザーによる警告は一旦止まります。

セレクトレバーの操作

●それぞれの位置のはたらき

パーキング

駐車およびエンジンを始動する位置。
キーを抜く位置。

知 識

●セレクトレバーがⓅ以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。

リバース

車を後退(バック)させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーがⓇに入っていることを運転者に知らせます。

ニュートラル

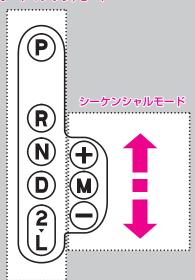
中立位置。
(エンジン始動できますが、安全のためⓅで行ってください。)

ドライブ

通常の走行をする位置。
(1速から5速まで自動的に変速されます。)
シーケンシャルモードにすることができます。

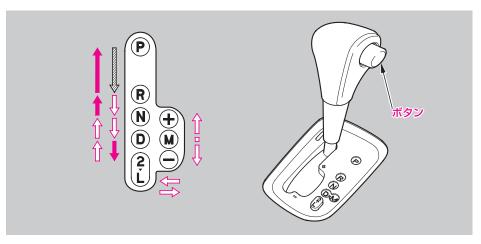
2 セカンド

エンジンブレーキが必要なときに使う位置。
{2速のままで変速されません。Lスイッチを押してL(ロー)モードにセットすると、1速のままで変速されません。}

L(ロー)モード →167ページ

シーケンシャルモード

停車中や走行中に、セレクトレバーをⒹから運転席側に動かすと、シーケンシャルモードがセットされⓂ表示灯が点灯します。マニュアルトランスミッションのような操作ができます。
15km/h以下になると、自動的に１速にシフトダウンします。車速が上がると自動的に１速➞２速にシフトアップしますが、３速以上には自動的にシフトアップしません。

シーケンシャルモードの使いかた
➞169ページ
M(シーケンシャルモード)表示灯
➞122ページ

●セレクトレバーの動かしかた

ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押してレバーを操作します。

ボタンを押さずにレバーを操作します。

ボタンを押してレバーを操作します。

知 識

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Ⓟのときは、ボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが“Ⅰ”または“0”のときは、ブレーキペダルを踏んでもⓅから他の位置に切り換えられません。

  いつもボタンを押して操作すると意に反してⓅⓇ②に入れてしまうおそれがあります。

  ⇧⇩の操作は、ボタンを押さずに動かす習慣をつけてください。

●L(ロー)モード

強力なエンジンブレーキが必要なときに使用します。
セレクトレバーが、2のときに、Lスイッチを押してL(ロー)モードにセットすると、1速に変速後、1速に固定され、メーター中央のギヤの位置に“L”が表示されます。
スイッチをもう一度押すか、セレクトレバーを2以外に入れるとL(ロー)モードは解除されます。

スイッチを押しても車速が約50km/h以下にならないと2速から1速に変速されません。

●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の各セレクトレバー位置での速度範囲内で切り換えを行ってください。

<table>
<tr><th colspan="2">セレクトレバーの位置</th><th>速　度　範　囲</th><th>変　速　範　囲</th></tr>
<tr><td colspan="2">D</td><td>0 km/h～</td><td>1↔2↔3↔4↔5速(自動)</td></tr>
<tr><td></td><td>シーケンシャルモード</td><td>0 km/h～</td><td>1↔2(自動)
2↔3↔4↔5速(手動)</td></tr>
<tr><td colspan="2">2</td><td>0～104km/h</td><td>2速固定</td></tr>
<tr><td></td><td>L(ロー)モード</td><td>0～50km/h</td><td>1速固定</td></tr>
</table>

⚠注意

- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
  シフトダウンする際の車速には、十分注意してください。

アドバイス

- シーケンシャルモードでは自動的にシフトアップしません。
  エンジン故障などの原因となりますので、下記の限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないように運転してください。
  限界回転数 ･････････6,800 rpm

知 識

- 法定速度を守って走行してください。
- 1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。
- エンジンの回転をあやまって限界回転数以上(レッドゾーン)で運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

●シーケンシャルモードの使いかた

シフトアップするとき

レバーを＋側に動かすとシフトアップ（高速ギヤに変速）します。

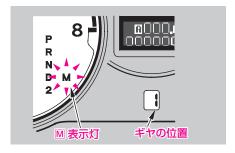
シフトダウンするとき

レバーを－側に動かすとシフトダウン（低速ギヤに変速）します。

知　識

- レバーの操作１回で、ギヤが１段ずつ変速します。連続して操作したときは、ギヤを連続して変速します。レバーを＋または－に倒したままでは、連続変速しません。続けて変速するときは、一旦レバーを戻してから操作してください。

・シーケンシャルモード表示灯

シーケンシャルモードにするとⓂ表示灯が点灯します。また、メーター中央にギヤの位置を表示します。

M（シーケンシャルモード）表示灯
→122ページ

シーケンシャルモードを解除するとき

レバーを助手席側に動かすと、シーケンシャルモードは解除されⓂ表示灯は消灯し、通常のⒹ（ATモード）に戻ります。

M（シーケンシャルモード）表示灯
→122ページ

●操作受けつけ車速

シーケンシャルモードでは、以下の条件のときにレバーを操作すると変速します。

	シフトアップ	シフトダウン
1速↔2速	（自動）	（自動）
2速↔3速	17km/h以上	102km/h以下
3速↔4速	29km/h以上	158km/h以下
4速↔5速	48km/h以上	――――

また、シフトダウン時（5速→4速、4速→3速および3速→2速）に速度範囲を超えているときは、表示灯が点滅（最大約1秒間）します。点滅している間に車速が速度範囲内に下がったときはシフトダウンを行います。

知 識

- 1速↔2速は自動変速します。手動変速はできません。
- シーケンシャルモードでは、発進は1速のみで行えます。
- 以下の場合、自動的にシフトダウンすることがあります。
  - 15km/h以下になると、1速になります。
  - 5速で48km/h以下になると、4速になります。
  - 5速で55～75km/hのときに、登坂時に車速が下がったときや、降坂時にブレーキを踏んだときは4速になることがあります。
  - 4速で29km/h以下になると、3速になります。
  - 4速で30～60km/hのときに、登坂時に車速が下がったときや、降坂時にブレーキを踏んだときは3速になることがあります。
- エンジン始動直後の低温時に、シフトが出来ないことがあります。また、このときはⒹモードになります。

オートマチック車の運転のしかた

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り換えを自動化したもので、その分、操作の負担が軽くなり、運転が楽になりますが、運転の基本を十分理解し、正しく操作する習慣をつけてください。

エンジンをかける前に

正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。

知　識

- ペダルの踏みまちがいを防ぐため、ペダルの位置を実際に踏んでみて足におぼえさせておくことが重要です。
  また、不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。
- 車を少し移動させるときにもペダルが確実に踏めるように、正しい運転姿勢をとりましょう。

エンジン始動

①パーキングブレーキがかかっていることを確認。
②セレクトレバーがⓅに入っていることを確認。

知　識

● Ⓝでも始動できますが、安全のため駆動輪が固定されるⓅで行ってください。

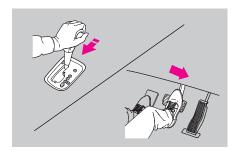
③ブレーキペダルを右足で踏んで始動。

知　識

● イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときはエンジンを始動することができません。
イモビライザーシステムについて　→62ページ
イモビライザーシステム表示灯　→123ページ

● 始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。

発進

①右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを前進は[D]、後退は[R]に入れる。

⚠注意

- アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

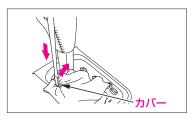
②レバーの位置を目で再確認。
③パーキングブレーキを解除する。
④ブレーキ警告灯が消灯したことを確認。
（→129ページ）
⑤ブレーキペダルを徐々に離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。

知　識

- セレクトレバーを[P][N]以外に入れると、クリープ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。ブレーキペダルを踏んでいてください。
- エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
- セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- オートマチック車は、発進時の速度をアクセル操作のみで調節するので、アクセル操作は慎重に行ってください。

知　識

●万一、ブレーキペダルを踏んでもⓅから他の位置に切り換えられないときは、

①ドライバーの先端に布等をまいてシフトロック解除穴のカバーを外します。

②シフトロック解除穴にキーを差し込み、押しながらレバーを操作してください。

急な坂道での発進

セレクトレバーの位置を目で確認し、

・パーキングブレーキをかけたままブレーキペダルから足を離し、
・アクセルペダルをゆっくり踏んで、
・車が動き出す感触を確認しながら、
・パーキングブレーキを解除して発進。

走行

走行中はセレクトレバーを[N]にしないでください。

知 識

- [N]にするとエンジンブレーキが全く効かなくなるため思わぬ事故の原因になります。
  また[N]にしても燃費の差はほとんどありません。

通常走行

セレクトレバーを[D]にして走行します。アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、1速から5速まで自動的に変速されます。

・シーケンシャルモード走行

停車中や走行中に、セレクトレバーを[D]からシーケンシャルゲートに入れると、シーケンシャルモードがセットされ[M]表示灯が点灯します。マニュアルトランスミッションのような操作ができます。

シーケンシャルモードの使いかた
→169ページ
M(シーケンシャルモード)表示灯
→122ページ

急加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速します。

上り坂走行

坂の勾配に応じ、セレクトレバーを2にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂走行

下り坂をDのまま走行すると、エンジンブレーキのききが弱く、速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときには、セレクトレバーを2にします。
シーケンシャルモードのときには、走行速度に合わせ、ギヤを一段ずつ落としてエンジンブレーキを併用してください。
シーケンシャルモードでは1速↔2速は自動変速になり、1速で走行中に速度が上がると自動的に2速に変速します。
さらに強力なエンジンブレーキが必要なときは、セレクトレバーを2にして、Lスイッチを押してL(ロー)モードにします。

⚠注意

- フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では、必ずエンジンブレーキを併用してください。

エンジンブレーキ →18ページ

停車

①Ⓓのままブレーキペダルをしっかりと踏んでおく。
必要に応じてパーキングブレーキをかける。

アドバイス

- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でⓅⓃ以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

知　識

- 急な上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。
- セレクトレバーがⓅⓃ以外でエアコンスイッチが入っている場合などは、エンジン回転数が断続的に高くなりクリープ現象が強まります。ブレーキペダルを特にしっかりと踏み込んでください。

②停車時間が長くなるときはセレクトレバーをⓃに入れる。

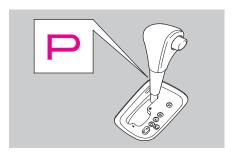
⚠注意

- 停車中、空ぶかしをしないでください。
万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外のとき、思わぬ急発進の原因になります。

知　識

- 停車後、再発進するときは、思い違いのないようセレクトレバーがⒹにあることを確認してください。
- セレクトレバーがⓃでもエンジンが冷えているときは、トランスミッションオイルの粘性により車がわずかに動き出すことがありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

駐車

①車を完全に止める。
②ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
③セレクトレバーをⓅに入れる。

知　識

●駐車の際は、セレクトレバーが必ずⓅに入っていることを確認してください。セレクトレバーがⓅのときは、駆動輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。

④エンジンを止める。

⚠注意

●エンジンをかけたままにしておくと、万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外に入っていたとき、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

アドバイス

●車が完全に止まらないうちにⓅに入れないでください。トランスミッション破損の原因となります。

知　識

●環境保護のため駐車時にはエンジンを止めましょう。

ほかに気をつけたいこと

⚠注意

- セレクトレバーは正しい位置で使用してください。
  坂道などで、前進（Ⓓ、②、Ⓜ）の位置にしたまま惰性で後退したり、後退（Ⓡ）の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

車を少し移動させるとき

このような場合でも、正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

車を後退させるとき

この場合、体をうしろにひねった姿勢になり、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキペダルは確実に踏めるよう注意してください。

クルーズコントロール

タイプ別装備※

高速道路または加速、減速の繰り返しの少ない自動車道などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
車速は、Dまたはシーケンシャルモードでは2速以上のとき約30〜100km/hの範囲で希望値に設定できます。
また、アクセルペダルを踏まずに車速を上げ下げしたり、一時的な減速後、もとの車速に自動的に戻すことができます。

※：IHCC、HiDS装備車については、別冊のIHCC取扱説明書かHiDS取扱説明書をご覧ください。

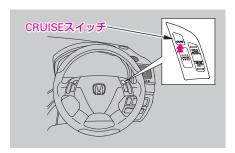
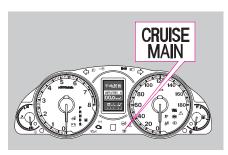
⚠警告

- クルーズコントロールはつぎのような道路では使用しないでください。
  道路状況によっては、思わぬ事故につながります。
  - 混んでいて車間距離が十分とれない道路、急カーブのある道路（道路状況にあった速度で走行できません。）
  - 急な下り坂のある道路（エンジンブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。）
  - 凍結や積雪などで滑りやすい道路（タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。）

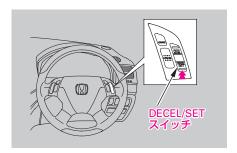
知　識

- 上り坂や下り坂では、条件により、一定車速を保てない場合があります。

●希望車速をセットし、定速走行をしたいときの操作

①CRUISE（クルーズ）スイッチを押して、クルーズコントロールを“ON”にします。

“ON”のとき、メーター内のCRUISE MAIN表示灯が点灯します。

知　識

- エンジンスイッチを“Ⅰ”または“0”にするとCRUISEスイッチは自動的に“OFF”になります。

②アクセルペダルを加減して希望の車速になったらDECEL/SETスイッチを押して離します。
（スイッチを離したときの車速にセットされます。）

車速がセットされ自動定速走行になると、マルチインフォメーションディスプレイ内に“CRUISE CONTROL”が表示されます。（設定車速は表示されません。）

知　識

- 自動定速走行をしないときは、安全のためCRUISEスイッチを押して“OFF”にしておいてください。

●設定車速を上げたいとき

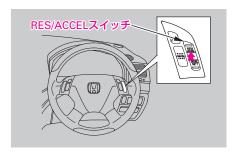
RES/ACCELスイッチで車速を上げる場合

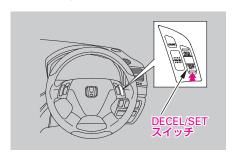
・スイッチを１回ずつ押す

…１回押すごとに約1.5km/hずつ車速が上がります。

・スイッチを押し続ける

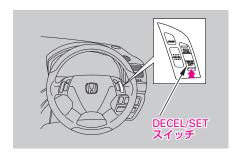
…押し続けた分だけ車速が上がります。

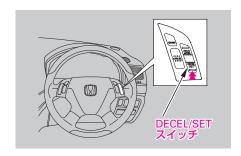
（スイッチを離したときの車速にセットされます。）

アクセルペダルで車速を上げる場合

アクセルペダルを踏んで加速し、希望の車速になったときにDECEL/SETスイッチを押して離します。

（スイッチを離したときの車速がセットされます。）

●設定車速を下げたいとき

DECEL/SETスイッチで車速を下げる場合

・スイッチを1回ずつ押す
　…1回押すごとに約1.5km/hずつ車速が下がります。
・スイッチを押し続ける
　…押し続けた分だけエンジンブレーキで減速をし、車速が下がります。（スイッチを離したときの車速にセットされます。）

ブレーキペダルで車速を下げる場合

ブレーキペダルを踏んで減速し希望の車速になったときに、ブレーキペダルから足を離し、DECEL/SETスイッチを押して離します。
（スイッチを離したときの車速がセットされます。）

●解除するとき

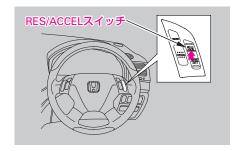
次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。

・CANCEL（キャンセル）スイッチを押したとき。
・ブレーキペダルを踏んだとき
・CRUISEスイッチを押したとき
・セレクトレバーを[2]または[N]にしたとき

知　識

●自動定速走行が解除されると、マルチインフォメーションディスプレイの“CRUISE CONTROL”の表示が消灯します。
●車速が約25km/h以下になると、自動定速走行が自動で解除されます。

●解除前の設定車速に戻したいとき

自動定速走行を解除した後、車速が約30 km/h以上になっている場合は、RES/ACCELスイッチを押すと、解除前に設定した車速まで戻り、再び自動定速走行ができます。

知　識

●次の操作をして自動定速走行を解除したときは、RES/ACCELスイッチを押しても車速の復帰はできません。
もう一度、車速を設定し直してください。
・CRUISEスイッチを押したとき
・車速が約25km/h以下になったとき

安全装備

SRSエアバッグシステム
（運転席／助手席用シートベルト補助乗員保護装置）

SRSエアバッグシステムのしくみ

●SRSエアバッグシステムとは

前方向からの衝突により、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和する装置です。

SRSエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- SRSエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときSRSエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

*SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略でシートベルトの補助拘束装置の意味

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃（正しくシートベルトを着用していてもハンドルに顔面があたり、けがをするような場合）を感知するとシステムが作動し、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和します。
また、衝突状況とシートベルト着用の状況により、運転席側と助手席側のSRSエアバッグとシートベルトプリテンショナーの作動を独立制御します。
そのため、シートベルトプリテンショナーのみ作動したり、運転席または助手席のSRSエアバッグが片側のみ作動することがあります。

⚠注意

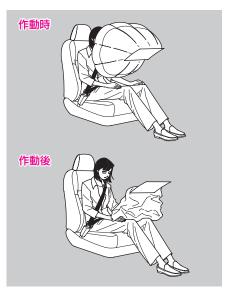
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

知　識

- 車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 膨らんだSRSエアバッグはすぐにしぼみます。視界を妨げません。
- SRSエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目や皮膚などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
  皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激することがあります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  Honda販売店で交換してください。

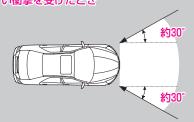
運転席用SRSエアバッグシステム

助手席用SRSエアバッグシステム

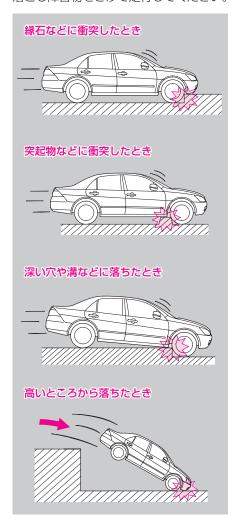
助手席用SRSエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。

作動するとき

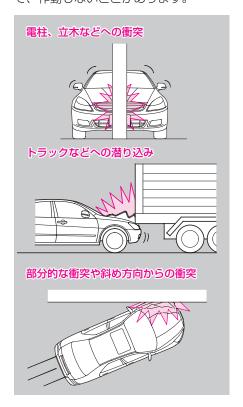
次のような場合に作動します。

20〜30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき

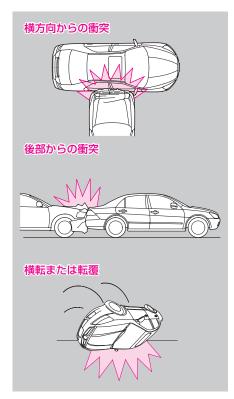
車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

知識

- 衝撃を吸収できる物(車やガードレールのように変形する物)に衝突した場合、SRSエアバッグが作動するときの速度(車速)は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

作動しないとき

衝突の位置、衝撃の度合い、角度によって、作動しないことがあります。

知　識

●車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRSエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

知　識

●事故の状況、形態によっては、SRSエアバッグが作動することがあります。

SRSエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

運転席

正しい運転姿勢(シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態)がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。

⚠警告

- ハンドルに顔や胸などを近づけていると、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。

⚠警告

- インストルメントパネルに顔や胸などが近づかないようにシートを後ろに下げてください。また、インストルメントパネルに手や足などを置かないでください。
  SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。

お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

●チャイルドシートの取り付けについて

⚠警告

- 助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
  また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。

取り扱いについて

⚠注意

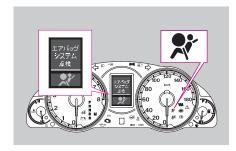
- SRSエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりすると正常に機能しなくなります。

- インストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
  フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。
  また、SRSエアバッグと乗員との間にテレビなどの用品を取り付けたり、物を置いたりしないでください。
  正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。

知識

- ハンドルまわり、インストルメントパネルまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよびダッシュボード周辺の板金塗装および修理をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずHonda販売店にご相談ください。正しく取り扱わないとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。
- サスペンションの改造をしないでください。車高やサスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながります。（Honda純正品を除く）

●SRSエアバッグシステム警告灯

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイに“エアバッグシステム点検”が表示されます。

エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき。

  必要なときにSRSエアバッグが膨らまないおそれがあります。

サイドエアバッグシステム／サイドカーテンエアバッグシステム

タイプ別装備

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムのしくみ

●サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムとは

側面からの衝突により、サイドエアバッグ(運転者または助手席同乗者)およびサイドカーテンエアバッグが膨らんで乗員とドアの間に入り込むことにより、ドアと乗員の頭部や胸部などが衝突するときの衝撃を緩和する装置です。

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、側面からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃(頭部や胸部に重傷を及ぼすような場合)を感知するとシステムが作動し、衝撃を受けた側のサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんで乗員とドアの間に入り込むことにより、ドアと乗員の頭部や胸部などが衝突するときの衝撃を緩和します。
助手席側は乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

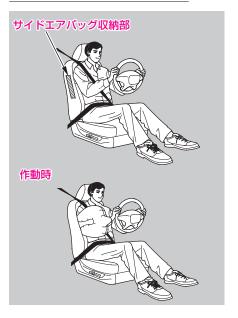
乗員姿勢検知システム　→203ページ

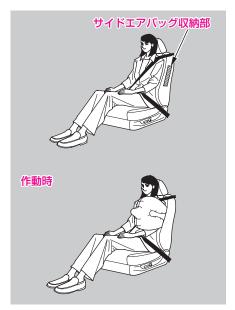
⚠注意

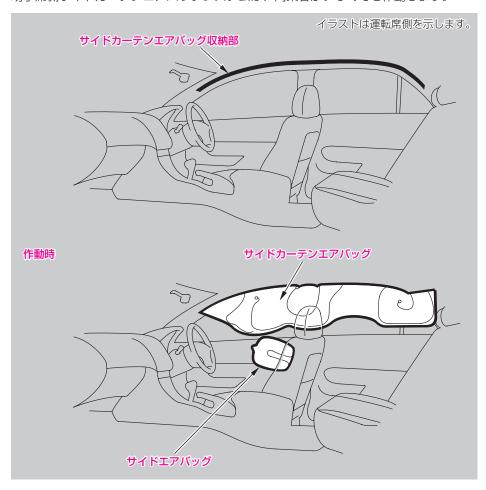
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんだ直後は、エアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

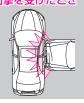
知　識

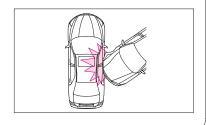
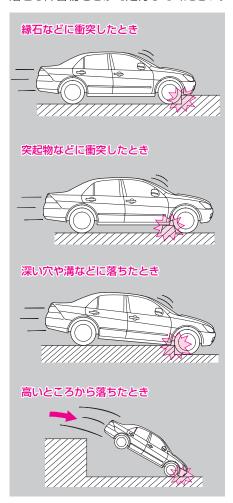
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは膨らんだあとにしぼみます。
- サイドエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  Honda販売店で交換してください。

運転席サイドエアバッグシステム

助手席サイドエアバッグシステム

助手席用サイドエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。

サイドカーテンエアバッグシステム

助手席側にもサイドカーテンエアバッグが収納されています。
助手席側サイドカーテンエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。

作動するとき

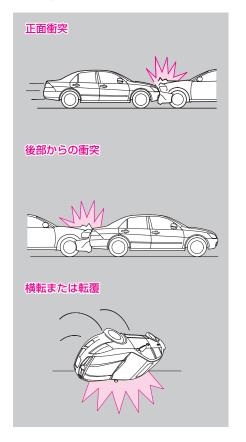
次のような場合に作動します。

知 識

● 側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動するときの速度(車速)は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

次のような場合、作動しないことがあります。

知　識

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

作動しないとき

低い速度での衝突や次のような場合、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がないので作動しません。ただし、状況によっては、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動することがあります。

知　識

- 事故の状況と、形態によっては、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動することがあります。

助手席側は、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

乗員姿勢検知システム　→203ページ

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

運転席

正しい運転姿勢(シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態)がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。

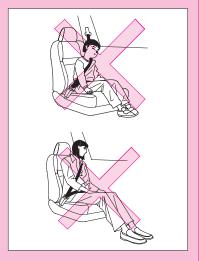
助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。

後席(外側)

シートに深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。

⚠注意

- ドアに寄りかからないようにしてください。サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの各格納部に手や顔などを必要以上に近づけないでください。また、後席同乗者は前席の背もたれを抱えないでください。
  サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。

乗員姿勢検知システム(助手席のみ)

●乗員姿勢検知システムとは

乗車時の姿勢が不適切な場合、サイドエアバッグが膨らむことにより重大な傷害を受けるおそれがあるため、助手席乗員の姿勢を検知し、サイドエアバッグの作動を自動的に停止する装置です。

知　識

- シート表皮の裏にセンサーが取り付けられているため、次のような場合には、乗員姿勢検知システムが正常に機能しないおそれがあります。
  - ・シートの背もたれがぬれているとき。
  - ・金属など電気を通す物が接しているとき。
  - ・シートにクッションなどを装着しているとき。
  - ・ダウンジャケット等の厚い上着を着ているとき。
  - ・水分を含んだ物を助手席に置いているとき。

●サイドエアバッグの作動を自動停止するとき

次のような場合、サイドエアバッグの作動を自動停止します。このときメーター内のサイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯します。

サイドエアバック自動停止表示灯
→204ページ

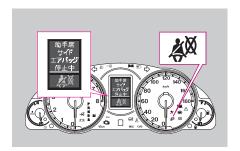
また、マルチインフォメーションディスプレイに“助手席サイドエアバッグ停止中”“正しい乗車姿勢を取って下さい”が表示されます。

知　識

- 次のような場合でも、サイドエアバッグの作動を自動停止することがあります。
  - ・小柄な大人の方が上のイラストと同じような姿勢をとったとき。
  - ・大人の方が前かがみになるまたは、寝そべっていて、ドア側に寄りかかっているとき。

●サイドエアバッグ自動停止表示灯

メーター内に組み込まれており、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断し、サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。また、マルチインフォメーションディスプレイに“助手席サイドエアバッグ停止中”“正しい乗車姿勢を取って下さい”が表示されます。

表示灯が点灯したときは、上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。

エンジンスイッチを“II”にしたときに約５秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 表示灯が次のような状態になったときは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・正しい乗車姿勢をとっても消灯しないとき、あるいは助手席に乗員がいないのに消灯しないとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約５秒経過しても消灯しないとき。

お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

知　識

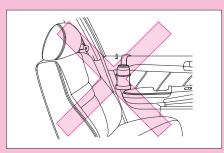
- 次のような場合は、表示灯が点灯することがあります。表示灯が点灯しているときは、サイドエアバッグの作動を自動停止します。
  - ・シートの背もたれがぬれているとき。
  - ・金属など電気を通す物が接しているとき。
  - ・水分を含んだ物を助手席に置いているとき。

取り扱いについて

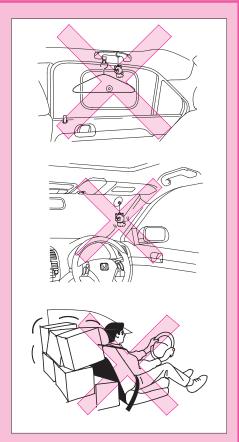
⚠注意

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ドアやその周辺にカップホルダーなどを取り付けないでください。
  また、シートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
  サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグはドアに沿って膨らむため、正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。

- フロントシートにこの車専用のHonda純正用品（シートカバーなど）以外を取り付けないでください。サイドエアバッグはシートの背もたれ外側に収納されていて、シート表皮のぬい目を破って膨らむため、正常に機能しなくなるおそれがあります。

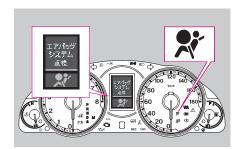
- フロントシートの背もたれを倒した状態でとびはねるなど、サイドエアバッグ収納部に無理な力を加えないでください。

⚠注意

- グラブレールに物をかけないでください。
  コートフックには、ハンガーや重い物、とがった物をかけないでください。

  フロントガラス、ドアガラスに物やアクセサリーなどを取り付けないでください。フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにこの車専用のHonda純正用品（ハンズフリー通信キットなど）以外を取り付けないでください。
  サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。
- フロント、センター、リヤの各ピラーやルーフなど、サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えたりしないでください。
- エアバッグが収納されているルーフサイド、フロント、センター、リヤの各ピラーやルーフに傷がついていたり、ひび割れがある時は、そのまま使用せずにHonda販売店で交換してください。
- 座席に荷物を載せるときは、ドアガラス下端部の高さを越えないようにしてください。サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなったり、作動時に荷物が飛ぶことがあります。

知　識

- フロントシートまわり、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品を取り付ける場合は、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずHonda販売店にご相談ください。正しく取り扱わないとサイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステムとシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、サイドエアバッグユニットまたはサイドカーテンエアバッグユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイに“エアバッグシステム点検”が表示されます。

エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のような状態になったときは、サイドエアバッグシステム、サイドカーテンエアバッグシステムまたは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
- 運転中に点灯したとき。
- エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき。

必要なときにサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らまないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーのしくみ

●シートベルトプリテンショナーとは

前方向からの衝突により、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高める装置です。

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃を感知するとシステムが作動し、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高めます。

⚠注意

- シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとプリテンショナーが十分に効果を発揮しません。
  - ・シートベルトを正しく着用してください。

    シートベルト →80ページ
  - ・正しい運転(乗車)姿勢をとってください。

    正しい運転姿勢 →66ページ

知　識

- シートベルトプリテンショナーは、シートベルトを着用していないと作動しません。
- シートベルトプリテンショナーは一度作動すると、再使用できません。作動すると、シートベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなります。Honda販売店で交換してください。

取り扱いについて

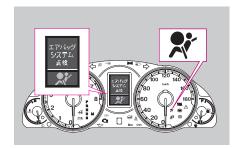
⚠注意

- シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。

知 識

- シートベルト引き込み装置やセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよび修理をする場合は、プリテンショナーに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- シートベルトプリテンショナー装備車を廃棄するときは、必ずHonda販売店にご相談ください。
  正しく取り扱わないとプリテンショナーとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステムとシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイに“エアバッグシステム点検”が表示されます。

エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
- ・運転中に点灯したとき。
- ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき。

必要なときにシートベルトが引き込まれないおそれがあります。

E-プリテンショナー

タイプ別装備

E-プリテンショナーのしくみ

●E-プリテンショナーとは

衝突するおそれがあるときなどに、運転席と助手席のシートベルトを衝突前に巻き取ることで、シートベルトの拘束効果を高める装置です。

●どのように作動するか

前方の車両に追突するおそれがあるときに、追突軽減ブレーキ(CMS)と連動して作動し、シートベルトを巻き取ります。また、ブレーキアシストとも連動して作動します。
作動後は、巻き取ったシートベルトをもとの状態に戻します。

追突軽減ブレーキ(CMS) →224ページ
ブレーキアシスト →218ページ

⚠注意

- シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとE-プリテンショナーが十分に効果を発揮しません。
  - ・シートベルトを正しく着用してください。
    シートベルト →80ページ
  - ・正しい運転姿勢をとってください。
    正しい運転姿勢 →66ページ

知 識

- E-プリテンショナーは、シートベルトを着用していないと作動しません。
- 衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動した場合は、シートベルトを引き出せなくなります。Honda販売店で交換してください。
- E-プリテンショナーのみが作動したときは、交換する必要はありません。
- VSA警告灯が点灯しているときは、E-プリテンショナーは作動しません。

取り扱いについて

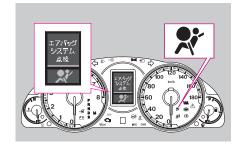
⚠注意

- シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。

知　識

- シートベルト引き込み装置付近の修理をする場合は、E-プリテンショナーに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステム警告灯とシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、E-プリテンショナーユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイに“エアバッグシステム点検”が表示されます。

エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - 運転中に点灯したとき。
  - エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき。

  必要なときにE-プリテンショナーが作動しないおそれがあります。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

ABSのしくみ

●ABSとは

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

・低速（車速約10km/h以下）ではABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。

知　識

●エンジン始動後、最初の発進時に、エンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。

運転のしかた

・この装置は制動距離を短くするためのものではありません。ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
また、ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、ハイドロプレーニング現象が起こりやすい雨天時の高速走行などにおいても過信せず、安全運転に心がけてください。

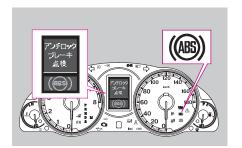
・悪路、砂利道、深い新雪などの路面では、ABSの装備されていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
このような道路条件では速度は控えめにして車間距離を十分にとって運転してください。

取り扱いについて

知 識

- タイヤは必ず四輪とも同一指定サイズのものをお使いください。サイズ(外径)の異なるタイヤを混用すると、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

●アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

メーター内に組み込まれており、ABSが異常のときに点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイに"アンチロックブレーキ点検"が表示されます。

エンジンスイッチを"II"にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。
また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを"II"にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。

  なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしての作動はしません)
- 警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したときは、ブレーキ力の配分機能も作動しないため、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ブレーキアシスト

ブレーキアシストのしくみ

●ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きい制動力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。
・ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり作動音が聞こえることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。
そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。
・E-プリテンショナー装備車は、ブレーキアシストの作動と同時に運転席シートベルトが引き込まれます。

E-プリテンショナー　→214ページ

取り扱いについて

知　識

●VSA警告灯が点灯しているときは、ブレーキアシストは作動しません。なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。

ビークルスタビリティアシスト（VSA）（車両挙動安定化制御システム）

VSAのしくみ

●VSAとは

ABS機能、TCS機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

ABS（アンチロックブレーキシステム）機能

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする機能です。

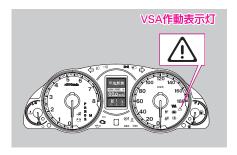
TCS（トラクションコントロールシステム）機能

滑りやすい路面などでの駆動輪（前輪）の無駄な空転を防止し、駆動力・操舵能力を確保しようとする機能です。

横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

●作動について

TCS機能と横滑り抑制機能は、エンジンを始動すれば自動的に“ON”になります。TCS機能または横滑り抑制機能が作動中は、メーター内のVSA作動表示灯が点滅します。

VSA作動表示灯は、エンジンスイッチを“II”にしたときに点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。

アドバイス

- 表示灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中にVSA警告灯と同時に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。

  なお、この場合でも通常走行には支障はありません。

知 識

- 発進時等にエンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。
- VSA警告灯が点灯するとVSA作動表示灯も同時に点灯します。

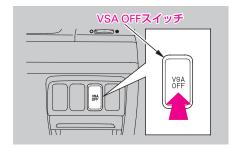
運転のしかた

VSAが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- ・カーブの手前では十分に速度を落としてください。
- ・雪道、凍結路を走るときは、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着し、ひかえめな速度で運転してください。

取り扱いについて

TCS機能と横滑り抑制機能を作動させたくないとき

VSA OFFスイッチを押すとTCS機能と横滑り抑制機能が“OFF”になりメーター内のVSA作動表示灯が点灯します。

スイッチを押すごとに“OFF”と“ON”をくり返します。

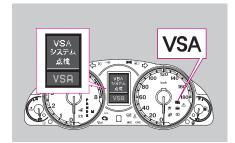
知　識

- TCS機能または横滑り抑制機能が作動中には、スイッチを押しても“OFF”にすることはできません。
- エンジンスイッチを“Ⅰ”または“0”にするとVSAは“ON”の状態に戻ります。

アドバイス

- VSA装備車は四輪とも、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤを指定空気圧にてお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用したり、指定空気圧でない場合、VSAが正常に機能しなくなることがあります。また、応急用スペアタイヤを装着した場合も、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

●ビークルスタビリティアシスト（VSA）警告灯

メーター内に組み込まれており、VSAが異常のときに点灯します。
また、マルチインフォメーションディスプレイに“VSAシステム点検”が表示されます。

エンジンスイッチを“II”にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。

  なお、この場合でも通常走行には支障はありません。

知　識

- けん引されたときやけん引したときは、警告灯が点灯することがあります。この場合はエンジンを再始動させて警告灯が消灯すればVSAは正常です。
- ABS警告灯が点灯するとVSA警告灯も同時に点灯します。
- VSA装備車は、ブレーキアシストの装置に異常があると、VSA警告灯が点灯します。

ブレーキアシスト　→218ページ

追突軽減ブレーキ(CMS)

タイプ別装備

CMSのしくみ

●CMSとは

自車が前方の車両にほぼ真後ろから追突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、追突するときの衝撃を軽減する装置です。

CMSは、追突を自動で回避したり、自動で車を停止させるシステムではありません。

CMSの機能には限界がありますので、運転するときはシステムを過信せず、常に前方および周囲の状況に気をつけて、安全運転を心がけてください。

⚠警告

- CMS装備車であっても、正しく運転しないと追突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
  運転するときは、前方および周囲の状況に応じて、常に適切なブレーキ操作およびハンドル操作をしてください。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは、前方の車両を正しく検知することができず、CMSが作動しないことがあります。

CMSは、フロントグリルの奥に取り付けられているレーダーセンサーから発信した電波で前方にある車両を検知します。

レーダーセンサーについて →230ページ

●作動について

エンジンスイッチを“II”にすると、CMSはONになり、追突警報の設定(CMS FARまたはCMS NEAR)がマルチインフォメーションディスプレイに約5秒間表示されます。

追突警報の設定について →228ページ
マルチインフォメーションディスプレイ →98ページ

CMSを停止するとき

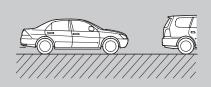
CMSの作動をOFFにすることができます。

CMSの停止について →229ページ

知 識

- CMSをOFFにしていたときは、エンジンスイッチを“II”にしてもCMSはOFFのままです。このときはマルチインフォメーションディスプレイに“CMS OFF”が表示され、CMS警告灯も点灯します。再度CMSをONにするときは、“OFF”スイッチを約1秒以上押します。
- エンジン始動時、またはエンジンスイッチを“II”にするときは、車を静止した状態で行ってください。また、駐車場のターンテーブルなどで車の向きを変える場合は、エンジンスイッチを“0”にしてください。
  車両が動いているときにエンジンスイッチを“II”にすると、ヨーレートセンサーが正しく作動しなくなり、走行中に前方の車両を正しく検知できないことがあります。

約15km/h以上の速度で走行しているときに、自車の前方に追突する危険がある車両を検知すると作動し、追突警報（警告ブザーと警告表示）と弱いブレーキで運転者に注意をうながします。続いて追突するときの衝撃を軽減するためのブレーキが作動します。

追突警報について →228ページ

知 識

- 前方の車両と自車との速度差が、約15km/h以下の場合は、CMSによるブレーキは作動しません。
- 運転者が追突を回避するために、ブレーキ操作やハンドル操作を行うと、運転者の操作を優先してCMSは作動しないことがあります。
- CMSによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

CMSによるブレーキが作動するときは、E-プリテンショナーも作動して、運転席と助手席のシートベルトを巻き取り、拘束効果を高めます。

E-プリテンショナー →214ページ

知 識

- CMSによる弱いブレーキが作動するときは、運転者に前方の車両への注意をうながすため、E-プリテンショナーも作動してシートベルトを2～3回軽く引き込みます。
ただし、状況によっては、シートベルトの軽い引き込みをしない場合があります。

●作動しないとき

前方にある車両の検知には限界があるため、次のような場合には、CMSは作動しません。

・前方にある車両との車間距離がいちじるしく短いとき。
・交差点などで、自車の前方に車が飛び出したとき。

知　識

●次のような場合には、前方にある車両を正しく検知することができず、CMSが作動しない場合があります。
　・自車の前方に車両が割り込み、急な減速を行ったとき。
　・急加速を行って前方の車両に接近しているとき。
　・悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)。
　・フロントグリルのエンブレムが汚れているとき。
●前方の車両との部分的な衝突や接触のおそれがあっても、CMSが作動しない場合があります。
●道路状況(カーブなど)、自車の状況(ハンドルの操作や車線内の位置)および前方の車両の状況(車の向き)によっては、前方の車両を正しく検知できず、CMSが作動しない場合があります。

知　識

●自転車や2輪車に対しては、CMSが作動しない場合があります。
●歩行者や動物に対しては、CMSは作動しません。

●追突以外での作動について

次のような場合には、CMSが作動することがあります。車間距離を確保し、適切な速度で走行してください。

・追い越しや交差点などで、前方の車両や対向車に接近して走行するとき。
・低いゲートや狭いゲートなどを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき。

知　識

●道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドルの操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物(電柱や標識など)を検知して、CMSが作動する場合があります。
●道路の段差や落下物に対して、CMSが作動する場合があります。

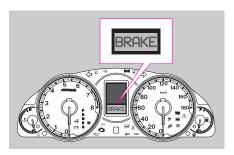
追突警報について

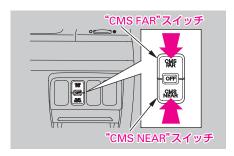
前方の車両に追突するおそれがある場合に、警告ブザーと警告表示で前方への注意を運転者にうながします。
この場合は、ブレーキペダルを踏むなど、適切な操作を行ってください。

警告ブザー

ブザー(ピッピッピッ…)が鳴ります。

警告表示

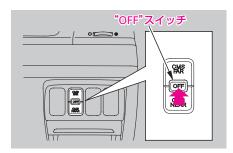
マルチインフォメーションディスプレイに"BRAKE"がオレンジ色で点滅します。

追突警報の設定について

追突するおそれがある車両に対して、追突警報が作動する距離を2段階に調節することができます。"CMS FAR"スイッチを押すと距離が遠くなり、"CMS NEAR"スイッチを押すと距離が近くなります。

スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに設定(CMS FARまたはCMS NEAR)が表示されます。

知 識

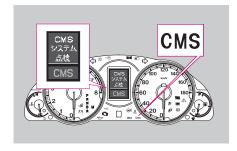
- 設定をCMS NEARにすると追突警報の開始が遅くなり、CMS FARにすると追突警報の開始が早くなります。道路状況に合わせてお使いください。
  なお、ブレーキの作動開始は変わりません。

CMSの停止について

CMSを使用しないときは、“OFF”スイッチを約１秒以上押します。CMSをOFFにするとCMS警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“CMS OFF”が表示されます。このときブザー(ピー)も同時に鳴ります。

CMSを使用するときは、再度“OFF”スイッチを約１秒以上押します。CMSをONにするとCMS警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“CMS FAR”または“CMS NEAR”が表示されます。このときブザー(ピー)も同時に鳴ります。

CMSの自動停止について

次の場合には、CMSが自動で停止され、メーター内のCMS警告灯が点灯します。また、マルチインフォメーションディスプレイに“CMSシステム点検”が約５秒間表示されます。

- タイヤの異常を検出したとき
- 山岳路や悪路などを長時間走行したとき
- パーキングブレーキをかけたまま走行したとき

CMSが作動できる状態になると、CMSは自動で復帰します。

知　識

- 次のような場合にも、CMSは自動で停止します。
  - 悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)。
  - フロントグリルのエンブレムに汚れが付いたとき。

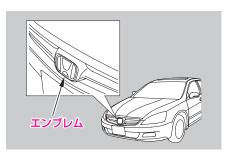
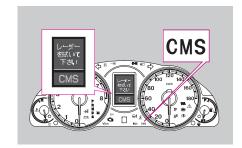
エンブレムが汚れたとき

→230ページ

取り扱いについて

CMSのレーダーセンサーは、フロントグリルのエンブレムの奥に取り付けられています。

エンブレムが汚れて、前方の車両を検知できなくなると、CMSが自動で停止し、メーター内のCMS警告灯が点灯します。また、マルチインフォメーションディスプレイに"レーダー汚れ"、"レーダーを拭いて下さい"が約5秒間表示されます。

この場合は、エンブレムの汚れをやわらかい布などできれいに拭き取ってください。

知 識

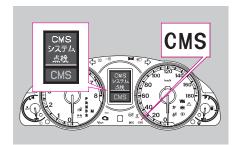
- 交通量が少なく、レーダーセンサーから発信した電波を反射する物が少ない道路を走行すると、マルチインフォメーションディスプレイに"レーダー汚れ"が一時的に表示されることがあります。

知 識

- システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
  - エンブレムは常にきれいな状態にしてください。
  - エンブレムの汚れがひどいときは、水や中性洗剤などで汚れを拭き取ってください。エンブレムを損傷する原因となりますので、ベンジン、シンナー類およびクレンザーなどの磨き粉類は使わないでください。
  - エンブレムにステッカーなどを貼ったり、エンブレムを交換しないでください。レーダーの電波がさえぎられます。
  - レーダーセンサー本体の横にある調整ボルトは回さないでください。
  - レーダーセンサー本体やその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。
    万一、衝撃が加わった場合は、“OFF”スイッチを約1秒以上押してCMSをOFFにし、Honda販売店にご相談ください。
  - フロントグリル周辺の修理を行う際は、Honda販売店にご相談ください。

- CMSのレーダーセンサーはIHCCのレーダーセンサーと共用しています。
- 次のようなときは、システムが正常に作動しないおそれがあります。
  - トランクやリヤシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき。
  - タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき。
- サスペンションの改造はしないでください。車の傾きなどでシステムが正常に作動しないおそれがあります。
- 四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●追突軽減ブレーキ(CMS)警告灯

メーター内に組み込まれており、CMSが異常のときに点灯します。また、マルチインフォメーションディスプレイに“CMSシステム点検”が表示されます。

エンジンスイッチを“II”にしたときに数秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。

・運転中に点灯したとき。
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。

警告灯が点灯しているときは、CMSは作動しません。

知　識

●次の場合にもCMS警告灯が点灯します。

・CMSをOFFにしているとき。
・CMSが自動で停止したとき。
・悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)。
・フロントグリルのエンブレムに汚れが付いたとき。

●VSA警告灯が点灯するとCMS警告灯も同時に点灯します。

その他の安全装備

ほかに、次のような安全装備を採用しています。

●シフトロック装置

セレクトレバーの誤操作防止を助けます。

(→25ページ)

●ハイマウントストップランプ

ストップランプを高い位置にも設置し、後方から見えやすくしています。

●後席三点式シートベルト

上半身も拘束する三点式シートベルトを後席にも採用しています。

(→83ページ)

●シートベルトリマインダー（非着用警報装置）

シートベルトの未着用をランプとブザーで知らせ、ベルトの着用を促します。

(→83、131ページ)

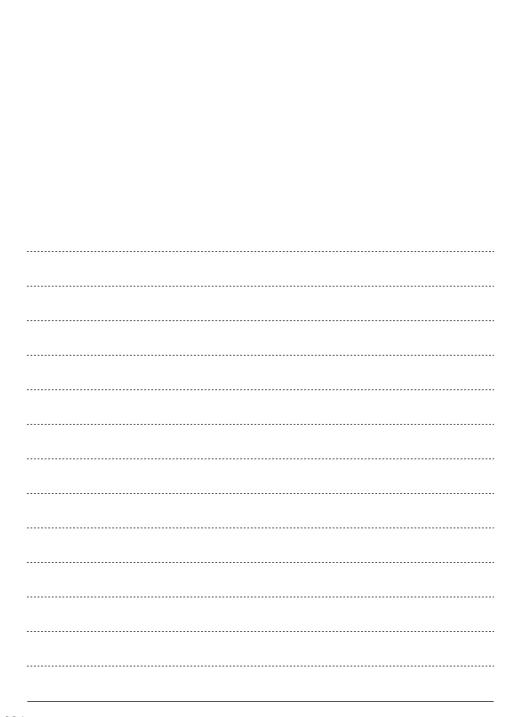
●ドアビーム

側面から外力が加わったときに、ドアの変形を抑える効果があります。

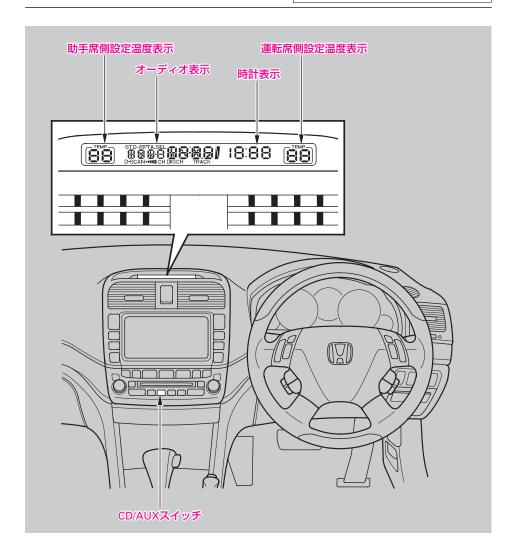
●ロールオーバーバルブ

車が転倒したとき、燃料タンクからの燃料流出を防止します。

●難燃性材料使用の内装

フロアカーペットやシートなどには、燃え広がりにくい素材を採用しています。

ドライブを快適にする装備

インフォメーションディスプレイ

Hondaインターナビシステム装備車

知 識

● メーターのイルミネーションコントロールで車幅灯点灯時の減光を解除すると、インフォメーションディスプレイの減光も解除されます。

イルミネーションコントロール　96→ページ

表示について

インフォメーションディスプレイは、次のような表示を行います。

1オーディオ表示

オーディオが“ON”のとき、作動について表示します。
オーディオの操作については、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

2時計表示

エンジンスイッチが“Ｉ”または“II”のとき、時刻を表示します。

知　識

- 時計は、人工衛星（GPS）からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

3温度表示

エアコンが作動しているとき、運転席側および助手席側の温度を表示します。

エアコンの操作について　→242ページ

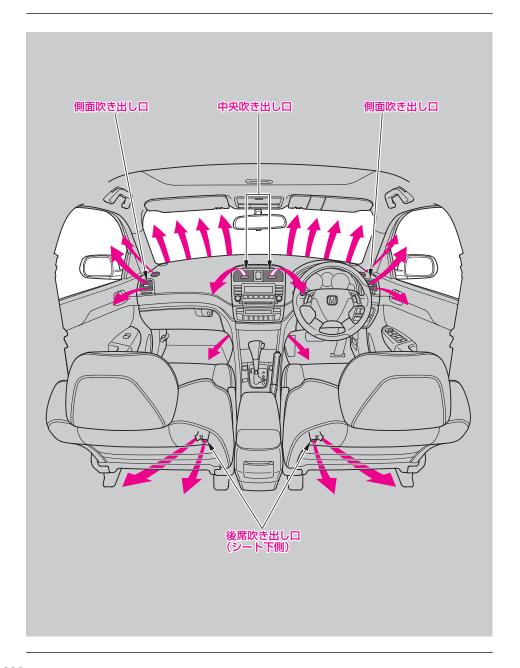
●表示の消しかた

CD/AUXスイッチを“ピッ”という電子音がするまで押すと表示が消えます。

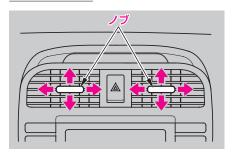
再び表示するときは、CD/AUXスイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

知　識

- 表示を消しているときに、エンジンスイッチを“０”にしてから、“Ｉ”または“II”にすると、再び表示します。

エアコン

吹き出し風の調節

ノブを上下または左右に動かして、吹き出し風の向きを調節します。

中央吹き出し口

側面吹き出し口

ダイヤルで開閉できます。
送風が必要なときは、ダイヤルを“開”のほうに回します。

○ ………… 吹き出し口が開きます。
● ………… 吹き出し口が閉じます。

・運転席側

・助手席側

知　識

● 側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風がガラスに直接当たるよう両側の吹き出し口の向きを調節すれば、より早く曇りを取ることができます。

エアコンインデックス

オートエアコン
（Hondaインターナビシステム装備車）

オートエアコン
（Hondaインターナビシステム非装備車）

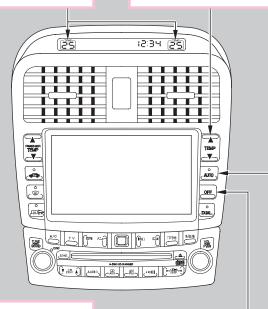
オートエアコン（Hondaインターナビシステム装備車）

●オートエアコンを使うとき

エンジンをかけた状態で使います。

運転席側および助手席側の設定温度を表示します。表示温度は室温設定時の目安となります。

温度調節スイッチ

スイッチを押して温度を調節します。

OFFスイッチ

スイッチを押すとエアコン、ファンの作動が停止します。

AUTOスイッチ

スイッチを押すと、オートエアコンが作動します。（表示灯点灯）
風量、吹き出し口や内外気の切り換え、エアコンの“ON/OFF”などが自動制御されます。

通常の使いかた

①AUTOスイッチを押します。
②運転席側温度調節スイッチで室内の温度を設定します。

停止するときはOFFスイッチを押します。

知　識

- 外気温によっては、冷風の吹き出しを防ぐため、オートエアコン作動後一定時間ファンが回転しないことがあります。
- 希望温度に設定したら、温度調節スイッチをむやみに押さないでください。設定温度への到達時間が長くなることがあります。
- 両側が連動で作動しているときに助手席側温度調節スイッチを押すか、DUALスイッチを押すと独立作動モード(表示灯点灯)になり、設定温度を運転席側と助手席側で別々に調節することができます。

別々に調節するとき　→248ページ

- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。
- 設定温度表示で“Lo”は最大冷房を“Hi”は最大暖房を示します。

●マニュアルセレクトで使うとき

A/Cスイッチを押して、Hondaインターナビシステムの画面にA/Cマニュアル画面を表示させます。

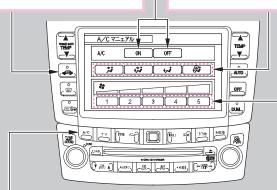
エアコンスイッチ

ONに触れるとエアコンが“ON”になり、
OFFに触れるとエアコンが“OFF”になります。
冷房や除湿運転をするときは、“ON”にします。

内外気切り換えスイッチ

スイッチを押して外気導入(表示灯消灯)と内気循環(表示灯点灯)を切り換えます。
トンネルや渋滞地域などで汚れている外気を室内に入れたくないときは、内気循環にします。

モードスイッチ

スイッチに触れて吹き出し口を切り換えます。
(右ページ参照)

A/Cスイッチ

スイッチを押すとHondaインターナビシステムの画面にA/Cマニュアル画面が表示されます。
もう一度押すとA/Cマニュアル画面は消えます。

ファンスピード切り換えスイッチ

スイッチに触れてファンスピードを切り換えます。

位置	1	2	3	4	5
風量	微	弱	中	強	最強

各スイッチや操作を組み合わせて使うことができます。
AUTO（自動）で使用中でも調節したスイッチの機能が優先されます。このときAUTOスイッチの表示灯は消えますが、調節した機能以外は自動制御されます。
AUTO（自動）に戻すときは、AUTOスイッチを押します。

モードスイッチ

上半身に送風したいとき

上半身、足元に送風したいとき

足元に送風したいとき

足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき

●前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）

デフロスタースイッチを押します。

デフロスタースイッチ

ガラスの曇り取りなどに使用します。スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、外気導入に切り換わります。また、吹き出し口が前面および側面ガラスに切り換わります。

知　識

- デフロスタースイッチを入れているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇ることがあり、視界の妨げになります。
- デフロスター作動中はDUALスイッチまたは助手席側温度調節スイッチを押しても独立作動モードにはなりません。

急速に霜を取りたいとき

知　識

●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

●設定温度を運転席側と助手席側で別々に調節するとき

設定温度表示
運転席側および助手席側の設定温度を表示します。表示温度は室温設定時の目安となります。

温度調節スイッチ（運転席側）
スイッチを押して運転席側の温度を調節します。

温度調節スイッチ（助手席側）
スイッチを押して助手席側の温度を調節します。また、両側が連動で作動しているときにスイッチを押すと、独立作動モードに切り換わります。

DUALスイッチ
スイッチを押すと独立作動モードになります。（表示灯点灯）
運転席側と助手席側の設定温度を別々に調節できます。

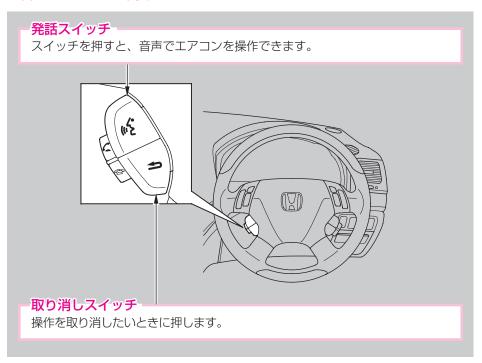
使いかた

①DUALスイッチまたは助手席側の温度調節スイッチを押して、独立作動モードに切り換えます。（DUALスイッチの表示灯点灯）
②運転席側または助手席側の温度調節スイッチを押して温度を設定します。

連動モードに戻すときは、DUALスイッチをもう一度押します。（DUALスイッチの表示灯消灯）

知　識

- デフロスターを作動させると、連動モードに切り換わります。（DUALスイッチの表示灯が消灯します。）
- 助手席側の設定温度が運転席側と異なる状態で連動モードに戻すと、運転席側の設定温度に切り換わります。

●音声でエアコンを調節するとき

使いかた

①発話スイッチを押します。
②"ピッ"と音が鳴ってから、目的の操作を言います。
例)エアコンを作動させるとき…「エアコンオン」と言います。

Hondaインターナビシステムが音声を認識すると、「エアコンをオンします…」と言ってエアコンを作動します。
音声を認識できずに操作ができなかったときは、もう一度発話スイッチを押して操作します。

音声を誤認識して別の操作をしてしまったとき

取り消しスイッチを押してから、もう一度発話スイッチを押して、目的の操作を言い直します。

音声操作の一例

発した言葉	応答
えあこんおん（エアコンオン）	エアコンをオンします
えあこんおふ（エアコンオフ）	エアコンをオフします
あつい	設定温度を“1”下げます
さむい	設定温度を“1”上げます
ないき（内気）	“内気循環”にします
がいき（外気）	“外気導入”にします
でゅあるもーどおん（デュアルモード）	設定温度を左右独立にします
でゅあるもーどおふ （デュアルモードオフ）	左右の設定温度を同じにします
にじゅうごど	設定温度を“25”にします （操作を受け付ける温度は18°C～32°Cの間です。）

音声操作の詳細については、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書 音声操作編をご覧ください。

●エアコンを常用しないとき

装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

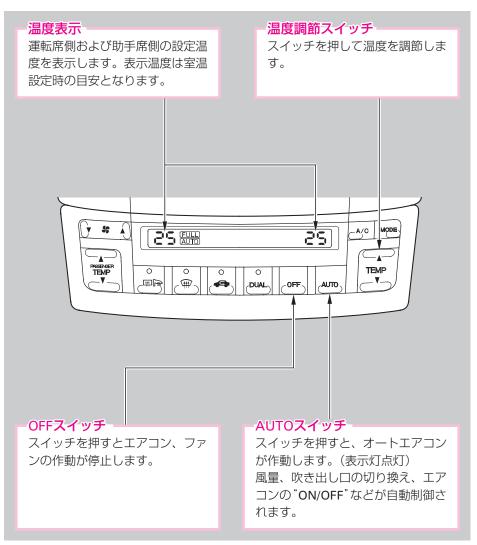
知 識

- 室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

●温度感知装置

オートエアコンには、温度感知装置などのセンサーがついています。日射感知部や車内温度感知部の上に物を置いたり、水をかけたりしないでください。車内温度が設定温度とずれることがあります。

オートエアコン（Hondaインターナビシステム非装備車）

●オートエアコンを使うとき

エンジンをかけた状態で使います。

<u>通常の使いかた</u>

①AUTOスイッチを押します。
②運転席側温度調節スイッチで室内の温度を設定します。

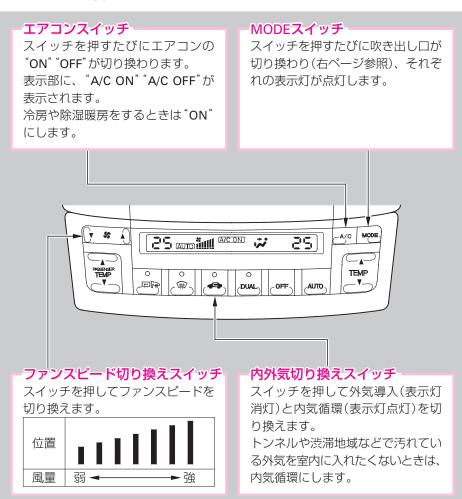
停止するときはOFFスイッチを押します。

知　識

- 外気温によっては、冷風の吹き出しを防ぐため、オートエアコン作動後一定時間ファンが回転しないことがあります。
- 希望温度に設定したら、温度調節スイッチをむやみに押さないでください。設定温度への到達時間が長くなることがあります。
- 両側が連動で作動しているときに助手席側温度調節スイッチを押すか、DUALスイッチを押すと独立作動モード(表示灯点灯)になり、設定温度を運転席側と助手席側で別々に調節することができます。

別々に調節するとき　→260ページ

- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。
- 設定温度表示で“Lo”は最大冷房を“Hi”は最大暖房を示します。

●マニュアルで使うとき

各スイッチを組み合わせて使うことができます。
“FULL AUTO”(自動)で使用中でも押したスイッチの機能が優先されます。このとき“FULL”の表示は消えますが、押したスイッチの機能以外は自動制御されます。
“FULL AUTO”(自動)に戻すときは、AUTOスイッチを押します。

MODEスイッチ

足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき

足元に送風したいとき

上半身、足元に送風したいとき

上半身に送風したいとき

●前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）

デフロスタースイッチを押します。

デフロスタースイッチ

ガラスの曇り取りなどに使用します。スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、外気導入に切り換わります。また、吹き出し口が前面および側面ガラスに切り換わります。

知　識

- デフロスタースイッチを入れているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇ることがあり、視界の妨げになります。
- デフロスター作動中はDUALスイッチまたは助手席側温度調節スイッチを押しても独立作動モードにはなりません。

急速に霜を取りたいとき

知　識

● 内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

●設定温度を運転席側と助手席側で別々に調節するとき

設定温度表示
運転席側および助手席側の設定温度を表示します。表示温度は室温設定時の目安となります。

温度調節スイッチ（運転席側）
スイッチを押して運転席側の温度を調節します。

温度調節スイッチ（助手席側）
スイッチを押して助手席側の温度を調節します。また、両側が連動で作動しているときにスイッチを押すと、独立作動モードに切り換わります。

DUALスイッチ
スイッチを押すと独立作動モードになります。（表示灯点灯）
運転席側と助手席側の設定温度を別々に調節できます。

使いかた

①DUALスイッチまたは助手席側の温度調節スイッチを押して、独立作動モードに切り換えます。（DUALスイッチの表示灯点灯）
②運転席側または助手席側の温度調節スイッチを押して温度を設定します。

連動モードに戻すときは、DUALスイッチをもう一度押します。（DUALスイッチの表示灯消灯）

知　識

- デフロスターを作動させると、連動モードに切り換わります。（DUALスイッチの表示灯が消灯します。）
- 助手席側の設定温度が運転席側と異なる状態で連動モードに戻すと、運転席側の設定温度に切り換わります。

●エアコンを常用しないとき

装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

知　識

- 室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

●温度感知装置

オートエアコンには、温度感知装置などのセンサーがついています。日射感知部や車内温度感知部の上に物を置いたり、水をかけたりしないでください。車内温度が設定温度とずれることがあります。

エアクリーンフィルター

エアコンには、空気中のちり・ほこり・粉じん等を集じんし、ディーゼル排ガス臭・タバコ臭などに脱臭効果のあるエアクリーンフィルターが取り付けられています。
エアクリーンフィルターの交換は、通常1年または15,000kmごとに行ってください。
ただし、使用条件により異なりますので粉じんの多い場所などでは、早めの交換をおすすめします。
また、芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなったり、脱臭寿命が短くなることがあります。

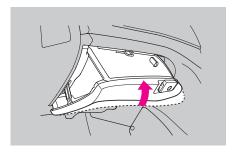
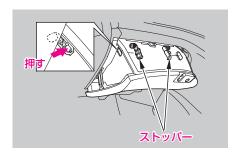
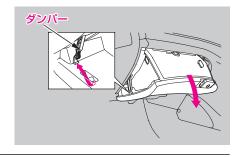
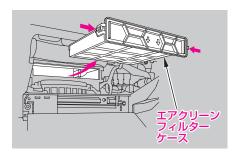
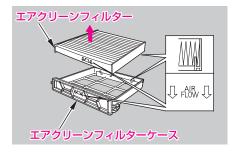
・エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときなどは、フィルターの目詰まりが考えられます。

知 識

- グローブボックスの内側に交換時期が記載してあります。

交換のしかた

①グローブボックスを開け、全開の状態から少し戻します。

グローブボックス →311ページ

②グローブボックスの両側についているストッパーを内側に押し出して外します。

③グローブボックスをダンパーから外して一番下まで下ろします。

④左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースを引き出します。

⑤エアクリーンフィルターケースからエアクリーンフィルターを外して新品と交換します。交換するときはケースとフィルターの“AIR FLOW”マークの矢印が同じ方向(下向き)になるように取り付けてください。

知 識

- エアクリーンフィルターを交換するときは、取り付け方向に注意してください。フィルターの取り付け方向を間違えると、フィルターの効果を十分に発揮しません。

シートヒーター

タイプ別注文装備

運転席、助手席のシートを暖めることができます。
エンジンスイッチが“II”のとき使えます。

▼

スイッチを“HI”側か“LO”側に押します。シートを早く暖めたいときは“HI”側を押します。暖まったら“LO”側にしてください。作動中、押している側の表示灯が点灯します。スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

スイッチの状態	シートヒーターの状態
HI LO	HI
HI LO	OFF
HI LO	LO

⚠注意

● 次のようなかたは、熱すぎたり低温やけどをすることがありますので、ご使用になるときは十分注意してください。
- 乳幼児、お子さま、お年寄、病気のかた、体の不自由なかた。
- 皮ふの弱いかた。
- 疲労の激しいかた。
- 深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用されたかた。

また、毛布や座ぶとんなどの保温性の高いものをかけて使用すると、低温やけどをすることがあります。

知　識

- この装置は消費電力が大きいのでエンジンが停止しているときは長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。
- 凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針や釘など鋭利な物を突きさしたりしないでください。
- シートの手入れには、シンナー、ベンジン、アルコール、ガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターおよびシート表面を損傷するおそれがあります。
- **サイドエアバッグシステム装備車**
助手席の背もたれには、サイドエアバッグシステムの乗員姿勢検知システムのセンサーが装備されているため、ヒーター機能はありません。

オーディオ

上手な使いかた

知　識

- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全運転の妨げとなります。
また、運転中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うとオーディオに雑音が入ることがあります。

●ラジオについて

ラジオの受信については、車の走行にともない受信状態が刻々と変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

●CD/MDについて

ディスクの変形を避けるため、直射日光や高温多湿を避けてケースに入れ保管してください。

悪路走行などで激しく振動した場合、音とびすることがあります。

寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露(水滴)が生じ、正しく作動しなくなることがあります。その場合、ディスクを取り出し、換気または除湿をしてからお使いください。

CD

ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。

下記マークのついていないディスクおよび円形以外のディスクは使えません。

知　識

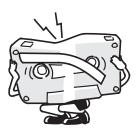
- ディスクは必ず円形のものをお使いください。円形以外のディスクを使用すると故障の原因となります。

MD

シャッターを無理にあけないでください。こわれることがあります。
また、ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。

●カセットについて

次のようなカセットテープは、故障の原因になりますので、ご使用はお避けください。

・ラベルがはがれかけていたり変形したカセットテープを使用すると、回転不良を起こしたりテープが取り出せなくなる場合があります。

・120分以上のテープは非常に薄いため、伸びたり、プレーヤーに巻き付いたりする場合があります。

カセットテープは、変形したり録音が消えてしまわないようにほこり、直射日光や磁気のあるものの近くを避けてケースに入れ保管してください。

カセットテープは、プレーヤーにテープが巻き込まれたりしないように鉛筆などでたるみをとってから差し込んでください。

音が歪んだり高音が出にくくなった場合は、市販のクリーニングテープなどでプレーヤーの手入れをしてください。

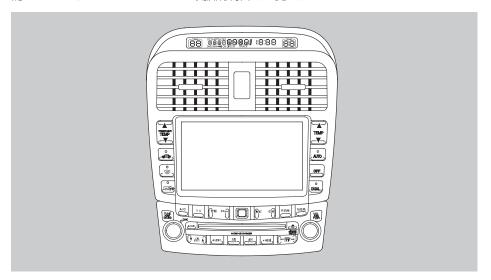
アンテナ

リヤガラス内側にアンテナ線があります。

知　識

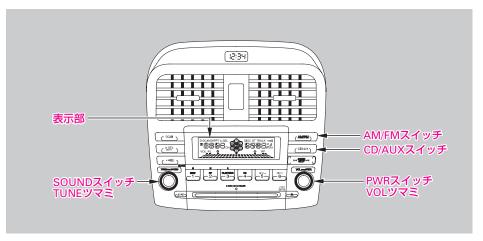
● アンテナ線は傷つきやすいので、清掃のときはアンテナ線に沿って柔らかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。

オーディオインデックス

Hondaインターナビシステム装備車のオーディオ・テレビの取り扱いについては、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

AM/FMラジオ一体式CDチェンジャーステレオ（Hondaインターナビシステム非装備車）

※：Honda純正のオーディオを接続し、操作することができます。詳しくはHonda販売店にご相談ください。

AM/FMラジオ一体式CDチェンジャーステレオ（Hondaインターナビシステム非装備車）

エンジンスイッチが“Ｉ”または“II”のときに使えます。

●電源の入れかた

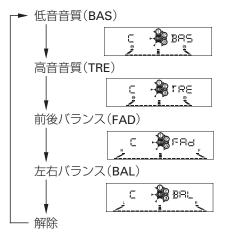
PWRスイッチを押して、電源を入れます。押すたびに“ON”↔“OFF”になります。また、AM/FMスイッチ、CD/AUXスイッチを押して、電源を“ON”にすることもできます。

知　識

- プレミアムサウンドシステム装備車は、専用のパワーアンプを装着しています。このアンプは消費電力が大きいのでエンジンが停止しているときは長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

●音量調節のしかた

●音質、バランス調節のしかた

SOUNDスイッチを押して切り換え、TUNEツマミで調節します。

SOUNDスイッチを押すたびに切り換わります。

知　識

- ●調節後約５秒すぎると自動的に解除されます。
- ●調節位置が中央のときに表示部に“C”(センター)を表示します。

●オーディオモードの切り換え

・AM/FMスイッチ

ラジオに切り換わります。

・CD/AUXスイッチ

本体CDチェンジャーにディスクが入っているときに押すと、CD演奏に切り換わります。
Honda純正のオーディオを接続しているときに押すと、それらの演奏に切り換わります。

●表示の消しかた

CD/AUXスイッチを“ピッ”という電子音がするまで押すと表示が消えます。

CD/AUX

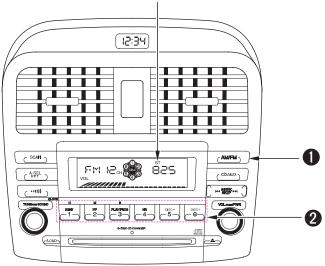
再び表示するときは、CD/AUXスイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

知　識

- ●表示を消しているときに、エンジンスイッチを“０”にしてから、“Ｉ”または“II”にすると、再び表示します。

●ラジオの使いかた

ラジオ放送のききかた

FMステレオ放送が感度よく受信できたときは、“ST”が点灯します。

❶ラジオに切り換え、バンドを選ぶ（AM/FMスイッチ）

スイッチを押して、FM1/FM2、AMを選びます。

❷選局する（ワンタッチ選局スイッチ）

あらかじめ放送局をセットしておくと、ワンタッチで選局できます。
FM12局（FM1、FM2それぞれ６局）、AM６局まで記憶できます。

ワンタッチ選局のセットのしかた

①AM/FMスイッチでFM1/FM2、AMを選びます。
②TUNEツマミ、SEEK/SKIPスイッチで選局します。

・TUNEツマミを回すと、受信周波数が少しずつ変わります。
・SEEK/SKIPスイッチを押すと、自動選局になり放送を受信すると止まります。

知　識

●受信電波が弱いときは、自動選局できないことがあります。このようなときは手動で選局してください。

③ワンタッチ選局スイッチのいずれか一つを“ピッ”という電子音がするまで(約2秒間)押し続けます。

知　識

●一度電源が切れた場合(車両のバッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど)、記憶が消去されます。そのときは再度記憶操作をしてください。

自動で放送局を記憶するには(オートセレクト)

放送局の違う地域へ出かけたときなど、セットされた放送局が聞けなくなった場合に操作します。

A.SEL RPTスイッチを押します。(“A·SEL”が点滅)

自動選局された電波の強い放送局が、周波数の低い順からワンタッチ選局スイッチにAM 6 局、FM12局まで自動的に記憶され“A·SEL”が点滅から点灯に変わります。

解除するときは、スイッチをもう一度押します。解除すると、ワンタッチ選局スイッチの記憶は、オートセレクトをする前の状態に戻ります。

知 識

- 放送局が 6 局または12局にみたない場合、残りのスイッチには何も記憶されません。記憶されていないスイッチを押すと、周波数が“ 0 ”と表示されます。
- オートセレクトされた放送局を個別に変更することもできます。

自動で放送局を数秒ずつ聞きたいときは(スキャン)

放送局でどんな番組を放送しているかを知りたいときに、操作します。

SCANスイッチを押します。(“SCAN”が点灯)

SCAN

電波の強い放送局が周波数の低い順から選局され、約 5 秒間つぎつぎと受信します。

解除するときは、スイッチをもう一度押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

交通情報をきくとき

·ıııl) スイッチを押すと、ワンタッチで交通情報を受信できます。（“ ·ıııl ”が点灯）

周波数を切り換えるとき（1620kHz↔1629kHz）

…SEEK/SKIPスイッチで切り換えます。

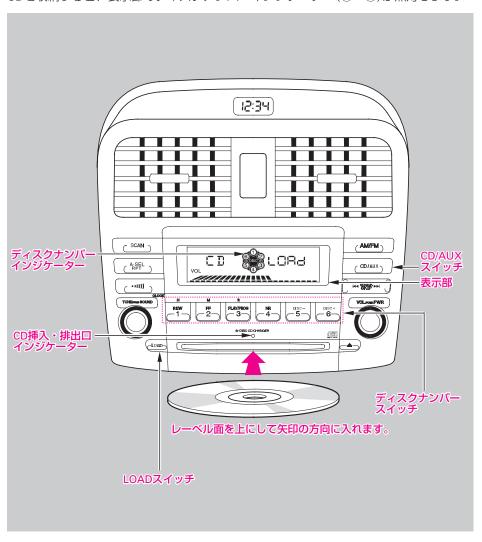
解除するとき

·ıııl) スイッチをもう一度押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

知 識

- ·ıııl) スイッチにあらかじめセットされている受信周波数を変えることはできません。
- ·ıııl) スイッチを使って交通情報を聞いているときは、ワンタッチ選局スイッチによる選局はできません。

●CDの挿入のしかた

エンジンスイッチが“I”または“II”のときに挿入できます。
CDを 6 枚まで収納することができます。
CDを収納すると、表示部のディスクナンバーインジケーター(①〜⑥)が点灯します。

1枚だけ挿入するとき

収納するディスクナンバーを指定しないとき

①LOADスイッチを短く押します。
②CDチェンジャーの収納部の中で最も小さい番号のディスクナンバーインジケーターが点滅します。（“BUSY”の点滅およびCD挿入・排出口インジケーターが赤の点滅）
③CD挿入待機状態になると、表示部が“LOAd”の表示とCD挿入・排出口インジケーターが緑の点灯に変わります。
④CDを挿入します。

収納するディスクナンバーを指定するとき

①CD/AUXスイッチを押して、CDチェンジャーモードにします。
②収納したい空きディスクナンバースイッチを押します。（“BUSY”の点滅およびCD挿入・排出口インジケーターが赤の点滅）
③CD挿入待機状態になると、表示部が“LOAd”の表示とCD挿入・排出口インジケーターが緑の点灯に変わります。
④CDを挿入します。

CDチェンジャーの使いかた　→288ページ

知　識

- CDチェンジャーは12cm CD専用です。8 cm CDは使わないでください。（CDアダプターを付けても使わないでください。）故障の原因になることがあります。
- ディスクナンバーを指定しないときは、モードに関係なくCDを挿入できます。
- CD挿入待機状態でないときに、無理にCDを挿入しないでください。
- CD挿入待機状態になってから約15秒以内にCDを挿入しないと、CD挿入待機状態は解除されます。
- CDを挿入すると再生されます。

ディスクナンバー
インジケーター
表示部
CD/AUX
スイッチ
レーベル面を上にして矢印の方向に入れます。
LOADスイッチ
CD挿入・排出口インジケーター

数枚連続して挿入するとき

①LOADスイッチを“ピッ”という電子音がするまで押します。
②CDチェンジャーの収納部の中で最も小さい番号のディスクナンバーインジケーターが点滅します。（“BUSY”の点滅およびCD挿入・排出口インジケーターが赤の点滅）
③CD挿入待機状態になると、表示部が“LOAd”の表示とCD挿入・排出口インジケーターが緑の点灯に変わります。
④CDを挿入します。
収納されたディスクナンバーインジケーターが点灯に変わり、次に小さい番号のディスクナンバーインジケーターが点滅します。（“BUSY”の点滅およびCD挿入・排出口インジケーターが赤の点滅）
⑤CD挿入待機状態になると、表示部が“LOAd”の表示とCD挿入・排出口インジケーターが緑の点灯に変わります。
⑥手順④⑤を繰り返します。
⑦６枚ディスクを収納すると、すべてのディスクナンバーインジケーターが点灯し、CD挿入待機状態は解除されます。

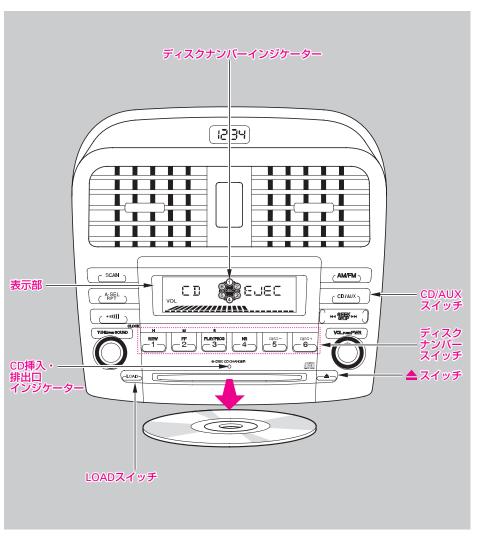
CDチェンジャーの使いかた　→288ページ

知　識

- CDチェンジャーは12cm CD専用です。８cm CDは使わないでください。（CDアダプターを付けても使わないでください。）故障の原因になることがあります。
- CD挿入待機状態になってから約15秒以内にCDを挿入しないと、CD挿入待機状態は解除されます。
- CDを６枚収納するかCD挿入待機状態が解除されると、最後に挿入されたCDが再生されます。

●CDの取り出しかた

エンジンスイッチが“Ⅰ”または“Ⅱ”のときに取り出せます。
エンジンスイッチが“0”のときにも取り出せます。

エマージェンシーイジェクト　→287ページ

1枚ずつ取り出すとき

取り出すディスクナンバーを指定しないとき

①▲スイッチを短く押します。（“EJEC”が点滅）
最後に再生されたCDのディスクナンバーインジケーターが点滅し、CDが排出されます。
②CDを取り出します。
③続けて▲ スイッチを押すと、取り出したCDの次に大きい番号のディスクナンバーインジケーターが点滅し、CDが排出されます。

知　識
- モードに関係なくCDを取り出せます。
- 取り出したCDのディスクナンバーはCD挿入待機状態になり、別のCDを挿入することができます。

CDの挿入のしかた　→280ページ

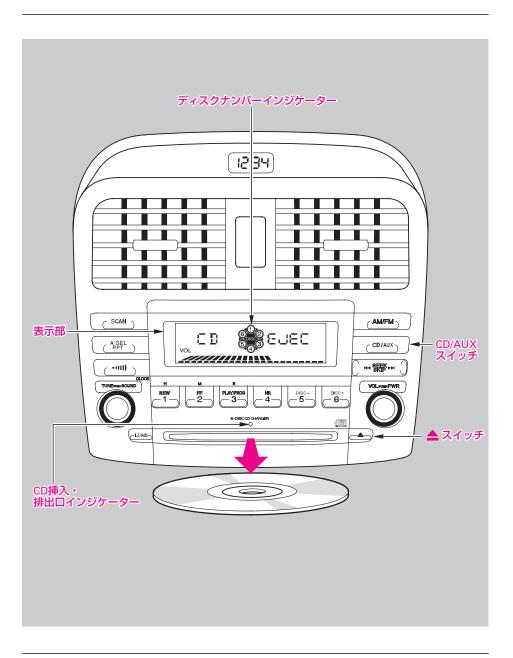
- ディスクやプレーヤーをゴミやほこりから保護するため、ディスクが押し出されたままで約15秒経過すると、自動的に内部に引き込まれます。

取り出すディスクナンバーを指定するとき

①CD/AUXスイッチを押して、CDチェンジャーモードにします。
②取り出したいCDのディスクナンバースイッチを押します。
③▲スイッチを短く押します。（“EJEC”が点滅）
選択されたCDのディスクナンバーインジケーターが点滅し、CDが排出されます。
④CDを取り出します。

知　識
- 再生中のCDを取り出すときは③以降の手順だけで取り出せます。
- 取り出したCDのディスクナンバーはCD挿入待機状態になり、別のCDを挿入することができます。

CDの挿入のしかた　→280ページ

- ディスクやプレーヤーをゴミやほこりから保護するため、ディスクが押し出されたままで約15秒経過すると、自動的に内部に引き込まれます。

すべて取り出すとき

① ▲スイッチを"ピッ"という電子音がするまで押します。("EJEC"が点滅)
　収納されているCDの中で、最後に再生されたCDから順にCDが排出されます。
②CDを取り出します。
③CDを取り出すと、自動的に次のCDが排出されますので、同様に取り出します。
④手順③を繰り返します。
⑤すべてのCDを取り出すと、ディスクナンバー1へのCD挿入待機状態になり、表示部が"LOAd"の表示とCD挿入・排出口インジケーターが緑の点灯に変わります。

CDの挿入のしかた　→280ページ

エマージェンシーイジェクト

エンジンスイッチが"0"のときにも取り出せますが、表示部にディスクナンバーが表示されないため、希望の1枚だけを取り出すことはできません。

1枚ずつ取り出すとき

① ▲スイッチを短く押します。
　最後に再生されたCDが排出されます。
②CDを取り出します。
③続けて ▲ スイッチを押すと、取り出したCDの次に大きいディスクナンバーのCDが排出されます。
④手順③を繰り返します。

すべて取り出すとき

① ▲ スイッチを約2秒押します。
②収納されているCDの中で、最後に再生されたCDから順にCDが排出されます。
③CDを取り出します。
④CDを取り出すと、自動的に次のCDが排出されますので、同様に取り出します。
⑤手順④を繰り返します。

●CDチェンジャーの使いかた

ディスク演奏のききかた

ディスクナンバーインジケーター
（CDが収納されているディスクナンバーが点灯）

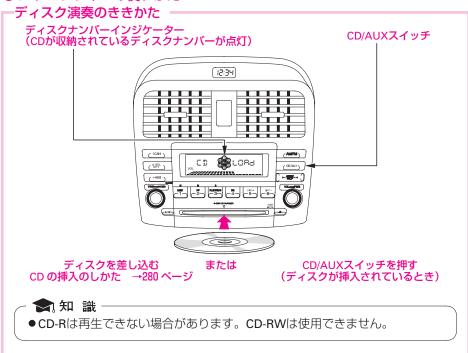
CD/AUXスイッチ

ディスクを差し込む
CD の挿入のしかた　→280 ページ

または

CD/AUXスイッチを押す
（ディスクが挿入されているとき）

知　識

●CD-Rは再生できない場合があります。CD-RWは使用できません。

ディスクを選ぶとき

ディスクナンバースイッチを押します。

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

I◀◀／▶▶Iスイッチを押します。

SEEK SKIP

早戻し
リプレイ

早送り
スキップ

・I◀◀／▶▶Iスイッチを押し続けると、早送り／早戻しになります。

・I◀◀／▶▶Iスイッチを短く押すと、スキップ(先の曲の頭出し)／リプレイ(演奏中、前の曲の頭出し)になります。

ききたい曲を探すとき(トラックスキャン、ディスクスキャン)

SCANスイッチを押します。

SCAN

- 短く押すとトラックスキャンになります。(“SCAN”が点灯)演奏中のディスクの各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
- “ピッ”という電子音がなるまで押すとディスクスキャンになります。(“D-SCAN”が点灯)
  ディスクチェンジャー内の全てのディスクの先頭の曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

知　識

● すべての曲をスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲から通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき(リピート)

A.SEL RPTスイッチを短く押します。(“RPT”が点灯)

リピート機能を解除するときは、スイッチをもう一度短く押します。

1枚のディスクの曲順をランダムに演奏するとき

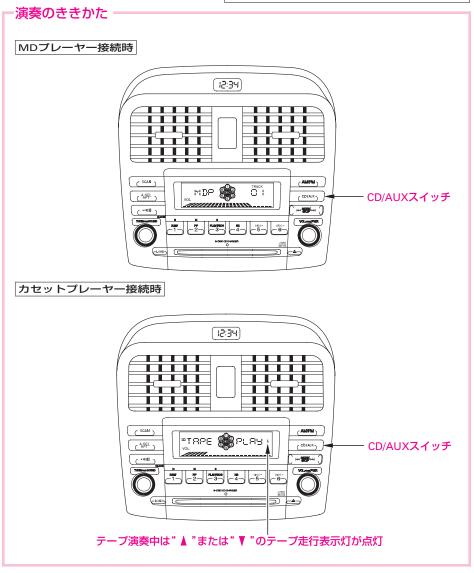
A.SEL RPTスイッチを“ピッ”という電子音がするまで押します。(“RDM”が点灯)

ランダム演奏の機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

●MD/カセットプレーヤーの使いかた

Honda純正のMD/カセットプレーヤー接続時

演奏のききかた

MDプレーヤー接続時

カセットプレーヤー接続時

切り換える(CD/AUXスイッチ)
スイッチを押して、切り換えます。
スイッチを押すたびに接続されているMD/カセットプレーヤーなどに切り換わります。

MDプレーヤー接続時

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

|◀◀ ／ ▶▶| スイッチを押します。

・|◀◀／▶▶|スイッチを押し続けると、早送り／早戻しになります。
・|◀◀／▶▶|スイッチを短く押すと、スキップ(先の曲の頭出し)／リプレイ(演奏中、前の曲の頭出し)になります。

ききたい曲を探すとき(スキャン)

・SCANスイッチを押すとスキャンになります。
(“SCAN”が点灯)
各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。

知 識

● すべての曲をスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲から通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

- A.SEL RPTスイッチを押すとリピートになります。（“RPT”が点灯）
  演奏中のディスクの各トラックをリピート演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。

カセットプレーヤー接続時

走行方向を切り換えるとき

PLAY/PROGスイッチを押します。
テープの片面が終了したときは、自動的に切り換わります。

早送り／巻戻し、頭出しをするとき

頭出し（演奏中の曲）　頭出し（次の曲）

・FF/REWスイッチを押すと、早送り／巻戻しになり、“FF/REW”が点灯します。
・I◀◀／▶▶Iスイッチを押すと、頭出し(次の曲の最初／演奏中の曲の最初)になり、“FF/REW”が点滅します。

早送り／巻戻しを止めるときは、スイッチをもう一度押します。

知　識

●曲間の無音部分が4秒以上ないときや雑音が入っているとき、曲の途中に無音部分があるときは、頭出し機能が働かないことがあります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき(リピート)

A.SEL RPTスイッチを押します。(“RPT”が点灯)

リピート機能を解除するときは、スイッチをもう一度押します。

ドルビーNRについて

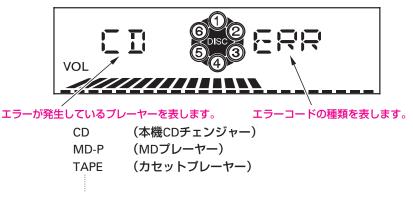
ドルビーNR録音されたテープを再生すると、高域雑音の少ない演奏が楽しめます。

NRスイッチで、ドルビーNR再生およびその解除を行います。（ドルビーNR再生中は“ DD ”が点灯）

※：ドルビーノイズリダクションシステムはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、DOLBY及びダブルD記号 DD はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

●エラーコードについて

表示部にエラーコードが表示されたときは、表示されているプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、点検してください。

CD　（本機CDチェンジャー）
MD-P　（MDプレーヤー）
TAPE　（カセットプレーヤー）

エラーコード	原　　因
ERR	ディスクの挿入や取り外しができない等、機械的な不具合
HOt	プレーヤー内部の温度上昇による一時停止状態
DISC	ディスクの読み込みができない（露つき、傷、汚れなど）

●時計

時計は、エンジンスイッチが“Ⅰ”または“Ⅱ”のときに表示されます。

表示の合わせかた

① ·ıııl)（CLOCK）スイッチを“ピッ”という電子音がするまで押します。（時計表示が点滅）

②「時」の調整…1（H）スイッチを押します。
「分」の調整…2（M）スイッチを押します。

1（H）スイッチ　2（M）スイッチ

③ ·ıııl)（CLOCK）スイッチをもう一度押します。（時計表示が点灯）

時報合わせ…時計表示が点滅しているときに、時報と同時に3（R）スイッチを押します。

（例）　1：01～1：29の場合…1：00
　　　　1：30～1：59の場合…2：00

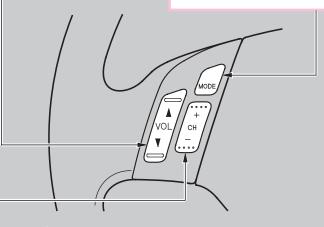
オーディオリモートコントロールスイッチ

音量調節スイッチ

▲を押す…音量が大きくなります。
▼を押す…音量が小さくなります。

MODEスイッチ

スイッチを押すたびに切り換わります。

※：CDが入っているときや、プレーヤーなどを接続しているときに切り換わります。

CH（チャンネル）スイッチ

ラジオを聞いているとき
＋を押す…プリセットされている次の放送局を選局します。
－を押す…プリセットされている前の放送局を選局します。
CDを聞いているとき
＋を押す…スキップ（先の曲の頭出し）します。
－を押す…リプレイ（演奏中や前の曲の頭出し）します。

室内装備品

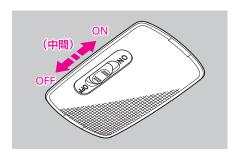
室内灯

“ON”
ドアの開閉に関係なく点灯します。

（中間）
ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。

次の場合にも点灯し、その後消灯します。
・運転席ドアを解錠したとき。
（ウエルカムランプ機能）
・エンジンスイッチからキーを抜いたとき。
・Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチを“0”（プッシュオフ）にしたとき。

消灯するときは、徐々に減光してから消えます。

“OFF”
ドアの開閉に関係なく消灯します。

知 識

●次の操作を行ったときは、室内灯はすぐに消灯します。
・運転席ドアを施錠したとき。
・エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき。
・Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチが“0”（プッシュオフ）以外の状態で運転席ドアを閉めたとき。
・エンジンスイッチを“II”にしたとき。

●エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠しても室内灯は点灯しません。

●“中間”の位置のときに、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のため、ドアを開けたままにしていると約3分後に消灯します。

マップランプ

サンルーフ装備車

“DOOR”

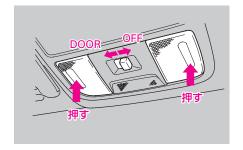
ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。また、次の場合にも点灯し、その後消灯します。

・運転席ドアを解錠したとき。（ウエルカムランプ機能）
・エンジンスイッチからキーを抜いたとき。
・Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチを“0”（プッシュオフ）にしたとき。

消灯するときは、徐々に減光してから消えます。

“OFF”

ドアの開閉に関係なく消灯します。

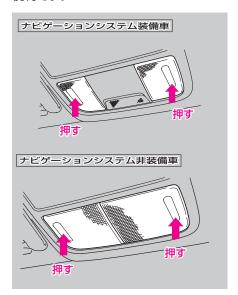
また、ノブ位置に関係なくレンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。夜間、車を止めて地図などを見るときに便利です。

知　識

●次の操作を行ったときは、マップランプはすぐに消灯します。
・運転席ドアを施錠したとき。
・エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき。
・Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチが“0”（プッシュオフ）以外の状態で運転席ドアを閉めたとき。
・エンジンスイッチを“II”にしたとき。

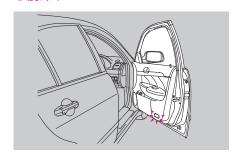
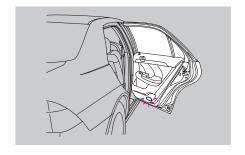
●エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠してもマップランプは点灯しません。

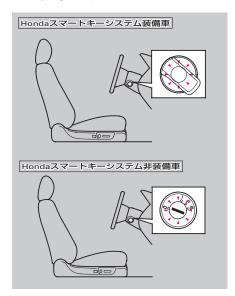
●“DOOR”の位置のときに、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のためドアを開けたままにしていると、約3分後に消灯します。

サンルーフ非装備車

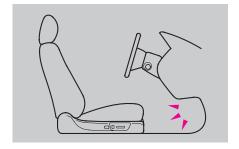
レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。
夜間、車を止めて地図などを見るときに便利です。

ドア開閉灯

ドアを開けると点灯します。
閉めると消灯します。

●前席ドア

●後席ドア　タイプ別装備

エンジンスイッチ照明灯

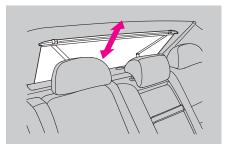
ドアを開けると点灯し、閉めるとその後消灯します。
また、次の場合にも点灯し、その後消灯します。
- 運転席ドアを解錠したとき。
- エンジンスイッチからキーを抜いたとき。
- Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチを"0"(プッシュオフ)にしたとき。

知　識
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のためドアを開けたままにしていると、約3分後に消灯します。

イルミネーテッドエントリー

ドアを開けると点灯し、閉めるとその後消灯します。
また、次の場合にも点灯し、その後消灯します。
- 運転席ドアを解錠したとき。
- エンジンスイッチからキーを抜いたとき。
- Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチを"0"(プッシュオフ)にしたとき。

知　識
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のため、ドアを開けたままにしていると、約3分後に消灯します。

リヤサンシェード

タイプ別装備

エンジンスイッチが“II”のときリヤサンシェードの上昇・下降ができます。
スイッチを押すごとにリヤサンシェードが上昇・下降します。
セレクトレバーを🅁に入れると、自動的に下降します。自動的に再上昇はしませんので、上昇させるときはセレクトレバーを🅁以外に入れ、再度スイッチを押してください。

⚠警告

- リヤサンシェードに手をかけないでください。リヤサンシェード収納時に、布や手を巻き込むなど思わぬ事故につながるばかりでなく、故障により、後方の視界を確保できなくなるおそれがあります。

アドバイス

- リヤサンシェードを操作するときは、故障の原因にならないように、次のことをお守りください。
  - リヤシェルフの上に荷物などを置かないでください。
  - リヤサンシェードに無理な力を加えないでください。
- リヤサンシェードの操作中に、途中で止まった場合は、障害物の有無を確認してください。

知　識

- リヤサンシェードを頻繁に上昇・下降を繰り返していると、一時的にリヤサンシェードの作動が停止することがあります。故障ではありません。数秒後にスイッチを押して操作を再開してください。
- セレクトレバーをⓇに入れても、すぐにⓇ以外の位置に動かした場合は、リヤサンシェードは自動的に下降しません。
- リヤサンシェードをお手入れする場合は、エンジンスイッチを“0”にして中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、フレームやスクリーンを強く引っ張らないように汚れを落としてください。
- リヤサンシェードが動かなくなった場合は無理な力を加えずに、Honda販売店で点検を受けてください。

シガレットライター

エンジンスイッチが“Ⅰ”または“Ⅱ”のときに使えます。

▼

リッドを開きます。

ライターを押し込んで、手を離し、元の位置に戻るまで待ちます。
ヒーター部が赤熱すると自動的に戻ります。

ライター使用後は灰皿で灰を落としてからすみやかに元に戻してください。

⚠注意

- シガレットライターの金属部分には触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

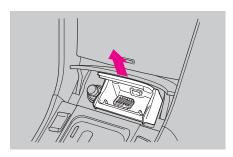
知 識

- シガレットライターの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・ライターを押し込んだあと、押さえ続けないでください。
  - ・ヒーター部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
  - ・ライターの差し込み口からは、Honda純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。
- 他の車のライターを使ったり、自車のライターを修正したりしないでください。戻らなかったり、とび出したりするおそれがあります。
- ライターを押し込んでから、30秒以上たっても戻らないときは故障のおそれがありますので手で引き出し、Honda販売店で点検を受けてください。

灰皿

●前席用

矢印部を押すとリッドが開きます。
ライトスイッチが"OFF"以外のときに("AUTO"のときは車幅灯やヘッドライトが点灯しているときのみ)照明灯が点灯します。

清掃するときは灰皿本体を引き抜けば、取り外すことができます。

知 識

●前席用灰皿を取り外すときは、セレクトレバーをⓃの位置にすると、取り外しやすくなります。

●後席用

清掃するときは図の状態で取り外します。

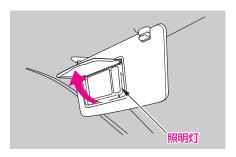
⚠注意

●タバコ、マッチなどは確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
また、吸いがらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
タバコなどの火が燃え広がるおそれがあります。

サンバイザー

サンバイザーを横にするときは、フックから外して行います。

●バニティミラー(化粧鏡)

サンバイザーに鏡があります。
お化粧のときなどに便利です。

フタを開けると照明灯が点灯します。

知 識

- 使わないときはフタを閉じておいてください。
  バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

チケットホルダー

運転席側のサンバイザーにあります。

サングラスホルダー

矢印部を押すと開きます。もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。

知　識

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。レンズやフレームが、変形やひび割れをおこすことがあります。
- 重い物や破損しやすい物、鋭利な物などを入れないでください。
- 開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。
- サングラスでも大きさ、形状により収納できないものがあります。

アームレスト

●前席用

センターコンソールボックス上部を前に引き出して使うことができます。

●後席用

引き出してアームレストとして使えます。

●アームレストスルー

ノブを下げながら、ふたを開けると、トランクルーム内の小物の出し入れができます。

フタは元に戻して押しつければ、自動的に固定されます。

⚠警告

- 走行中は荷物の出し入れはしないでください。
  急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

小物入れ

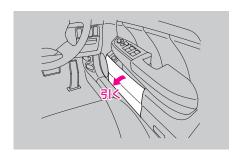
●グローブボックス

ノブを引くと開きます。
ライトスイッチが“OFF”以外のときに（“AUTO”のときは車幅灯やヘッドライトが点灯しているときのみ）照明灯が点灯します。
キーで施錠（解錠）ができます。

⚠警告

- 走行中は、グローブボックスのフタを必ず閉めてください。
  グローブボックスのフタが開いていると、衝突したときなどにフタにぶつかったり、内部の物がとび出したりして思わぬ事故につながります。

●ドアポケット

前席ドアポケットは、手前に引くと開きます。

知　識

- 重い物（約1.5kg以上）を入れないでください。重い物を入れた場合、ドアを閉めたときドアポケットが開くことがあります。また、物を出し入れした後は、ドアポケットを閉めてください。
- 安全のため、走行中はドアポケットを閉めておいてください。

●センターボックス

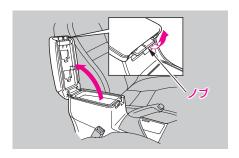
矢印部を押すと、フタが開きます。

●ドライバーズポケット

フタを下げると開きます。小銭を入れておくと有料道路の料金所などで便利です。

●コンソールボックス

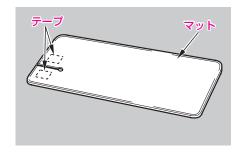
運転席側ノブを引き上げると開きます。

フタの中も小物入れとして使えます。
助手席側のノブを引き上げると開きます。

フタには、カードホルダーとペンホルダーがあります。

知　識

●カードホルダーには、カード以外の物を入れないでください。
カード以外の物を入れると、取り出せなくなることがあります。

コンソールトレイマット

コンソールトレイマットは、必要に応じてマット裏側のテープで固定します。
固定するときは、トレイ部分の汚れや水分を十分に拭き取ってください。
固定後にマットを取り外すとテープの接着力が低下し、繰り返し固定しにくくなります。

カップホルダー

カップなどを置くときに使います。

⚠注意

- オーディオやスイッチなどの電装品に飲み物などをこぼさないように注意してください。
  故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
  万一、電装品に飲み物をこぼしたときは、Honda販売店にご相談ください。

知　識

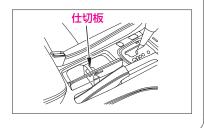
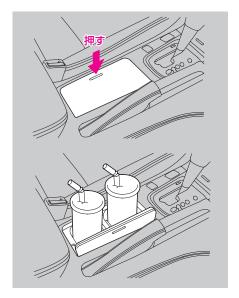
- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。
  熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。

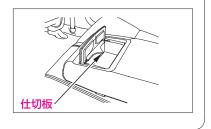
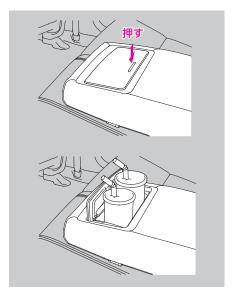
●前席用

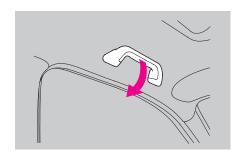
知　識

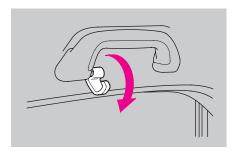
- 前席用カップホルダー内の仕切板を外せば、小物入れとして使えます。

矢印部を押すと、フタが開きます。

●後席用

知　識

●後席用カップホルダー内の仕切板をたためば、小物入れとして使えます。

アームレストを引き出して使います。
矢印部を押すと、フタが開きます。

グラブレール

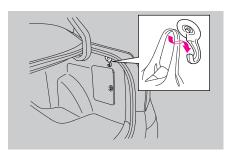
回転させて使います。

コートフック

後席右側のグラブレールにあります。
回転させて使います。
使わないときは格納しておきます。

⚠注意

● **サイドカーテンエアバッグシステム装備車**

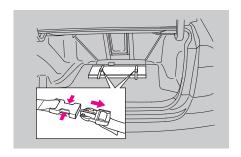
コートフックにハンガーや重い物、とがった物をかけないでください。サイドカーテンエアバッグが作動したときに、これらの物が飛んでけがをするおそれがあります。
服をかけるときは、ハンガーを使用せずにコートフックに直接服をかけてください。

荷物フック

トランクルーム内にフックがあります。

知　識

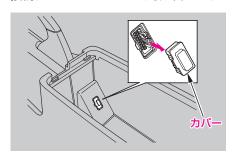
- 重い物（約 3 kg以上）や大きな物をかけないでください。特に、重い物をかけるとフックが破損することがあります。

停止表示板固定ベルト

ベルトで停止表示板を固定します。

携帯電話接続端子

Hondaインターナビシステム装備車

別売のケーブルを使って、携帯電話をセンターコンソールボックスの中にある端子と接続して使います。

接続するときは、カバーを取り外します。

ケーブルをコンソールトレイマットの切り欠き部に通して、携帯電話と接続します。
接続した携帯電話は、図のように置いておくことができます。

詳細に関しては、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

万一のとき

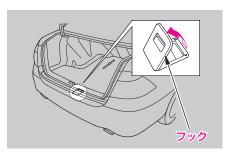
＊全国のHonda販売店およびJAFの電話番号は別冊の「サービス網一覧」に記載してあります。

工具・スペアタイヤ・発炎筒

格納場所

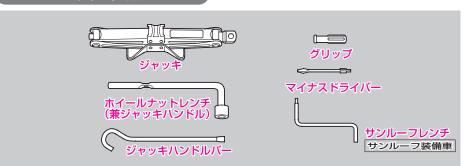
●スペアタイヤリッドの開けかた

工具やスペアタイヤを取り出すときは、スペアタイヤリッドを持ち上げます。

①フックを持ち上げます。

②スペアタイヤリッドを持ち上げ、フックをトランクの外枠にかけます。

●工具・スペアタイヤ

●発炎筒

発炎筒は助手席足元にあります。

工具の種類

知　識

- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどは万一のとき困らないようあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器材による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

・使いかた　・使用上の注意
・発炎時間　・有効期限

⚠警告

- ガソリンなどの燃えやすい物のそばでは使わないでください。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

- お子さまにいじらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 発炎筒を使うとき顔や身体に向けるとやけどなどをすることがあるのでおやめください。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。
トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

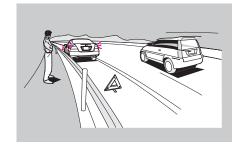
故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板(または停止表示灯)、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

踏切で動けなくなったとき

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。

高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、車両後方に停止表示板(または停止表示灯)を置いて表示してください。法律で義務づけられています。

人は車からおりて、安全な場所に避難してください。

道路で動けなくなったとき

一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

知 識

- この車は、スターターを回して車を動かすことはできません。

故障の修理について

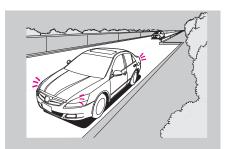
Honda販売店へお申しつけください。

お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。
遠出などのときは全国どこでもHonda販売店へご連絡ください。
Honda販売店およびJAFの電話番号については別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

事故が起きたとき

あわてずに次の処置をとります。

1 事故の続発を防ぐ。

他の交通の妨げにならないような安全な場所(路肩、あき地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。

2 負傷者がいる場合は、応急手当を行う。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

知　識

- 外傷がなくても医師の診断を受けましょう。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

3警察へ連絡する。

事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。

4相手方、事故の状況をメモする。

5ご購入された販売店や保険会社へ連絡する。

けん引

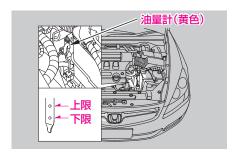
けん引は専門業者に依頼し、できるだけ四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

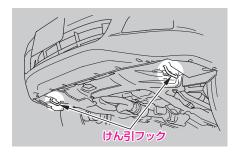
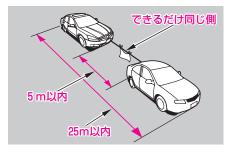
アドバイス

- 車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、必ず四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

けん引されるとき（ロープによるけん引）

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

①トランスミッションオイルの量が目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。

下限より下がっている場合は、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

②ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m平方以上)を付けます。

③エンジンをかけます。
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“Ⅰ”または“Ⅱ”にします。

④セレクトレバーをⓃ(ニュートラル)にします。

⑤パーキングブレーキを解除し、けん引されます。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⑥速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引してください。

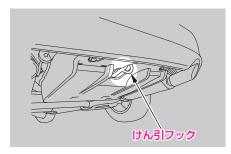
アドバイス

- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
  - ・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。
  そのままけん引されると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

知　識

- エンジンが停止している状態でのけん引は、次のことに気をつけてください。
  - ・ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキの効きが悪くなります。
  - ・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなるので、ハンドル操作が重くなります。
- 長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

故障車をけん引するとき

やむをえず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。

アドバイス

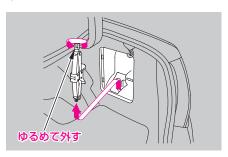
- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
  - ・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引するときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。そのままけん引すると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

パンクしたとき

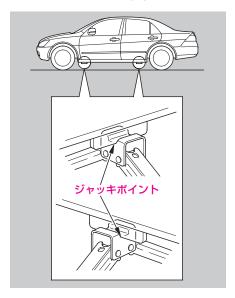
ジャッキの取り扱い

●ジャッキの取り出しかた

①ノブを回してカバーを外します。

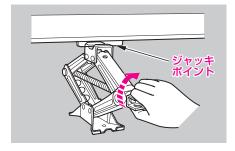
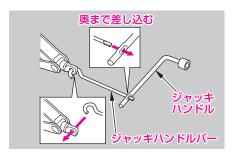
②ジャッキをゆるめて外します。

知　識

- ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。
  ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。

●ジャッキをかける位置

●ジャッキのかけかた

①地面が固い平らなところに車を停めます。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。

③ジャッキを地面に置き、手で回してジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。

④ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。

⚠警告

- 車がジャッキだけで支えられているときは、不安定な状態にあるので車の下に入ったりしないでください。
  万一、ジャッキが外れると、思わぬ事故につながります。

⚠注意

- ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守ってください。
  - ・エンジンをかけたままにしない。
  - ・地面が固い平らなところ以外では使用しない。
  - ・指定された位置以外にかけない。
  - ・人や荷物をのせたままにしない。
  - ・ジャッキの上や下に物をいれたりしない。
  - ・タイヤ交換やタイヤチェーン着脱以外には使用しない。

知　識

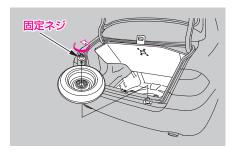
- この車に搭載されているジャッキをお使いください。他のジャッキでは支えられる重量（呼荷重）が不足したり、形状が合わないことがあります。

応急用スペアタイヤ

①スペアタイヤリッドを開け、工具トレイを取り出します。

スペアタイヤリッドの開けかた

→320ページ

②固定ネジをゆるめて取り出します。

③応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。

お使いになるときは次のことをお守りください。

知　識

- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。

  指定空気圧：

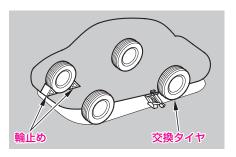
  420 kPa (4.2 kgf/cm²)
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤは標準タイヤと比べて直径が小さいため車高が低くなります。突起物など乗り越えるときは、車の下にひっかけないように注意してください。
- この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。

  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。

タイヤ交換

1 はじめに

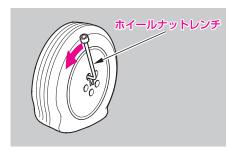
①車を地面が固く平らで安全な場所に停め、工具類、応急用スペアタイヤを取り出します。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。

③応急用スペアタイヤは交換するタイヤ近くの車体の下にホイール表面を上にして置きます。

2 ジャッキで車体を上げる

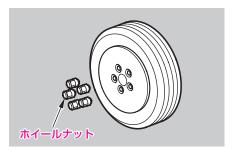
①ジャッキをセットします。

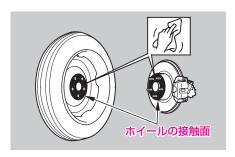
ジャッキをかける位置　→330ページ

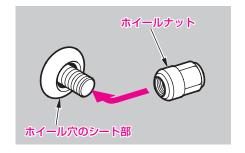
②ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約１回転)ゆるめます。

③タイヤと地面が少し離れるまでジャッキで車体を上げます。

3タイヤを交換する

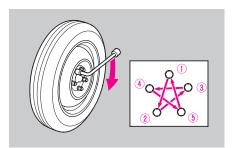
①ホイールナットを外し、タイヤを外します。

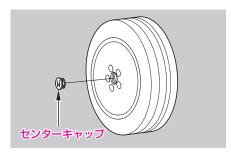
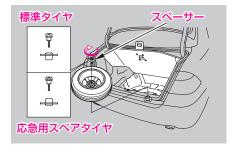
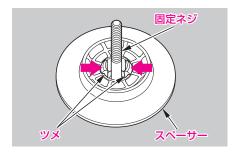
知　識

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②応急用スペアタイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。

③応急用スペアタイヤを取り付けます。

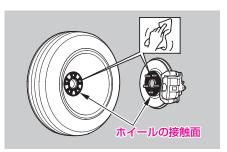
④ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。

⑤ジャッキをおろし、図の番号順に２〜３度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク：

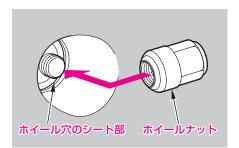
98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)

4標準タイヤを収納する

①パンクした標準タイヤはセンターキャップを外します。

②パンクした標準タイヤをしまい、スペーサーを、応急用スペアタイヤを固定していたときとは逆向きにして固定します。

スペーサーを逆向きにするときは、ツメを押して、スペーサーから固定ネジを取り外します。

5標準タイヤを取り付けるときは

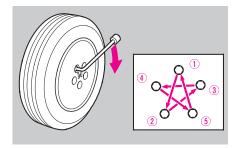
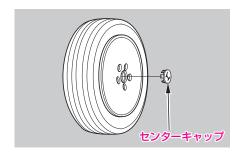
①標準タイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。

知 識

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②標準タイヤを取り付けます。

③ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。

④ジャッキをおろし、図の番号順に２～３度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク：

98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)

⑤センターキャップを取り付けます。

アドバイス

●四輪とも、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとVSAが正常に機能しなくなることがあります。
●IHCC装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や、摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとIHCCが正常に機能しなくなることがあります。
●HiDS装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や、摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとHiDSが正常に機能しなくなることがあります。

知　識

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらHonda販売店で点検を受けてください。
- タイヤ交換は安全のため、地面の固い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止表示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- 必ず同一指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。
  やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。
  タイヤの空気圧　→409ページ
- パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。

オーバーヒートしたとき

次のようなときは、オーバーヒートです。
・水温計の針が“H”の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
・エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

⚠警告

●エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けないでください。
蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

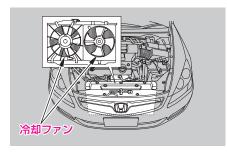
●エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでラジエーターキャップを外さないでください。
冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●処置のしかた

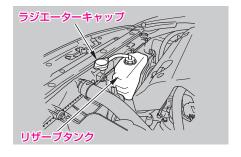
①車を安全な場所に停めます。
②エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。

知 識

●エンジンルームから蒸気が出ているときは、エンジンを止めます。
蒸気が出なくなってからボンネットを開け、エンジンをかけてください。

③冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからエンジンを止めます。
冷却ファンが作動していないときはすぐにエンジンを止めてください。

アドバイス

- 冷却ファンが作動していない場合は、故障が考えられますので、Honda販売店へご連絡ください。

④エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。

⑤冷却水量が不足していたらラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

アドバイス

- エンジンが熱いときに冷却水を入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。
冷却水はエンジンが冷えてからゆっくりと入れてください。

⑥なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

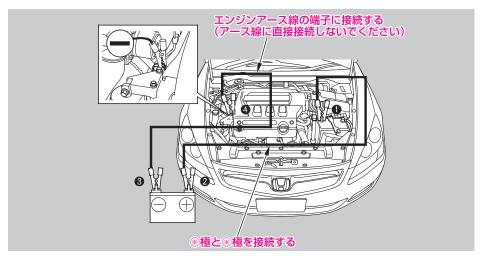
電気系統が異常のとき

バッテリーあがりのとき

次のようなときは、バッテリーあがりです。
・スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからない。
・ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さい。

●処置のしかた
救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させせます。
①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

1本目
❶自車のバッテリーの⊕端子
❷救援車のバッテリーの⊕端子

2本目
❸救援車のバッテリーの⊖端子
❹自車のアース線端子

②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
③自車のエンジンをかけます。
④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。
⑤Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠警告

●バッテリーを取り扱うときは次のことを必ず守ってください。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
・バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動または充電を行わないでください。
・火気を近づけないでください。
・帯電した身体でバッテリーに触れないでください。
・換気に十分注意し、換気の悪い場所では充電を行わないでください。
・バッテリーを充電するときは、すべてのキャップを外してください。
●ブースターケーブルをつなぐときは次のことを必ず守ってください。火花が出て、バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
・自車のバッテリーの㊀端子に直接ケーブルをつながないでください。
・㊉端子と㊀端子を間違えないでください。
・ケーブルの先端どうしを接触させないでください。
●バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも5分間以上洗浄し、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

知　識

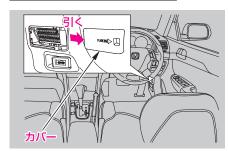
●バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。
●ブースターケーブルのクリップは、エンジン始動時などの振動で外れたりしないように確実に固定してください。また、ブースターケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分気をつけてください。
●救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。
●バッテリー交換などでバッテリーケーブルを取り外すと、ラジオにセットされた周波数が消去されます。また、バッテリーを取り付けた後は運転席パワーウィンドーのオート作動ができなくなります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。
パワーウィンドーはさみ込み防止機構　→58ページ

ライト類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

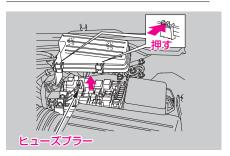
バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

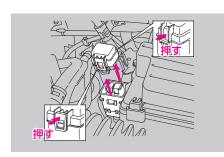
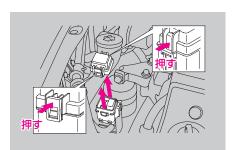
①エンジンスイッチを"0"の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示と取扱説明書で確認し、点検します。
③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

●ヒューズの点検、交換

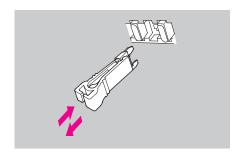
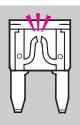
運転席足元のヒューズボックス

・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		ドライブバイワイヤー	15A
2		イグニッションコイル	15A
3		ACM	10A
4		LAFセンサー	15A
5		オーディオアンプ	20A
6		室内灯	10A
7		バックアップ	10A
8		ドアロック	20A
9		シガレットライター	15A
10		サイドエアバッグ自動停止装置	7.5A
11		ワイパー	30A
12		運転席パワーシートランバーサポート	10A
13	AS	助手席パワーシートリクライニング	20A
14	DR	運転席パワーシート前後スライド	20A
15		シートヒーター	20A
16	DR	運転席パワーシートリクライニング	20A
17	AS	助手席パワーシート前後スライド	20A
18		発電機	15A
19		フューエルポンプ	15A
20		ウォッシャー	10A
21		メーター	7.5A
22		SRSエアバッグシステム	10A
23		IGP	7.5A
24	RR L	パワーウィンドー後席左側	20A
25	RR R	パワーウィンドー後席右側	20A
26	AS	パワーウィンドー助手席	20A
27	DR	パワーウィンドー運転席	20A
28		サンルーフ	20A
29		オプション	7.5A
30		エアコン	7.5A
31		オプション	7.5A
32		アクセサリー	7.5A
33	―	―	―

エンジンルーム内のヒューズボックス

・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		左側ヘッドライト ロービーム	10A
2		リヤデフロスターコイル	30A
3		左側ヘッドライト ハイビーム	10A
4		車幅灯	15A
5		右側ヘッドライト ハイビーム	10A
6		右側ヘッドライト ロービーム	10A
7		バックアップ	7.5A
8		IGP	15A
9		コンデンサーファン	20A
10		E - プリテンショナー	30A
11		ラジエーターファン	30A
12		クラッチリレー	7.5A
13		ホーン／制動灯	15A
14		リヤデフロスター	40A
15		バックアップ／ アクセサリー	40A
16		非常点滅表示灯	15A
17	VSAモーター	VSAモーター	30A
18	VSA	VSA	40A
19		オプション	40A
20		オプション	40A
21		ヒーターモーター	40A
22		EPS	70A
		バッテリー	120A
23		イグニッション	50A
		パワーウィンドー	40A

表示	装備	容量
(フォグライト表示)	フォグライト	20A
(取扱書表示)	E-プリテンショナー	30A

表示	装備	容量
(ミラーヒーター表示)	ヒーテッドミラー	7.5A

ヒューズの外しかた

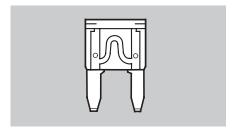
備え付けのヒューズプラーでヒューズを外します。

ヒューズが切れているとき

ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

アドバイス

- 規定容量のヒューズ以外の物は絶対に使わないでください。
  配線コードなどを焼損させる原因となります。

知　識

- オーディオのヒューズが切れると、ラジオにセットされた周波数が消去されます。
- 運転席パワーウィンドーのヒューズが切れると、ヒューズを交換した後も運転席パワーウィンドーのオート作動ができなくなります。
  その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。
  パワーウィンドー
  はさみ込み防止機構　→58ページ
- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

ヒューズが切れていないとき

- ライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
  電球を点検し、切れているときは交換してください。

知　識

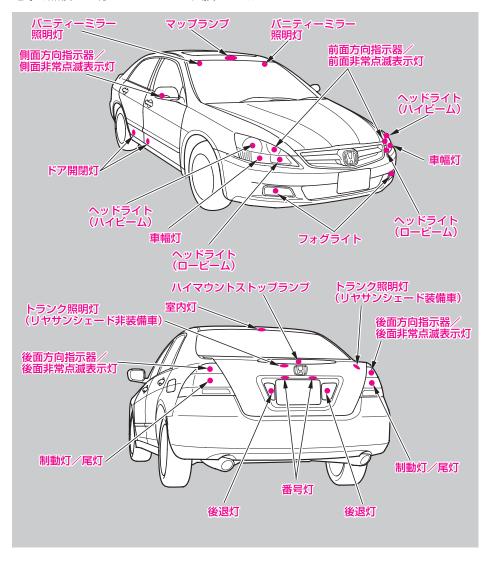
- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

●電球（バルブ）の交換

ヒューズが切れていないのにライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。

バニティーミラー照明灯
マップランプ
バニティーミラー照明灯
側面方向指示器／側面非常点滅表示灯
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯
ヘッドライト（ハイビーム）
車幅灯
ドア開閉灯
ヘッドライト（ハイビーム）
車幅灯
ヘッドライト（ロービーム）
フォグライト
ヘッドライト（ロービーム）

ハイマウントストップランプ
トランク照明灯（リヤサンシェード装備車）
室内灯
トランク照明灯（リヤサンシェード非装備車）
後面方向指示器／後面非常点滅表示灯
後面方向指示器／後面非常点滅表示灯
制動灯／尾灯
制動灯／尾灯
番号灯
後退灯
後退灯

知 識

- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違う物を使わないでください。

電球のワット数　→406ページ

- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスがとび散ることがあります。
  取り扱いには十分に注意してください。
  また、ハロゲンバルブの電球の表面に手などが、触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。
- ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、Honda販売店にご相談ください。

ヘッドライト(ロービーム)

ヘッドライト(ロービーム)の電球切れの点検、交換は必ずHonda販売店で行ってください。

⚠注意

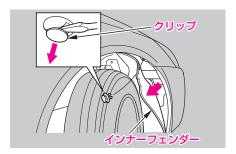
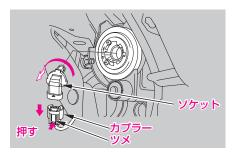
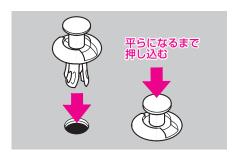
- ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

ヘッドライト(ハイビーム)

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

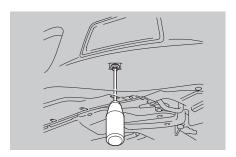
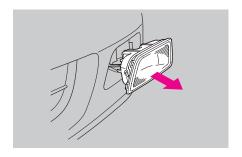
ハロゲンバルブについて →350ページ

①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。

②クリップを外してインナーフェンダーをめくります。

③ソケットを左へ回して外し、カプラーのツメを押しながら電球を抜き取ります。

インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。

フォグライト

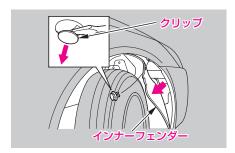
ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブについて　→350ページ

①取り付けネジを外します。

②フォグライト本体を外します。

③ソケットを運転席側は右に、助手席側は左に回して外し、カプラーのツメを押しながら電球を抜き取ります。

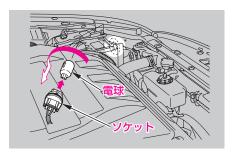
イラストは助手席側を示します。

車幅灯

①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。
②クリップを外してインナーフェンダーをめくります。

③ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。

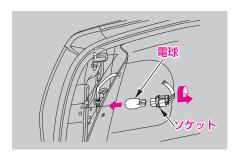
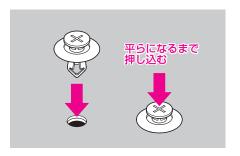
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯

ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

側面方向指示器／側面非常点滅表示灯

電球切れの点検、交換は、Honda販売店にご相談ください。

後面方向指示器／後面非常点滅表示灯

①クリップを外して、ライニングをめくります。

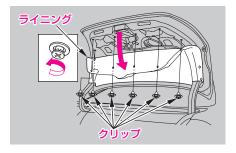
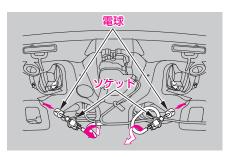
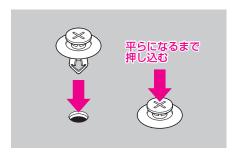
②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

ライニングを固定するときは、クリップ中央部のピンを起こしたままライニングに差しこみ、ピンを平らになるまで押し込みます。

制動灯／尾灯

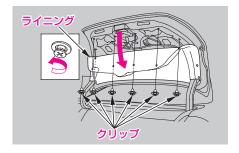
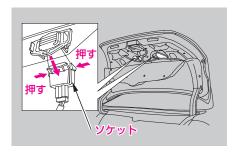
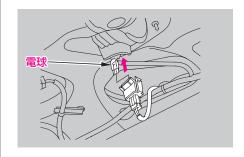
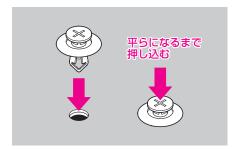
電球切れの点検、交換は、Honda販売店にご相談ください。

ハイマウントストップランプ

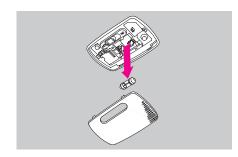
電球切れの点検、交換は、Honda販売店にご相談ください。

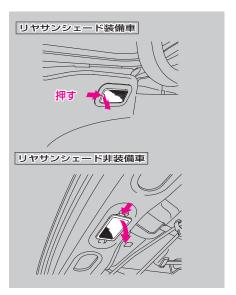
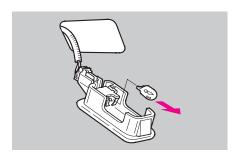
後退灯

①クリップを外して、ライニングをめくります。

②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

ライニングを固定するときは、クリップ中央部のピンを起こしたままライニングに差しこみ、ピンを平らになるまで押し込みます。

番号灯

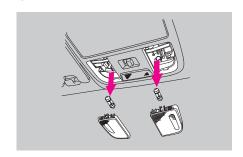
①クリップを外して、ライニングをめくります。

②ソケットの両端を押しながら外します。

③電球を抜き取ります。

ライニングを固定するときは、クリップ中央部のピンを起こしたままライニングに差しこみ、ピンを平らになるまで押し込みます。

室内灯

①レンズを外します。

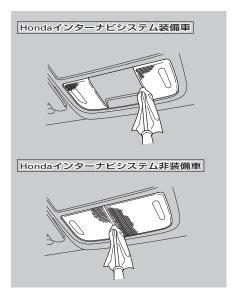
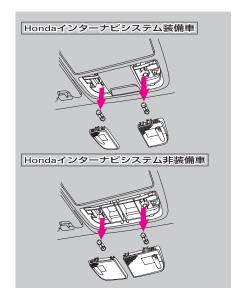
②電球を抜き取ります。

トランク照明灯

①側面を押し、ランプ本体を外します。

②電球を抜き取ります。

マップランプ

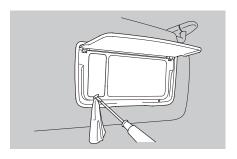
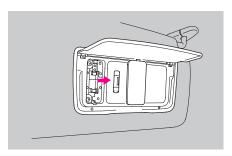
サンルーフ装備車

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

②電球を抜き取ります。

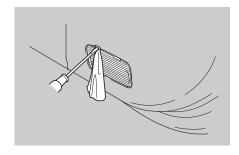
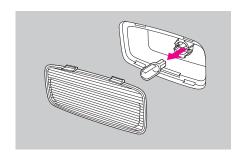
サンルーフ非装備車

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

②電球を抜き取ります。

バニティミラー照明灯

①レンズを外します。

②電球本体を抜き取ります。

ドア開閉灯

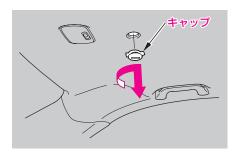
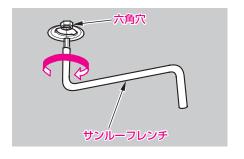
前席ドア：標準装備
後席ドア：タイプ別装備

①レンズを外します。

②電球を抜き取ります。

サンルーフが作動しないとき

サンルーフ装備車

万一、電動でサンルーフが閉まらなくなった場合は、応急処置として工具トレイ内のサンルーフレンチを使って閉めてください。

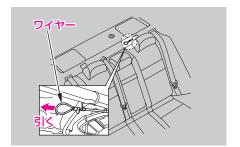
工具　→321ページ

①後席ルーフ中央のキャップをコインなどで回し、キャップの溝が図のように前後を向いたところで取り外します。

②六角穴にサンルーフレンチを差し込んで回します。

知　識

- サンルーフが閉まった後もレンチを回し続けるとサンルーフ後部が持ち上りますので、そのときはレンチを反対方向に回して正しい位置まで戻してください。
- 応急処置後はHonda販売店で点検を受けてください。

トランクが開かないとき

バッテリー上がりなどでトランクの解錠ができないときは、リヤシートの背もたれを倒し、トランク内側のワイヤーを引くと解錠することができます。

背もたれの倒しかた →73ページ

キーの電池が消耗したとき

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

⚠注意

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意してください。
  飲み込むと、傷害を受けるおそれがあります。

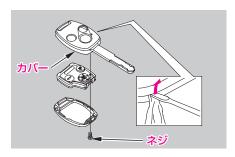
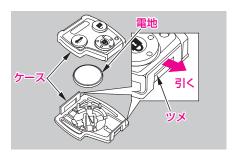
知 識

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。確実に取り付けられていないと耐水性の低下や故障の原因となります。
- 電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

●キーレスエントリー一体キーの電池交換

Hondaスマートキーシステム非装備車

使用電池・・・・・・・・・ボタン電池CR1616

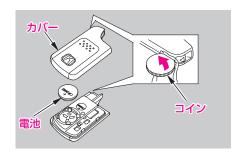
①ネジを外して、カバーに傷を付けないようにマイナスドライバーに布を巻いてカバーを外します。

②ツメを引いてケースを外し、電池を交換します。

●Hondaスマートキーの電池交換

Hondaスマートキーシステム装備車

使用電池・・・・・・・・・ボタン電池CR2032

①内蔵キーを取り出します。

内蔵キーの取り出しかた　→39ページ

②カバーに傷を付けないようにコインに布を巻いてカバーを外し、電池を交換します。

Hondaスマートキーで エンジンスイッチを 操作できないとき

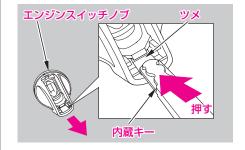
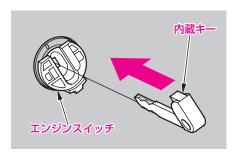
Hondaスマートキーシステム装備車

Hondaスマートキーによるエンジンスイッチの操作や、エンジンの始動ができない場合は、内蔵キーを使ってエンジンスイッチの操作や、エンジンの始動をすることができます。

内蔵キーの取り出しかた →39ページ

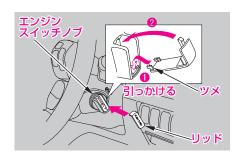
●内蔵キーの差し込みかた

①リッドの手前側を押しながら、リッドを外します。

②エンジンスイッチノブの内側のツメを、内蔵キーの先端で押して、エンジンスイッチノブを外します。

③エンジンスイッチに内蔵キーを図の向きで差し込みます。

キーを使ったエンジンスイッチの操作
→138ページ

エンジンスイッチノブの取り付け

①エンジンスイッチにエンジンスイッチノブを取り付けます。

②リッドのツメをエンジンスイッチノブに引っかけて、取り付けます。

車の手入れ

点検・整備について

車は走行するにしたがい、また時間が経過するとともに部品の劣化や摩耗などが進んでいき、適切な点検整備を行わないと、安全・快適に乗っていただけなくなるばかりか大気汚染や騒音の増加などを引き起こすことがあります。
このようなことから点検整備が必要であり、ドライバー(運転者)は点検整備を実施することが法律でも義務づけられています。

詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載してありますので、よくお読みになり必ず点検整備を行ってください。

●点検整備の種類

日常点検

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
点検時期の目安としては長距離走行前や洗車時、給油時などに実施します。

法定定期点検

年間走行距離が10,000km程度の標準的な使用を前提に、12か月および24か月毎に実施する点検です。
法律で定められているものと、Hondaが指定するものがあります。

その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

日常の手入れ

走行後は

- 塗装面に付着したほこりを毛ばたきなどではらい落としましょう。
- とび石などによる塗装面の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。

保管、駐車は

- 風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。

洗車を忘れずに

- 少なくとも月に一度は洗車しましょう。
- 次の場合は、必ず洗車してください。
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したとき、海岸地帯を走行したとき。
    錆の原因となるので車体の下回り、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。
  - ・コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。
    化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗ってから水で完全に流し、必要に応じてポリシングワックス(ワックス乳液)で磨いてください。
    ポリシングワックスは、Honda純正ケミカル用品をお使いください。

外装の手入れ

●洗車のしかた

・十分に水をかけながら、下回り、足まわりの汚れを落とします。
・塗装面は屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム皮のような柔らかい物で洗います。
・汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
・水が乾かないうちに拭き取ります。

●ボンネットの裏のインシュレーターには、直接水をかけて洗わないでください。
●故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。
故障のもとになります。

自動洗車機を使うとき

・ドアミラーを格納して洗車してください。
・オートワイパー装備車は、ワイパースイッチを“OFF”にしてください。

●自動洗車機を使うと、ブラシの傷がつき光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

コイン洗車機を使うとき

洗車ノズルと車体の距離を十分に離して洗車してください。
ウィンドーまわりは、特に注意して行ってください。近づけすぎると室内へ水が侵入することがあります。

●ワックスをかけるとき

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行います。
洗車したあと、日陰か車体表面が体温以下になっているときにワックスをかけます。

・ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

●みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。
塗装面に細かい傷が残ることがあります。

●樹脂塗装部品(バンパーなど)の手入れ

ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。
すみやかに柔らかい布で拭き取ってください。

●樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、Honda販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

●ガラスの手入れ

ガラスの油膜を取るときは、ガラスクリーナーをお使いください。

・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

はっ水ガラスについて

前席ウィンドー（ドアガラス）にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。

知　識

●水滴をはじく効果の持続時間には限りがありますが、できるだけ長持ちさせるために次のことをお守りください。

・前席ウィンドーが汚れているときは、水洗いをするか柔らかい湿った布などでふき取ってください。
また、泥などの汚れがひどいときは、前席ウィンドーの開閉をなるべく行わないでください。

・みがき粉（コンパウンド）入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わないでください。

・金属製の物で霜取りなどを行わないでください。

・自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落してから行ってください。

知　識

●ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。

●水はじきが悪くなったときは、補修できますのでHonda販売店にご相談ください。

リヤガラスの清掃をするとき

リヤガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されていますので、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

●アクアクリーンミラー（親水ミラー）の回復作業

ミラー表面に汚れなどが付着して、一時的に親水効果が低くなることがありますが、異常ではありません。数日間の日射をすることで親水効果が回復しますが、早く回復させたいときは次の回復作業を行ってください。

・点検

ミラー表面に散水し、水滴にならず薄い水膜（親水状態）になることを確認します。親水状態になっていない場合は、洗浄作業を行います。親水状態になっている場合は、紫外線照射を行います。

・回復作業

①ミラー表面を水洗いし、汚れを落とします。
②水を含ませたきれいな布で、汚れを落とします。
③それでも汚れが落ちない場合は、純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤などを使用して、柔らかい布を使ってミラー表面を洗浄後、十分な水で洗浄剤を洗い流してください。

・紫外線照射

屋外に車両を5～9時間ほど放置し、ミラー表面に太陽の光を当てます。

内装の手入れ

①中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
・飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいに拭き取ります。
③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

●室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

●ケミカル類、液体芳香剤について

取扱方法や成分を確認の上、取り扱いには十分にご注意ください。

⚠注意

●オーディオやスイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda販売店にご相談ください。

●ケミカル類、液体芳香剤はその成分によっては、樹脂部品、布材、本革の変色、しみ、ひび割れを起こすことがあります。
次のことに注意してください。
・ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤は使わないでください。
また、ケミカル類には、これらの成分が含まれているおそれがあります。
・ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
また、使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。
・液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。
芳香剤の使用にあたっては固形タイプのものをおすすめします。

●本革の取り扱い

タイプ別注文装備

①ウール用中性洗剤の５％水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。

②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいにふき取ります。

③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

- 本革部分に油汚れなどが付くとカビなどの原因となるので、早めに落としてください。
- 本革部分を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因となります。駐車するときは、日よけに心がけてください。
- 夏期などは、ビニール類を本革部分の上に置かないでください。
  室内が高温になっていると、ビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。
- 雨などでぬれたときは、早めに水分をふき取り風通しのよい日陰で乾燥させてください。
  シート表面に水分が残っていると、皮革の硬化、収縮の原因となります。
- **サイドエアバッグシステム装備車**
  助手席は、乾燥していない状態で使用するとサイドエアバッグの乗員姿勢検知システムが正しく作動しないおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの異常摩耗、亀裂、損傷および指定外の空気圧は、乗り心地、操縦性、タイヤの寿命を損ないます。
また、摩耗したタイヤは雨天時の高速走行で通常よりもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

- 安全のため、こまめに点検を行ってください。
  また、必ず同一指定サイズ、同一種類のタイヤをお使いください。

⚠警告

- 次のようなタイヤは使わないでください。
  コントロールを失うことがあり、思わぬ事故につながります。
  - 摩耗限度を超えたタイヤ。
  - 指定空気圧に調整されていないタイヤ。

    タイヤの空気圧
    →409ページ

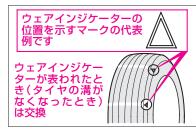
⚠注意

- タイヤの空気圧を調整するときは、規定圧力を守ってください。
  空気を入れ過ぎると、タイヤが破裂しけがをするおそれがあります。

- 四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用するとVSAが正常に機能しなくなることがあります。
- IHCC装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとIHCCが正常に機能しなくなることがあります。
- HiDS装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとHiDSが正常に機能しなくなることがあります。

摩耗限界表示（ウェアインジケーター）

ウェアインジケーターが表れたらタイヤを交換してください。

・ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

●位置交換（タイヤローテーション）

5,000kmごとにタイヤの位置を交換します。

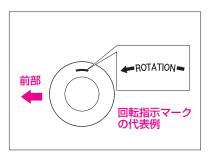
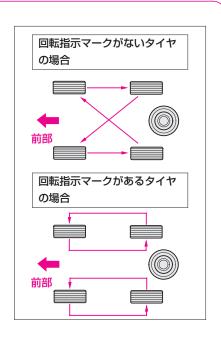
・同じ位置で長く走ると偏摩耗し、タイヤの寿命を縮めるだけでなく走行性、制動力にまで悪影響を与えます。

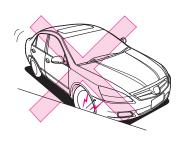
●応急用スペアタイヤは、位置交換に使わないでください。

●前輪と後輪でタイヤの空気圧が異なるので、位置交換後は必ず空気圧を調整してください。

タイヤの空気圧　→409ページ

タイヤ回転指示マーク

タイヤの性能上、回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ側面に回転指示マークがあります。
回転指示マークが前部へ向くように取り付けてください。

アルミホイールについて

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。
アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。

●取り扱い

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- アルミホイールは傷つきやすいので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを避けてください。
- バランスウェイトやバルブはHonda純正のアルミホイール専用品をお使いください。ホイールに傷をつけたり、機能を損なうことがあります。
- タイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。

●手入れ

- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落としてください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つきやすいので、砂入り石鹸や硬いブラシを使わないでください。高速洗車機（ホイール専用ブラシ付きの物）によるホイールの洗浄は避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。
光沢を失うおそれがあります。

車にあった部品の使用

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品は厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。
お求め、装着に際しては、Honda販売店にご相談ください。

・純正部品には下のマークがついています。

GENUINE PARTS

・Honda純正部品以外の車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。

・車の改造はしないでください。
不正改造は、法律に触れることはもちろん思わぬ事故を起こす場合があります。

車との上手なつきあいかた

積雪・寒冷時の取り扱い

運転するまえ

●車に積もった雪や着氷は取り除く

屋根に積もった雪

走行時に屋根に積もった雪がすべり落ち視界の妨げとなるなど危険です。走行する前に取り除いてください。

・氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。氷が溶けてから取り除いてください。

ガラス面の雪や霜

雪や霜を落として視界を確保してください。

・プラスチックの板などを使うとガラスに傷をつけずに落とすことができます。

・ドアミラーに付着した雪や霜は、ヒーテッドドアミラースイッチを“ON”にするか、温水や水道水を使って溶かしてください。
解氷剤を使ったり、プラスチックの板を使って削り落とすと、ミラー表面に傷が付き、親水効果を失います。

ヒーテッドドアミラー
→77ページ

足まわりの着氷

足まわりなどに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。

●凍結しているとき

ドアの凍結

無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたりするので、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。

・ドアキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結すると、キーが差し込めなくなります。

お湯をかけたあとは、凍結防止のために水分をよく拭き取ってください。

ワイパーの凍結（ガラス面が着氷、積雪しているとき）

ワイパーブレード（ゴム部）を損傷したり、モーターの故障となりますので、氷や雪を取り除いてから動かしてください。

寒冷地用ワイパーブレードを装着する際は、Honda販売店にご相談ください。

寒冷時以外は通常のワイパーブレードに戻してください。

●乗車するとき

靴にこびりついた雪をよく落としてから、乗車してください。

・ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。

運転するまえに

ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

運転するとき

- 雪道や凍結路では、たいへん滑りやすくなっているので、速度を落とし車間距離を十分とって運転しましょう。
  また、ハンドルやブレーキの操作は特に慎重にしてください。
  - ・急加速、急減速、急ブレーキや急ハンドルは横すべりを起こして方向性を失います。

- 冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着して走行してください。
  タイヤチェーンについて
  →390ページ
  - ・冬用タイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類のものに交換してください。
  - ・地区条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。

- 冬用タイヤを装着したときには、安全のため高速走行は避けてください。

●ブレーキの効きについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。
その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。

- ブレーキの効きが回復しないときは、ブレーキ系統に異常が考えられますので、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

●ウォッシャー液を噴射するとき

先にデフロスターを使ってフロントガラスを暖めてからウォッシャー液を噴射します。

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ハンドルのきれについて（タイヤまわりの着氷）

フェンダー裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。
ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。

●パンクしたとき（タイヤチェーン装着時）

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪タイヤを前輪に付けてタイヤチェーンを装着します。
・応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。

●タイヤチェーンについて

推奨タイヤチェーン

フェンダーやホイール表面を傷つけるおそれがありますので、Honda純正スーパーグリップチェーンをお使いください。
お求めはHonda販売店へお申し付けください。

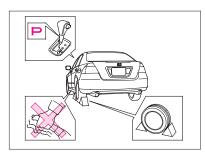
- タイヤチェーンはタイヤに合った適正な物をお使いください。
  推奨タイヤチェーン以外の物を使うと、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

標準的なタイヤチェーンの取り付けかた

タイヤチェーンは、駆動輪の前輪に装着してください。

- タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。
  必要に応じて非常点滅表示灯などを使ってください。
- タイヤチェーンを取り付けたときには、安全のため雪道、凍結路では30km/h以下の速度で運転してください。
  なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。チェーンの摩耗を早めます。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これに標準タイヤ用のタイヤチェーンを装着してください。

駐車するとき

パーキングブレーキの凍結を防ぐために、パーキングブレーキは使わないでください。
セレクトレバーを[P]に入れます。
石などで輪止めをしておきます。

●屋外に駐車するとき

- エンジンの冷えすぎを防ぐために、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて停めてください。
  - ・エンジンが冷えすぎると始動しにくくなることがあります。
- 落雪や積雪を避けるために、軒下や樹木の下などには停めないでください。
  - ・車の屋根などがへこむことがあります。
- ワイパーアームは起こしてください。
  - ・雪の重みでアームの取り付け部がこわれることがあります。

ワイパーアームの起こしかた
→397ページ

●長期間使わないで屋外におくとき

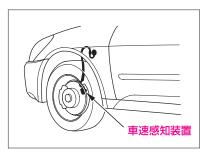
塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

⚠注意

- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。
  そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

冬期の手入れ

●雪道走行後の手入れ

・フェンダー裏側や足まわりに付着した泥、雪は周囲の部品を損傷しないように取り除いてください。足まわり（前、後輪の４か所）に車速感知装置が取り付けてありますので、傷をつけないように特に注意してください。

・積雪時には道路に凍結防止剤がまかれていることがあります。錆の原因になりますので、走行後はすぐに洗車してください。特に下回りは念入りに行ってください。

●点検・整備

バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。

冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

- 点検方法はメンテナンスノートを参照し、交換はHonda販売店にご相談ください。

雨の日の運転

雨の日は視界が悪くなるうえ、窓ガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなるなど悪条件が重なるので通常より注意深い運転が必要です。

・急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、晴れの日よりも速度を落とし、車間距離を十分にとって運転しましょう。
・ハイドロプレーニング現象に注意しましょう。
・雨の降り始めの舗装道路は滑りやすいので特に気を付けましょう。
・冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。
エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

⚠警告

● 滑りやすい路面では、急加速、急ブレーキや急ハンドルは避けてください。
車のコントロールを失い思わぬ事故につながります。

ハイドロプレーニング現象とは

路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。

・このような状態になると、ハンドルやブレーキが効かなくなり、非常に危険です。

●ガラスの曇りをとりたいとき

ガラスが曇って外が見にくいときは、エアコンのデフロスターを使って曇りをとります。

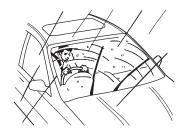
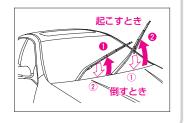
リヤガラスの曇りは

リヤデフロスタースイッチを押して、曇りをとります。

●ガラスの油膜をとりたいとき

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにします。
・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

●ワイパーの拭きむらがあるとき

ワイパーブレードのラバーが傷んでいると、拭きむらが出て視界の妨げとなります。また、ガラス面を傷つけることがありますので、早めに交換してください。

●ワイパーアームを起こしたり倒したりするときは、図の順に行ってください。

夏場の取り扱い

●エアコンの上手な使いかた

- 冷媒(ガス)が不足していると、冷房性能が低下します。
  夏になる前に点検、補充をしておきましょう。
- 室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。
- エアコンの冷やしすぎは健康上良くありません。

●炎天下に駐車するときは

- ボディーに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルなどをかけて、室内温度の上昇を抑えましょう。
- フロントガラスにアルミ光沢性の日除けバイザーを使うと、反射光が集光し、インストルメントパネルなどが変色、変形することがあります。

●海から帰ってきたときは

海に出かけた後は車も塩分を浴びています。錆の原因になりますので早めに洗車してください。下回りも念入りに洗いましょう。

●オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足しないように、こまめに点検します。

・走行中、水温計の針が“H”の目盛に入った場合は、オーバーヒートのおそれがあります。安全な場所に停車してエンジンを冷やしてください。

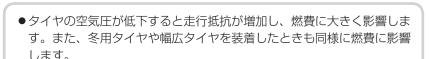
オーバーヒートしたとき
→340ページ

環境にやさしい省エネドライブをするために

●点検整備をきちんとし、タイヤの空気圧を適正にしましょう。

■適正空気圧で50km走ると50kPa ｛0.5kgf/cm²｝ 減のときに比べてガソリン 150ccの節約。

▲CO_2 1250g削減（650km／月）

●タイヤの空気圧が低下すると走行抵抗が増加し、燃費に大きく影響します。また、冬用タイヤや幅広タイヤを装着したときも同様に燃費に影響します。

●不必要な荷物は降ろして走行しましょう。

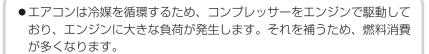
■10kgの荷物を降ろして50km走ると、ガソリン 15ccの節約。

▲CO_2 130g削減（650km／月）

●エアコンは少し控えめにしましょう。室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。

■エアコンを 6 分停止して、ガソリン 70ccの節約。

▲CO_2 1340g削減（ 3 時間／月）

●エアコンは冷媒を循環するため、コンプレッサーをエンジンで駆動しており、エンジンに大きな負荷が発生します。それを補うため、燃料消費が多くなります。

●ヘッドライトやリヤデフロスターは電力を多く消費するため、不必要なときはスイッチを“OFF”にしてください。

●発電機はエンジンで駆動しており、消費電力が増加すると発電量が増加し、エンジンの負荷が大きくなり、それを補うため、燃料消費が多くなります。

●空ぶかしはしないようにしましょう。

■空ぶかしを１回やめて、ガソリン　6 ccの節約。

▲CO_2 1150g削減（300回／月）

●長時間停車するときは、エンジンを停止してください。また、長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。

■５分間のアイドリングを止めて、ガソリン 65ccの節約。

▲CO_2 420g削減（10回／月）

●変速位置の選択は、走行速度や坂の勾配に合わせて適切に行ってください。

・通常はⒹで走行します。

・下り坂で速度が出すぎてしまうときは、セレクトレバーを②にしてエンジンブレーキを使います。
シーケンシャルモードのときは、ギヤを１段ずつ落としてください。
速度が出すぎるときは、セレクトレバーを②にして、Ｌスイッチを押してＬ（ロー）モードにし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。

●下り坂などでエンジンブレーキを使う目的で、より低速のギヤを有効に使うと、燃料カットの時間が長くなり、燃費が良くなることがあります。

●経済速度について

・高速道路では100km/hを80km/hにして燃費10〜30%の節約。

・一般道路では法定速度（40〜60km/h）の範囲で一定走行すると燃費は良くなります。

参考資料＊社団法人日本自動車工業会：「あしたへECO－MOTION」参照

《対象車種2.0Ｌ乗用（AT）の燃費＝11.7km/l（10・15モード）が計算ベース》

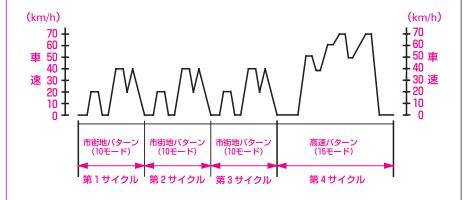
●10・15モード燃費について

10・15モード燃費とは

東京都内の幹線道路における平均的な走行形態の10モードと、高速走行や渋滞など大都市における走行形態を反映させた15モードを図のように

・市街地パターン(10モード)を３回
・高速パターン(15モード)を１回

の計４サイクルで走行したときの排出ガス量(g/km)を測定します。
このときに消費した燃料を10・15モード燃費(km/l)として表示しています。

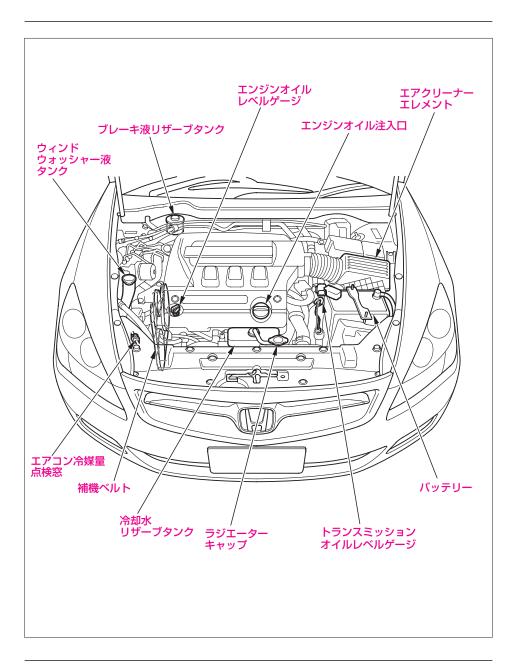
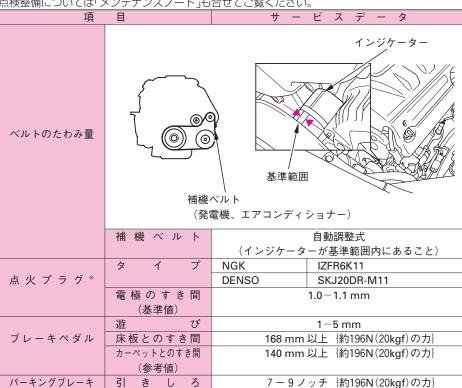
＊計測走行距離　4.2km、平均車速　23km/h

10・15モード燃費と実走行燃費との違い

10・15モード燃費は図のようにシャーシダイナモメーター上で定められた試験条件のもとで行われた燃費値です。
実際の走行時には気象、道路、車両、運転、整備などの状況が異なってきますので、それに応じて燃費が異なります。

10・15モード燃費の計測方法（国土交通省認可時 測定条件）

・完全暖機状態　60km/h 15分暖機後モード測定
・走行抵抗設定　車両（空車）状態＋110kg（2名乗車分）
・搭載電気機器“OFF”状態
・エアコン“OFF”で測定

サービスデータ

エンジンオイル
レベルゲージ
エアクリーナー
エレメント
エンジンオイル注入口
ブレーキ液リザーブタンク
ウィンド
ウォッシャー液
タンク
エアコン冷媒量
点検窓
補機ベルト
バッテリー
冷却水
リザーブタンク
ラジエーター
キャップ
トランスミッション
オイルレベルゲージ

点検整備については「メンテナンスノート」も合せてご覧ください。

項目		サービスデータ	
ベルトのたわみ量	補機ベルト	自動調整式 （インジケーターが基準範囲内にあること）	
点火プラグ ※	タイプ	NGK	IZFR6K11
		DENSO	SKJ20DR-M11
	電極のすき間（基準値）	1.0－1.1 mm	
ブレーキペダル	遊び	1－5 mm	
	床板とのすき間	168 mm 以上 ｛約196N（20kgf）の力｝	
	カーペットとのすき間（参考値）	140 mm 以上 ｛約196N（20kgf）の力｝	
パーキングブレーキ	引きしろ	7－9ノッチ ｛約196N（20kgf）の力｝	

※：イリジウムプラグを使用していますので、次のことに注意してください。

- イリジウム合金チップの微粒子膜を損傷するおそれがあるので、ワイヤーブラシ等による清掃は行わないでください。
- プラグギャップは調整できません。基準値をこえているものは交換してください。（清掃はクリーナーにて20秒以下で行ってください。）

項　　目		サ　ー　ビ　ス　デ　ー　タ
バ　ッ　テ　リ　ー	容　量／タ　イ　プ	52AH(5)／70D23L
電球（バルブ）	W（ワット）／CP（キャンドルパワー）数［CP（キャンドルパワー）：光度の単位］	ヘッドライト（ハイビーム）……… 12V－60W※1 （ロービーム）……… 12V－35W※2 フォグライト…………………… 12V－55W※1 前面方向指示器／前面非常点滅表示灯‥ 12V－21W（橙色） 車幅灯……………………………… 12V－5W 側面方向指示器／側面非常点滅表示灯‥ LED 後面方向指示器／後面非常点滅表示灯‥ 12V－21W（橙色） 番号灯……………………………… 12V－5W 制動灯／尾灯…………………… LED ハイマウンストップランプ……… LED 後退灯……………………………… 12V－21W 室内灯……………………………… 12V－8W マップランプ…………………… 12V－8W ドア開閉灯……………………… 12V－3.8W (2CP) トランク照明灯………………… 12V－5W バニティミラー照明灯………… 12V－2W

※1：ハロゲンバルブ
※2：ディスチャージヘッドライト

⚠注意

- ディスチャージヘッドライトのバルブを交換する場合は、必ずHonda販売店で行ってください。
  ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

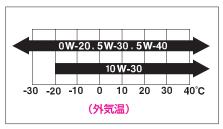
項目		サービスデータ	
エンジンオイル	推奨オイル	Honda純正オイル（4サイクル四輪車用） ウルトラLEO SM（API SM/GF-4級SAE 0W-20）※ ウルトラLTD SM（API SM/GF-4級SAE 5W-30） ウルトラGOLD SM（API SM級SAE 5W-40） ウルトラMILD SM（API SM/GF-4級SAE 10W-30）	
	規定量	オイル交換時	4.0 ℓ
		オイル、オイルフィルター同時交換時	4.3 ℓ

※：0W-20は、最も省燃費性に優れたオイルです。

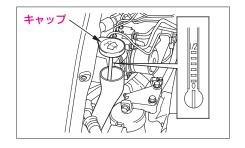
推奨エンジンオイル

Honda純正エンジンオイルまたはAPI SL級以上か、オイル缶にAPI CERTIFICATION（エーピーアイ　サーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイルをお使いください。

API CERTIFICATIONマーク

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

項目		サービスデータ
燃料	指定燃料	無鉛レギュラーガソリン（無鉛ハイオクも使用可能）
	タンク容量	65 ℓ
トランスミッションオイル	指定液	Honda純正オイルウルトラATF-Z1
	規定量（交換時）	3.0 ℓ
冷却水	指定液	Honda純正ウルトラｅクーラント
	規定濃度	50%
	規定量（交換時リザーブタンク0.6ℓ含む）	6.7 ℓ
ブレーキ液	指定液	Honda純正ウルトラブレーキフルードDOT 3 またはDOT 4
ウォッシャー液	タンク容量	2.5 ℓ
エアクリーナーエレメント	タイプ	湿式

ウォッシャー液の量の点検

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。

タイヤサイズ ＼ 項目		タイヤ空気圧 kPa（kgf/cm²）		※リムサイズ	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	205/60R16 92V	220 (2.2)	210 (2.1)		16×6½JJ
応急用スペアタイヤ	T145/80D16 105M	420 (4.2)		16×4T	

タイヤの溝の深さ	1.6 mm以上
位置交換時期（タイヤローテーション）	5,000 kmごと

※：この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。

名称	排気量（cm³）	車体形状	乗車定員（人）	タイプ
インスパイア	2,997	4 ドア ノッチバック	5	AVANZARE
				30TL
				30TE

さくいん

ア

イ

ウ

カ

キ

ク

ケ

サ

シ

ナ

ニ

ネ

ハ

ヒ

フ

へ

ホ

マ

ミ

ム

メ

ユ

ヨ

C

E

H

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00〜12：00　13：00〜17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8－1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車検証記載事項　車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
②車種名、タイプ名、走行距離　③ご購入年月日　④販売店名

エアバッグシステム故障診断記録装置について

この車には、エアバッグシステムを制御するためのコンピューターが搭載されており、衝突によりセンサーが一定以上の衝撃を感知したときには次の内容をデータとして記録します。
・エアバッグシステムの故障診断情報
・エアバッグの作動に関する情報
・助手席乗員の有無（サイドエアバッグシステム装備車）
・運転席および助手席のシートベルト着用の有無

これらのデータはお車を所有されるかたのものであり、次の場合を除き、利用されることはありません。
・エアバッグシステムを点検、修理するとき
・お車の所有者または使用者の同意があるとき
・裁判所の命令等、法的強制力を持つ要請があるとき

こんなことでお困りのとき

●キーレスエントリーまたはHondaスマートキーで解錠しても、自動で閉まってしまう

・キーレスエントリーまたはHondaスマートキーで解錠してから、ドアを開けないまま、約30秒たっていませんか。

キーレスエントリーで施錠・解錠するとき →42ページ
Hondaスマートキーで施錠・解錠するとき →44ページ

●エンジンスイッチが回せない

"0"から"I"に回らないとき（ハンドルロックの解除）

・ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

エンジンスイッチ（キーを使った操作） →139ページ

Hondaスマートキーシステム装備車

・ハンドルを左右に動かしながらエンジンスイッチを回すか、エンジンスイッチノブを押し直してゆっくり回してください。

エンジンスイッチ（Hondaスマートキーを使った操作） →142ページ

"I"から"0"に回らないとき

・セレクトレバーがⓅに入っていますか。

キーを抜くとき →139ページ
Hondaスマートキーでエンジンスイッチを"0"に回すとき →143ページ

●エンジンがかからない

・セレクトレバーがⓅかⓃに入っていますか。
・イモビライザーシステム表示灯が点滅していませんか。

イモビライザーシステムについて →62ページ

Hondaスマートキーシステム装備車

・Hondaスマートキーに異常はありませんか。

エンジン始動の作動範囲 →141ページ

・ガソリンが入っていますか。（メーター内の燃料計で確認してください。）
・バッテリーがあがっていませんか。

バッテリーあがりのとき →342ページ

●セレクトレバーがⓅから動かせない

・ブレーキペダルを踏んでから操作していますか。
（操作できないときは、キーをシフトロック解除穴に差し込み、押しながらセレクトレバーを動かしてください。）

セレクトレバーが動かないとき →174ページ

・エンジンスイッチを"II"にしてから操作していますか。

シフトロック装置の正しい理解を →25ページ

●パワーウィンドーの開閉ができない

・パワーウィンドーのメインスイッチが"OFF"になっていませんか。

パワーウインドー →56ページ

●ドアを開けるとブザーが鳴る

「ピピピピ」とブザーが繰り返し鳴り続けるときは

・キーをエンジンスイッチに差し込んだままになっていませんか。

キー抜き忘れ警告ブザー →139ページ

Hondaスマートキーシステム装備車

・エンジンスイッチノブを“0”(プッシュオフ)以外にしていませんか。

警告ブザー →144ページ

「ピー」とブザーが鳴り続けるときは

・ライトを消し忘れたままになっていませんか。

ライト消し忘れ警告ブザー →149ページ

●後席ドアが室内から開けられない

・チャイルドプルーフが施錠されていませんか。

チャイルドプルーフ →48ページ

●キーを閉じ込めてしまった

・Honda販売店またはJAFへご連絡ください。

●水温計の針が“H”の目盛に入った
●エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

・オーバーヒートのおそれがあります。
(安全な場所に停車して、エンジンを冷やしてください。)

オーバーヒートしたとき →340ページ

●走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

・ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
(Honda販売店で点検を行ってください。)

●走行中にブレーキを踏むと、ペダルが振動する

・アンチロックブレーキシステム(ABS)が作動したものと思われます。

ABSのしくみ →216ページ

●走行するとブザーが鳴る

ブザーが鳴り、シートベルト非着用警告灯が点滅しているときは

・運転席シートベルトを着用していますか。
(運転席シートベルトを着用してください。)

シートベルトリマインダー →83ページ

ブザーが鳴り、ブレーキ警告灯が点灯しているときは

・パーキングブレーキを完全に解除していますか。
(パーキングブレーキを完全に解除してください。)

パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー →163ページ

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、
Honda販売店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「サービス網一覧」
をご覧ください。

インターネットでも取扱説明情報をお伝えしております。
Digital Owner's Manual のホームページ
http://www.honda.co.jp/manual/

30SFY620
00X30-SFY-6203

Ⓞ (HC) 6